

目次

郡山市立美術館年報 平成 28 年度

目次

I 沿革・郡山市立美術館の目的と性格	2
II 展覧会事業	3
1) 常設展	4
2) 企画展	21
III 教育普及事業	53
1) アート・テーク	53
2) 講演会	54
3) 美術講座	54
4) ギャラリートーク	54
5) ワークショップ	55
6) ミュージアム・シアター	57
7) ミュージアム・コンサート	57
8) 学校との連携事業	58
9) 対外協力	58
10) 図書資料・視聴覚資料	59
11) 刊行物	59
12) 館外での活動及び関連記事	61
IV 作品収集・保存管理事業	62
1) 新収蔵作品・美術資料・寄託作品一覧	62
2) 収蔵作品貸出状況	62
3) 収蔵作品修復状況	65
V 利用者数	68
1) 展覧会	68
2) 教育普及事業	69
3) 過去 5 年間の利用者数の推移状況	69
4) 教育普及事業別参加者数の推移状況	70
VI 管理運営	71
1) 関連法規	71
2) 名簿・組織	75
3) 建築設備概要・平面図・面積表	76
4) 利用案内	80

I 沿革・郡山市立美術館の目的と性格

1981(昭和56)年9月	美術館建設懇談会設置
1982(昭和57)年2月	美術館基本構想懇話会設置
1983(昭和58)年3月	「郡山市美術館基本構想」答申
1985(昭和60)年12月	美術品取得基金条例公布・施行
1987(昭和62)年4月	美術館建設準備室設置
1987(昭和62)年6月	郡山市立美術館建設検討委員会設置
1988(昭和63)年1月	美術館建設場所決定
1989(平成元)年11月	美術館建設設計競技審査会開催
1990(平成2)年1月	収蔵美術品特別展示開催(於:郡山市民文化センター) (株)TAK建設・都市計画研究所の設計案当選(同社に設計を委託)
1990(平成2)年3月	美術館建設基本設計完了
1990(平成2)年10月	美術館建設実施設計完了
1990(平成2)年12月	美術館建設工事着工
1992(平成4)年6月	美術館建設本体工事完了
1992(平成4)年7月	郡山市立美術館条例施行 美術館建設準備室を解散して美術館としてスタート
1992(平成4)年11月	美術館建設外構工事完了 11月21日 美術館開館

郡山市立美術館は、「市民がすぐれた美術作品に接することにより美術文化に対する深い理解と親しみを持ち、より豊かな市民生活を享受できる場とするとともに、郷土ゆかりの美術作品、国際的視野と高い水準をもった美術作品及び美術資料を収集・保存・展示して市民文化の向上を図る」という構想のもとに建設が計画された。

作品の収集は、①イギリス近代美術、②日本近代美術、③郷土ゆかりの美術、④本(版)の美術という柱をもっておこなわれている。特にイギリス近代美術について、体系的に収集したコレクションはこれまでの国内の美術館においても例を見ないもので、内外の大きな評価を得ている。

今後についても、この特色あるコレクションの一層の充実を図りつつ、調査研究、展示、教育普及など多彩な活動をおこなっていく。

また郡山市街から安達太良山までを一望できる緑豊かな丘陵地の自然を背景とした恵まれた立地条件を十分に生かし、多くの方々にやすらぎを与える場とするために、整備していく。

Ⅱ 展覧会事業

1) 常設展

平成28年度 第1期 平成28年4月20日～7月18日

展示室1. イギリスの風景画

展示室2. 日本近代洋画一二つの潮流

展示室3. 秋山泰計おもしろワールド

展示室4-①木版画の魅力 4-②信仰と形

平成28年度 第2期 平成28年7月21日～10月16日

展示室1. 光を描く

展示室2. 日本の印象派とフォーヴィスム

展示室3. 郡山ゆかりの作家たち

展示室4-①コットマンの建築遺構集 4-②涼のガラス

平成28年度 第3期 平成28年10月19日～平成29年1月29日

展示室1. ヴィクトリア朝の美術

展示室2. 日本近代美術 [特集:原撫松]

展示室3. 日本画の表現

展示室4-①銅版画の魅力 4-②ガラスの美

平成28年度 第4期 平成29年2月1日～4月23日

展示室1. イギリスの人と自然

展示室2. 冬の風景

展示室3. 日本の前衛美術

展示室4-①明治の石版画 4-②用の美

雪村周継《四季山水図屏風》特別展示 平成28年12月17日～平成29年1月15日

2) 企画展

平成28年4月16日～5月29日

古民藝もりたの眼～心と記憶の形象(かたち)～

平成28年6月4日～7月24日

生誕140年 吉田博展

平成28年8月6日～9月11日

マリー・アントワネットも愛した美布 西洋更紗 トワル・ド・ジュイ展

平成28年9月17日～10月30日

もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris

平成28年11月5日～12月11日

東日本大震災復興支援 MOA美術館名品展

平成29年1月21日～3月20日

コレクション探訪 英国紳士の審美眼

1) 常設展

平成28年度 第1期 平成28年4月20日～7月18日

展示室1 イギリスの風景画

ターナーが描くまでロンドンには霧がなかった、と言ったのは、詩人オスカー・ワイルドでした。この言葉は、私たちの眼がいかにか習慣によってでしか物を見ていないことを教えてくれます。風景画を見る楽しみは、何気なく見過ごしてしまいがちな自然の本質や美しさを私たちにを見せてくれるところにあるのかもしれない。

自然の画家、コンスタブルは少年時代から過ごしていた

故郷の風景を、愛情を持って繰り返し描きました。一方、同じ風景画家ターナーは、田園に囲まれたイギリス人にとっては見たことのない風景を求めて、スイスのアルプスなど外国にも旅に出ました。

ひとえに風景画といっても、その絵に込められた画家の想いはさまざまです。画家の想いを感じながらじっくりとご鑑賞ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォア地方、サランシユ附近のアルプス溪谷		水彩・紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
トマス・ガーターン	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホワイトボディアカラー・紙
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
ジョン・ヴァーレー	ボントスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の街並	1890	水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
サー・フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 日本近代洋画一二つの潮流

明治の中頃、日本の洋画界には従来からのヨーロッパの伝統的な作風と黒田清輝がもたらした外光派風の明るい作風との二つの潮流が生じました。後者には黒田をはじめ和田英作、白滝幾之助などがいて白馬会という団体が活躍、当時のジャーナリズムからは「新派」とか「紫派」と呼ばれ、洋画壇の主流となりました。対して前者は「旧派」「脂派」と呼ばれながらも、吉田博や中川八郎らが結成した太平洋

画会の画家たちを中心におおいに気を吐きました。今回の展示では、この二つの潮流の対比をご覧いただけます。

また、6～7月に開催する企画展「吉田博展」にあわせ、吉田博の周辺にいた画家たち、特に彼が修業時代を送った画塾「不同舎」の画家たちの鉛筆写生や水彩画のコーナーを設けました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
高橋由一	風景(鳥海山)	1880代	油彩・キャンバス
百武兼行	風車のある風景	1877(明治10)	油彩・キャンバス
原 撫松	霧の広場	1906(明治39)	油彩・キャンバス
広瀬孝次	田園景色	1890(明治23)	油彩・キャンバス
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
山本芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
白滝幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス
和田英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
小林万吾	朽葉の袖	1907(明治40)	油彩・キャンバス
山本森之助	冬の磐梯山	1918(大正7)	油彩・キャンバス
中沢弘光	風景(海)	1921(大正10)	油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板

作者名	作品名	制作年	技法・材質
高村真夫	風景	1903(明治26)	油彩・キャンバス
石川寅治	房総風景	1923-4(大正12-3)	油彩・キャンバス
満谷国四郎	冬	1922(大正11)	油彩・キャンバス
大下藤次郎	蓮池		水彩・紙
五姓田芳柳(二世)	月の瀬・奥の谷		水彩・紙
丸山晚霞	少女のいる風景、春		水彩・紙
小山正太郎	庚申山、山寺	1884(明治17)頃	鉛筆・紙
鹿子木孟郎	綾瀬(スケッチ)	1893(明治26)	鉛筆・紙
河合新蔵	凌霄花のある宿場		水彩・紙
中川八郎	早春		水彩・紙
小杉未醒	日光東照宮図		水彩・紙
吉田ふじを	土間	1906(明治39)	水彩・紙
吉田ふじを	フロリダ	1906(明治39)	水彩・紙
吉田ふじを	レニヤ山		水彩・紙 (有)ヒノギャラリー寄贈

展示室3 秋山泰計おもしろワールド

白黒の反転と交錯する輪郭を駆使した画面構成によって、ユーモアとアイロニー漂う独自の表現世界を確立した版画家・秋山泰計。初期の作品《ひとり十人》や忙しく働く大工を下から見上げた《大工A》には、すでにユニークな視点が認められます。その後版画の白黒反転した色面によってかたちを描き出し、それぞれのかたちが相互に入り組んで集団を作り出す画面で、身近な風景を描いた《朝の牛市》

や《街の魚屋》などの作品、さらに生命体の集積のような《Casa de Zoomorphismo》や《夢幻》などの力強い作品を生みしました。

1970年代以降は「おびからくり」と名づけた紙の造形作品を考案し、造形デザイナーとしても活躍しました。秋山泰計オリジナルな創造世界をお楽しみください。

作品名	制作年	技法・材質
ひとり十人	1961(昭和36)	木版・紙
大工A	1963(昭和38)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
魚干し	1963(昭和38)頃	木版・紙
春宵	1968(昭和43)	木版・紙
仮面	1972(昭和47)	木版・紙
同行二人	1970(昭和45)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
同行二人	1970(昭和45)	木版・紙
同行二人(バリエーション)	1970(昭和45)	木版・紙
母子像	1973(昭和48)	木版・紙
母子像(バリエーション)	1973(昭和48)	フロッタージュ・紙 秋山照子氏寄贈
Venus(ヴァーナス)誕生	1983(昭和58)	木版・紙
筋のない話	1969(昭和44)	木版・紙
筋のない話(B)	1974(昭和49)	木版・紙／二曲一隻屏風
筋のない話(C)	1974(昭和49)	木版・紙／二曲一隻屏風
朝の牛市	1984(昭和59)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
街の魚屋	1985(昭和60)	木版・紙
Casa de Zoomorphismo	1985(昭和60)	木版・紙
夢幻	1985(昭和60)	木版・紙
おびからくり(少女⇄サルの親子)		紙、布 三木多聞氏寄贈
おびからくり(キジ⇄キツネ)		紙、布 田口安男氏寄贈
おびからくり(スイカ⇄ヘビ)		紙、布 田口安男氏寄贈
おびからくり(ウマ⇄黒カバン)		紙、布 田口安男氏寄贈

展示室4-① 木版画の魅力

日本人にとって、木版画はなじみの深い技法のひとつではないでしょうか。江戸時代の浮世絵は、絵を描き、版を彫り、紙に摺るという作業をそれぞれ分担して行っていました。それが明治・大正期になると、すべての作業を一貫して一人で手がける作家が登場し、木版画の制作は一般の人々にまで広がっていくことになったのです。

多様化する技法の中で、木を彫り、紙に摺ることによって表現する木版画は、独特の味わいがあり、あたたかさも感じさせます。紙に直接描くことでは表現できない木版画ならではの魅力をお楽しみください。

今回は、6～7月開催の企画展「吉田博展」にあわせて、吉田博とその次男、吉田穂高の作品を中心にをご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
南 薫造	浦の漁灯	1913(大正2)	木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929(昭和4)	木版・紙
恩地孝四郎	Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル“道化師の朝歌”	1933(昭和8)	木版・紙
川西 英	『サーカス』(版画荘)	1934(昭和9)	木版・紙／本
川西 英	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』(アオイ書房)	1941(昭和16)	木版・紙／本
川上澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』(アオイ書房)	1941(昭和16)	木版・紙／本
前川千帆	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』(アオイ書房)	1942(昭和17)	木版・紙／本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』(アオイ書房)	1942(昭和17)	木版・紙／本
斎藤 清	露苺る乙女	1946(昭和21)	木版・紙
斎藤 清	漁村の女	1946(昭和21)	木版・紙
斎藤 清	作品		木版・紙
福田利秋	静物	1960(昭和35)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田利秋	磐梯山	1980(昭和55)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928(昭和3)	木版・紙
吉田 博	神の島	1930(昭和5)	木版・紙
吉田穂高	野宴	1959(昭和34)	木版・紙
吉田穂高	昼の国々	1966(昭和41)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	ミニ・ランドスケープス	1972(昭和47)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより—白い家、N	1979(昭和54)	木版・紙
吉田穂高	私のコレクションより—坂道の家、P. M.	1982(昭和57)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより—白の壁	1992(平成4)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより—錆色の壁	1992(平成4)	木版、亜鉛凸版・紙

展示室4-② 信仰と形

展示された作品を鑑賞するうえで、より深く理解するヒントとなるのが信仰を示す形です。例えば、キリスト教でリンゴといえば禁断の果実、葡萄酒はキリストの血、そして羊は人類の罪を背負ったキリスト自身(あるいは、羊は信徒で羊飼いはそれを導くキリスト)、という意味があります。仏教では、郡山市出身のガラス工芸作家、佐藤潤四郎が数多く制

作した仏足跡は釈迦の足跡で、舍利器は釈迦や聖人の骨(舍利)を入れる器のことです。

今回は、このように宗教的な主題を扱った作品をご紹介します。作者の信仰を知ること、作品をより身近に感じることができるでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・エドワード・コッラー・バーンジョーンズ	『フラワー・ブック』より 白い庭 神の花 ベツレヘムの星 旅人の喜び 淋しい木陰 黄金の挨拶 家へようこそ	1905	リトグラフ・紙／ポトフェリオ
ジョン・リネル	正午(真昼の羊)	1818	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	クリスマス(最後の羊を囲う)	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	眠る羊飼いの早朝	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	囲いを開く(早朝)	1880	エッチング・紙
フレデリック・ランシーア・グッドス	聖イボリツ	1927	エッチング・紙
ジョゼフ・ウェップ	林檎の並木道	1938	エッチング・紙
エリック・ギル	聖ルカ	1922	木口木版・紙
エリック・ギル	イエズス会の殉教者	1923	木口木版・紙
エリック・ギル	ゲッセマネの園におけるキリストの苦悶	1926	木口木版・紙
エリック・ギル	磔刑	1931	木口木版・紙
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利器(試作)	1978(昭和53)	ガラス／宙吹・グラヴェール
佐藤潤四郎	舍利器(西塔型ノリエーション)		ガラス／宙吹・エッチング・グラヴェール
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利小容器(試作)		ガラス／宙吹・プランツ
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー(控)No.1	1984(昭和59)	ガラス／宙吹・プランツ、雲母封入
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(控)No.1	1980(昭和55)	ガラス／宙吹・カット
佐藤潤四郎	舍利器(玄奘三蔵院型ノリエーション)		ガラス／宙吹・カット
佐藤潤四郎	舍利器(カレット入り)		ガラス／宙吹・カレット融着
佐藤潤四郎	舍利器		ガラス／宙吹・気泡封入、プランツ
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡1		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡2		陶器 大方竜子氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡と五輪塔		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹・サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984(昭和59)頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984(昭和59)頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984(昭和59)	ガラス/エッチング、サンドブラスト	
斎藤 清	弥勒	1948(昭和23)	木版・紙	
佐藤静司	弥勒菩薩像	1978(昭和53)	ブロンズ	太田緑子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1926(昭和元)	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリストイード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石	
三坂耿一郎	女童	1974(昭和49)	ブロンズ	
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

第1期 常設展示室3



展示室1 光を描く

空気や光などを描くことは難しいものです。光といっても、たとえば陽光でも朝と昼と夜とでは違います。天候によっても大きく変わります。今回は油彩、水彩に加えて、ターナー、コンスタブル、パーマーといったイギリスを代表する作家た

ちの銅版画による光の表現もご覧いただけます。日本人彫師・漆原木虫(1889-1953)と組んだブランギンの木版画と見比べていただくと、それぞれの技法による光の表現の違いも見えてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのフレーネ・レイ(運河)		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場の恋人たち		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	橋のある風景		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのポテリエリ		木版・紙
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント・紙
サミュエル・パーマー	眠る羊飼いの早朝	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫(山々にひろがる朝)	1861以前に着手	エッチング・紙
トマス・ガーター	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	ウェイマス湾	1830	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ストーンヘンジ	1843-4頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人々、ハムステッド	1845以前	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ブライトン付近の穀物畑	1843-4頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	グローリー湾、デヴォンシャー	1824	エッチング、ラインエングレーヴィング紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	海と空の習作	1825頃	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船(ドーバー海峡)	1830	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ラインエングレーヴィング紙
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン・ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス

展示室2 日本の印象派とフォーヴィスム

印象派は色彩分割など新しい手法から自然を描く美術運動です。その後続くフォーヴィスムは日本語で「野獣派」と訳されるように、荒々しいタッチで強い色を用いて対象を表現するものでした。

明治中期以降、日本人は留学先のヨーロッパや印刷物で

そういった同時代の西洋絵画を知るようになります。歴史も社会もヨーロッパと異なる日本の西洋画家たちにとって、問題なのは西洋の影響のもとで日本人は何をどのように描くべきか、ということでした。それは結果的に、西洋画の日本化を目指すものでもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
黒田清輝	東久世伯爵肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
和田英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
白瀧幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス
山本森之助	冬の磐梯山	1918(大正7)	油彩・キャンバス
中沢弘光	風景(海)	1921(大正10)	油彩・キャンバス
中沢弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正3)	油彩・キャンバス
中沢弘光	舞妓ノ一	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
山下新太郎	苔寺	1922(大正11)頃	油彩・キャンバス
正宗得三郎	東京の郊外		油彩・キャンバス
曾宮一念	静物	1918(大正7)	油彩・キャンバス
梅原龍三郎	静物		油彩・キャンバス

武田光司コレクション寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
岸田劉生	銀座数寄屋橋	1909(明治42)頃	油彩・板	
中山 巍	花鳥B	1934(昭和9)	油彩・キャンバス	
石川寅治	房総風景	1923-24(大正12-13)頃	油彩・キャンバス	
斎藤与里	海浜秋景	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス	
満谷国四郎	冬	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
片多徳郎	残雪の庭	1925(大正14)	油彩・キャンバス	
中山 巍	赤ジレ座婦	1927(昭和2)	油彩・キャンバス	
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス	
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス	
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス	
中川紀元	赤い下着	1920(大正9)	油彩・キャンバス	(株)興新産業寄贈

展示室3 郡山ゆかりの作家たち

当館の収集の柱のひとつとなっている、郡山とその周辺にゆかりのある作家たちを特集します。ふるさとの情景を描いた作家たち、県内外で活動をし、郷土の美術の発展に尽力した作家たち、また、海外に渡って活躍した作家たち。彼らの多彩な作品の数々をお楽しみください。

福島県という風土の中で育まれた彼らの作品からは、豊かな情景、人や生活を見つめる作者のまなざしが感じられるでしょう。表現の方法はそれぞれですが、彼らが持つふるさとのイメージが、創造の根源ともなっているのかもしれない。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
土橋 醇	小さな村	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
吉井 忠	敗れたる風景	1946(昭和21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
佐藤昭一	夏季休業(ガラス工場にて)	1953(昭和28)	油彩・紙	
青津清喜	窓際	1950(昭和25)	油彩・キャンバス	
水田荘介	横たわる裸婦	1953(昭和28)	油彩・キャンバス	
安藤重春	雨の華	1979(昭和54)	岩絵具・紙	
安藤重春	レッスン	1977(昭和52)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
鎌田正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場	1947(昭和22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場・小名浜	1947(昭和22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	シリーズ人間-Sさんのトマト-	1979(昭和54)頃	油彩・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
佐藤昭一	シリーズ透過-再生-	1995(平成7)	アクリル、コンテ、和紙・板	佐藤昭一氏寄贈
芳賀忠行	虚構の風景-城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス	
黒沢吉蔵	河の附近の風景	1956(昭和31)	岩絵具、箔・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
佐藤潤四郎	トリオ・ザ・ガラスの神様		ドローイング	佐藤久枝氏寄贈
岩谷 徹	夏の思い出	1976(昭和51)	メグチント・紙	
岩谷 徹	月の森	1982(昭和57)	メグチント・紙	
安部直人	25の球態	1994(平成6)	エッチング、メグチント・紙	
安部直人	ほおずきVI	2000(平成12)	エッチング、メグチント・紙	
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
佐藤静司	春の音	1979(昭和54)	木	佐藤静司氏寄贈
折笠兆春	永遠の空	1996(平成7)	乾漆	折笠兆春氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車		金工(鍛鉄)	大方竜子氏寄贈

展示室4-① コットマンの建築遺構集

ジョン・セル・コットマンはノーフォークのノリッジに生まれ、ロンドンでターナーやガーティンも通ったトマス・モンロー博士のもとで絵を学びます。帰郷後は、設立されたばかりのノリッジ美術家協会を中心となって活躍しました。

生涯大掛かりなスケッチ旅行を何度も行い、1817年、18年、

20年にはフランスのノルマンディー地方を訪れ、1810年代後半から1820年代前半にかけて、ノーフォークやノルマンディーの建築遺構を主題に優れたエッチング集を発行しました。整然と抑制された上品な構成と詩的な解釈を組み合わせた表現から、「ロマン主義的な古典主義者」と称されました。

作品名	制作年	技法・材質
『ジョン・セル・コットマンのエッチング集』より タイトルページ H.C.インゲルフィールド卿への献辞 リヴォース修道院,ヨーク バイランド修道院の西面,ヨークシャー リヴォース修道院,ヨーク イエール川の土手に建つガーデンハウス イーズビー修道院,ヨークシャー クロイランド修道院,リンカンシャー	1811年	エッチング／ポートフォリオ
『ノーフォーク州のノルマン様式とゴシック様式の建築遺構集』より アーミンホール北口の マンダム教会の南口 ヴァステッド教会北口 イースト・ディアラム教会の南側ポーチ セント・ポール教会のスクリーン ノース・クリーク教会の北アイル(側廊)のスクリーン (ブルーフ) ヴォルスオーカン教会のスクリーン(内陣仕切り) アクレ教会のスクリーン フィンチャム教会のサクソン式礼拝盤 グレート・シュノーイング教会の石造ストール(聖職者席)と手洗い盤 ライジング城教会の洗礼盤の立面図		エッチング／ポートフォリオ
『ノーフォーク建築遺構のエッチング集』より ウォルジンガム大聖堂の門 ウォルジンガム大聖堂の洗礼盤 ウォルジンガム大聖堂の食堂の一部 ビナム小修道院の西正面 ビナム小修道院の南正面 バーシャム・ハウスの東部 バーシャム・ハウスの東部 主教官邸の門,ノリッジ カーンの聖トリニティー大寺院,クリプト エイカー城小修道院	1818年	エッチング／ポートフォリオ エッチング エッチング エッチング

展示室4-② 新収蔵品:佐藤潤四郎のデッサン

夏の暑さを凌ぐために、ガラスの器を使って目で涼を楽しむ…昔ながらの知恵のひとつです。飲み物や果物、野菜などもガラスの器を使うことで涼しげに感じられます。

今回はガラスの作品によって、そんな涼感を楽しんでいただきたいと思います。当館の工芸コレクションの主要作家である佐藤潤四郎(1907-1988)とクリストファー・ドレッサー

(1834-1904)。時代も国も異なるふたりの工芸デザイナーの作品から、ガラスの作品をご紹介します。どんな使い方をするか、何を入れるか等、想像しながらご覧ください。ガラスの涼感とともに、作品をより身近に感じてお楽しみいただけることでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	ガラス／宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(オレンジ)	1973-6(昭和48-51)頃	ガラス／宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(ブルー)	1973-6(昭和48-51)頃	ガラス／宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	クリスタル六角鉢		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス／宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	ボウル(グリーン)		ガラス／宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	皿(グリーン)		ガラス／宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス／型押し	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹・カット	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・好きな形		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	フンペングラス	1975(昭和50)頃	ガラス／宙吹	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー(5点)		ガラス／型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル制作	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス／宙吹	川崎清氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(淡緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(赤色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(茶色クルーサ・グラス)		ガラス	製作ジェイムス・ターバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ	製作ビュキーン&ヒース社
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手	製作ビュキーン&ヒース社

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1926(昭和元)	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリストテイド・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

第2期 常設展示室2



展示室1 ヴィクトリア朝の美術

19世紀後半のヴィクトリア朝のイギリス美術には、全盛期を迎えた近代イギリスの社会状況が色濃く反映されています。世界的な繁栄の陰で、イギリス国内では都市部を中心に公害や貧困などの社会問題が生じ、人々の間にある種の閉塞感が蔓延していました。

そうした中で当時の美術家たちは、ギリシャ・ローマなどの

古典芸術や文学作品、東洋世界などに憧憬と関心を高め、創作の源泉としました。彼らは現実と夢を紡ぐ豊かな想像力を発揮する一方で、装飾性や審美性に特化した表現を追求しています。それは物質社会への内なる警鐘であるのと同時に、20世紀に花開く前衛的な造形表現の胎動でもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●ヴィクトリア朝の美術			
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコボ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
サー・エドワード・コリーバーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリーバーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリーバーン＝ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク・墨・紙
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914頃	油彩・キャンバス
アルバート・グッドウィン	エンゲルベルク		ペン、水彩・紙
サー・エドワード・コリーバーン＝ジョーンズ	『フラワー・ブック』より		
	『霧の中の愛』『グレイスの鏡』『天の梯子』『目覚めて、愛いんよ』	1905刊	リトグラフ・紙／ポートフォリオ
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵 プルーフ版)	1893	ライン・ブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『イエロー・ブック』第5巻表紙デザイン プルーフ版	1895	『ステューディオ』創刊号 ライン・ブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	T.マロリー『アーサー王の死』	1893-94	ライン・ブロック・紙／本
サー・エドワード・コリーバーン＝ジョーンズ(画)	J.O.ハルウェル編『ウェールズのバーンヴァル卿』	1895	木口木版・紙／本
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	早朝	1878	リトセント・紙
●イギリス近代美術			
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778-82	水彩、ペン、インク・紙
ピーター・デ・ヴィント	ウィットビー		水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ウィリアム・ブレイク	眠るダンカン王に近づくマクベス夫人		水彩、インク・紙
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス

佐藤克也氏寄贈

展示室2 日本近代美術 [特集：原 撫松]

原撫松(はら・ぶしょう、本名は熊太郎：1866-1912)は岡山藩士の長男として現在の岡山市に生まれました。画家を志し京都府画学校に入学、卒業後も絵画研究を続け、上京後は伊藤博文など各界名士の肖像画をてがけて名声を築きました。38歳の時にイギリスに渡り、ナショナル・ギャラリー等でレンブラン

トをはじめとする巨匠たちの作品模写に励み、伝統的な油彩技法を身につけます。3年後に帰国しますが、その直後から体調を崩し、病氣療養の甲斐もなく46歳でその生涯を閉じました。

今回は、明治期に本格的な油彩技法を修得した知られざる画家、原撫松の作品を紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原 撫松	みかん	1892(明治25)	水彩・紙
原 撫松	蝸牛とトンボ	1893(明治26)	水彩・紙
原 撫松	菊	1892-4(明治25-27)	水彩、鉛筆・紙
原 撫松	横山孫一郎像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
原 撫松	横山勇子像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
原 撫松	地中海風景	1904(明治37)	水彩、鉛筆・紙
原 撫松	スード	1906(明治39)	水彩、パステル・紙
原 撫松	霧の広場	1906(明治39)	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
原 撫松	牧野義雄像	1904-7(明治37-40)	水彩・紙	
原 撫松	牧野義雄像	1904-7(明治37-40)	鉛筆・紙	
原 撫松	アルバートメモリアル	1906-7(明治39-40)	水彩・紙	
原 撫松	ハンブトンコート	1906-7(明治39-40)	鉛筆・紙	
原 撫松	婦人像	1906-7(明治39-40)	水彩・紙	
原 撫松	婦人像	1906-7(明治39-40)頃	油彩・キャンバス	
原 撫松	日本髪的女性肖像	1910(明治43)頃	油彩・キャンバス	
原 撫松	奈良の夕	1911(明治44)	油彩・キャンバス	
原 撫松	日本髪の若い女性像		油彩・キャンバス	
原 撫松	日本髪 of 若い女性像		水彩・紙	
原 撫松	自画像		水彩・紙	
原 撫松	鯉を見る少女		水彩・紙	原優子氏寄贈
原 撫松	包丁		水彩・紙	原優子氏寄贈
原 撫松	桔梗		水彩、鉛筆・紙	原優子氏寄贈
原 撫松	木春菊		水彩、鉛筆・紙	原優子氏寄贈
原 撫松	西洋紳士像		鉛筆・紙	原優子氏寄贈
牧野義雄	夜のリージェントパーク	1928(昭和3)	油彩・キャンバス	
牧野義雄	日本大使館から見たロンドン襲撃	1940(昭和15)	油彩・キャンバス	
牧野義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンバス	

展示室3 日本画の表現

“日本画”という語は、西洋から輸入した技法を用いた“洋画”という語の対語として明治時代に生まれました。一般的には洋画誕生後の明治以降、日本の伝統的な技法に則った絵画を指します。岩絵具という顔料を膠と水で混ぜ、絹や紙を支持体とするのが主な特徴です。

近年は素材や題材も多様化しており、同じ岩絵具を画材としていても、屏風や掛軸、また紙やキャンバスに描かれ額装されたものなど、形態によって全く雰囲気が異なります。今回は、明治から昭和期の作品を展示します。様々な表現方法をお楽しみいただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
小坂象堂	釈迦と賤婦之図	1895-99(明治28-32)頃	岩絵具・絹／軸	
梶田半古	蝶	1907-12(明治40年代)	岩絵具・絹／二曲一隻屏風	
玉村方久斗	松に鳩	1924(大正13)	岩絵具・紙／軸	
玉村方久斗	紅梅・菊	1924(大正13)	岩絵具・紙／対幅	
安藤重春	犬声		岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	虫	1990(平成2)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	皎	1987(昭和62)頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
黒沢吉蔵	晩秋の山河	1975(昭和50)	岩絵具・紙	
黒沢吉蔵	冬	1964(昭和39)	岩絵具・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
常盤大空	古代頌	1960(昭和35)	岩絵具・紙(2点組)	常盤房子氏寄贈
菊地養之助	雪野	1976(昭和51)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈
菊地養之助	家族	1957(昭和32)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈

展示室4-① 銅版画の魅力

日本の作家による銅版画の魅力をご紹介します。

もともと銅版画の技法は、中世にヨーロッパで発明されました。その後、キリスト教の伝来とともに、日本にも伝わりました。日本では浮世絵など木版画の伝統がありましたが、江戸時代後期から明治時代になってから、国内でも銅版画が本格的に制作されるようになりました。

日本の銅版画の歴史のなかでは、福島県須賀川市出身の重

欧堂田善(1748-1822)は重要な作家です。田善は、銅版画のもつ精巧で細かい描写ができる特性を活かし、地図を製作しました。

第二次大戦後になると芸術表現が一挙に豊かになっていきます。長谷川潔(1891-1980)は、メゾチントの技法を独学で発展させました。また、駒井哲郎(1920-1976)は、エッチング、メゾチント、アクアチントなど多様な技法を駆使して、夢と現実が交差したような独特の世界を創造しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
亜欧堂田善	『新鑄総界全図 付・日本辺界略図』	1809(文化6)	エッチング・紙／卷子
亜欧堂田善	『和蘭内景 尺範提綱 付内象銅版圖』(扉絵:新井令恭)	1808(文化5)	銅版・紙／本
石田有年	大和国豊山長谷寺眞圖	1880(明治13)	銅版・紙
石田有年	官幣春日大社御神楽之圖	1891(明治24)	銅版・紙
石田有年	『京都名所五十景』のうち 洛西嵐山景	1890(明治23)	銅版・紙
結城正明	ヒポクラテス像	1877(明治10)	銅版・紙／軸 新村淳庵(蔵版・発行)
結城正明	大日本帝国両陛下御尊影	明治10年代頃	銅版・紙
松田緑山	「大日本政府 舊公債証書」金三百圓	1872(明治5)	銅版緑刷・紙
松田緑山	東京佃嶋遠望商船入津川蒸気出帆之圖		銅版・紙
松田緑山	音羽山清水寺之春細図		銅版・紙
岸田劉生	天地創造(3点組) 1怒れるアダム 2欲望 3石を噛む人	1914(大正3)	エッチング・紙
間部時雄	風景	1923(大正12)頃	エッチング・紙
渡辺光徳	すか川なべし橋	1925(大正14)	エッチング・紙
竹腰建造	伊庭貞剛像		エッチング・紙
長谷川潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙
松田義之	樹蔭	1937(昭和12)	エッチング・紙
有島生馬	ハノヴァイン祭(ハロウィン)	1936(昭和11)	エッチング・紙
木下孝則	読書	1938(昭和13)	エッチング・紙
安井曾太郎	鏡	1938(昭和13)	エッチング・紙
駒井哲郎	鳥と果実(小)	1959(昭和34)	エッチング、アクアチント・紙
駒井哲郎	花とレモン	1974(昭和49)頃	モノタイプ・紙
斎藤寿一	青の中の風	1968(昭和43)	ディープエッチング、グラインダー・紙
加納光於	隣と花と	1961(昭和36)	エッチング・紙
池田満寿夫	生徒の名はイヴ	1963(昭和38)	ドライポイント、ルーレット・紙
北川民次	メキシコの恋人たち	1970(昭和45)	エッチング・紙
中林忠良	Position '80・腐食Ⅲ	1980(昭和55)	エッチング、アクアチント・紙

展示室4-② ガラスの美

郡山市出身のガラス工芸家・ガラスデザイナー、佐藤潤四郎。彼の生み出す作品は、どれもどこかあたたかな雰囲気を持っています。ガラスは、そのシャープな輝きや透明感から、冷たいイメージのある素材かもしれませんが、潤四郎の作品が私たちにあたたかな印象を与えるのは、そのかたがちが大きく影響しているといえるでしょう。柔らかな曲線、揺らぎには親しみやす

さがあり、手になじむかたちには、潤四郎の、そのガラスを使う人への優しい気持ちが表れているかのようです。

そんな温もりあるかたちと様々な装飾が響きあう、美しいガラスの世界をご堪能ください。今回は、潤四郎とともに活躍した吉田丈夫の作品もあわせて展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤潤四郎	窯場の朝(ルツボの中)		水彩・紙
佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯		ガラス、鉄
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和61)	ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	舍利器(カレット入り)		ガラス／宙吹・カレット融着
佐藤潤四郎	舍利器		ガラス／宙吹・プランツ・気泡封入
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹・プランツ
佐藤潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス／型押し
佐藤潤四郎	水指(プランツ)	1986(昭和61)	ガラス／型吹・プランツ
佐藤潤四郎	ルーマー杯(グリーン)		ガラス／宙吹・プランツ
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹・カレット封入
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス／宙吹・エッチング、カット
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	皿(グリーン)		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	花器・灯もつけて	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	花器(グリーン)		ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込

石川和子氏・長谷川貴子氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス／宙吹、サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・象形文字(羊)	1984(昭和59)	放射能遮蔽ガラス／サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス／宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス／型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹・カット	
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	硯屏・いのしし	1966(昭和41)頃	ガラス／サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ベガサス		ガラス／サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	硝子の女神	1982(昭和57)	ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス／宙吹・金彩	田淵十一氏寄贈
(資料)	「硯屏・いのしし」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	「ペーパーウエイト・ベガサス」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	「硯屏・ガラスの神様」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	複製「硯屏・ガラスの神様」(木村四郎による複製)		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1926(昭和元)	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

第3期 常設展示室4-①



展示室1 イギリスの人と自然

イギリスの画家たちは、人々の生活を取り囲む自然を様々な切り口で表してきました。イギリス風景画の巨匠、コンスタブルは愛着を込めて地元のどかな風景を描き、ターナーは“崇高”という概念の下に自然と人間の関係を壮大な構図で描き出しています。ノーフォークのノリッジには、田舎の風景を求めて多くの画家が集い、ノリッジ派を形成しました。また、文学と相互

に影響しあって生まれた風景画は幻想的な魅力を湛えています。

18-19世紀のイギリス画家が風景を描く動機は、現在の私たちの感覚とは異なっていますが、そのまなざしには共感できることも多くあるでしょう。人と自然の普遍的な関係を感じて、私たちの周囲の自然への思いを新たにいただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790年代初頭	水彩・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790年代	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジュリアス・シーザー・イベットソン	人物の描かれた農家風景		アクアチント・紙
ジュリアス・シーザー・イベットソン	旅するジブシーたち		アクアチント・紙
ジョン・コンスタブル	『イングランドの風景』より 「夏の朝」「水車小屋」	1830-2	メゾチント紙/ポトフリオ
サミュエル・ブラウト	『コテージと田園風景の習作』	1816	ワグラーデエチング紙/ポトフリオ
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ボワボディカラー紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	牧草地から仰ぎ見る城(オークハンプトン)	1808	エッチング、アクアチント紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント紙
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫(山々に広がる朝)	1861以前に着手	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	疲れ果てた農夫(牧夫またはタードゥス・ブルクス)	1858	エッチング・紙
M.B.フォスター(画) デイエル兄弟(刻)	J.モンゴメリ『詩集』挿絵	1860	木口木版・紙
M.B.フォスター(画) デイエル兄弟(刻)	岩の多い海岸と荒海に浮かぶ船		木口木版・紙
M.B.フォスター(画) デイエル兄弟(刻)	頭文字を木に刻む羊飼いのいる風景		木口木版・紙
M.B.フォスター(画) デイエル兄弟(刻)	釣りをする子供のいる風景		木口木版・紙
M.B.フォスター(画) デイエル兄弟(刻)	『イギリス風景画集』	1863	木口木版・紙/本
ジョン・セル・コットマン	『リベラスラデオールム(研鑽の書)にスケッチと習作集』	1838	エチング、ワグラーデエチング紙/本
サミュエル・デイヴィッド・コルケット	ジブシーの野営	1822頃	エッチング・紙
ジョゼフ・スタナード	トロウズにて、ノリッジ		エッチング・紙
ジェームズ・スターク	樹々とコテージ	1822頃	エッチング・紙
ジョン・クローム	『ウグライジクにて』『草ぶき納屋のある田舎道』『スカウトにて』		エッチング・紙
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
サー・フランシス・セイモア・ヘイデン	テスト川沿い	1859	エッチング、ドライポイント紙
サー・フランシス・セイモア・ヘイデン	シア・ミル池 No.2	1860以後	エッチング、ドライポイント紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 冬の風景

日本人は古より自然を愛し、描いてきました。紀元前からの中国の伝統を継承し発展した山水画は、霊的な仙境である山岳や川の自然表現を主題とし、室町時代には、雪舟などによって水墨による表現が成立しました。

明治時代に入ると、気象学、地質学など科学的な視点から自然を眺める近代的な自然観が確立し、「風景」という言

葉が広く使われるようになりました。画家たちは、自然が見せる様々な表情に関心を持ち、絵に描いてきました。ここでは、冬の風景にテーマを絞って近代の風景画を特集します。

今回は、明治から昭和にかけて風景画家の第一人者として活躍した吉田博(1876 - 1950)の作品もあわせて展示いたします。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
百武兼行 亀井竹二郎	風車のある風景 (石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画)より 「神奈川驛」「品川驛 自濱川上流望海面」	1877(明治10)	油彩・キャンバス
河合新蔵	武州五日市の雪景	1878(明治11)頃	油彩・紙
中川八郎	早春		水彩・紙
彭城貞徳	雪景色		水彩・紙
大下藤次郎	春雪の茶店		水彩・紙
小寺健吉	飯坂温泉		水彩・紙
満谷国四郎	冬	1922(大正11)	油彩・キャンバス
山本森之助	冬の磐梯山	1918(大正7)	油彩・キャンバス
内田 巖	佃風景	1928(昭和3)	油彩・キャンバス
南 薫造	雪のニコライ堂		油彩・スケッチボード
南 薫造	雪の日の東京	1933(昭和8)	油彩・スケッチボード
中川一政	冬の郊外(葱畑)	1918(大正7)頃	油彩・キャンバス
片多徳郎	残雪の庭	1925(大正14)	油彩・キャンバス
中西利雄	ヴァンスの雪	1929(昭和4)	水彩・紙
吉田 博	積み藁のある風景		水彩・紙
吉田 博	風景		水彩・紙
吉田 博	村里の子供たち(岩戸)		水彩・紙
吉田 博	神の島	1930(昭和5)	木版・紙

展示室3 日本の前衛美術

昭和前期、シュルレアリスム(超現実主義)と抽象絵画という20世紀にヨーロッパで誕生した新しい芸術運動が日本に紹介されました。若い芸術家たちは、これらの芸術運動に敏感に反応して、次々に新しい実験と創造を繰り返しました。

戦後の日本美術は、戦前から活躍していた彼らを中心に再出発します。美術も本格的に国際化の時代になり、表現方法の上でもさまざまな試みが行われました。1950年代後半には日本においてアンフォルメル旋風が巻き起こり、その力強い特異な表現は注目を集めました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
鎌田正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
早瀬龍江	營	1940(昭和15)	油彩・キャンバス	
白木正一	虫囊	1948(昭和23)	油彩・キャンバス	
杉全 直	ふたりの肖像	1949(昭和24)	油彩・キャンバス	
尾藤 豊	川口鋳物	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	
勝呂 忠	渾沌	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	
中村 宏	射殺 Aching	1957(昭和32)	油彩・キャンバス	
山下菊二	顔の中の顔	1963(昭和38)	油彩、コラージュ・キャンバス	
難波田龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	
村井正誠	いそぐ人	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	
今井俊満	コンポジション23	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	
堂本尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962(昭和37)	油彩・キャンバス	
佐藤 敬	石の対話	1958(昭和33)	油彩・キャンバス	
菅井 汲	黒	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	
佐藤昭一	作品61	1961(昭和36)	油彩、パテ・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
土橋 醇	星雲	1963(昭和38)	油彩・キャンバス	

展示室4-① 明治の石版画

18世紀末にヨーロッパで発明された石版画技法が幕末に日本に伝わると、明治政府は石版画によって正倉院や伊勢神宮に伝わる御物などを記録しました。それに対して民間では、銅版画から出発した玄々堂などが西洋画家・亀井至一らとともに、

記録はもちろん、書物の挿絵などで積極的に石版画を制作していきました。それまでの木版画や銅版画などよりも陰影をつけやすいことから、写真や西洋画家たちが描いた原画をもとにしたものも多く、たいへんな人気を誇りました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
	『聖教初学要理』(大日本司教ブティジャン編)	1875(明治8)頃刊	石版・紙／本
	『大日本貨幣精図』	1878(明治11)刊	多色刷石版・紙／本
	『国華余芳 正倉院御物』	1880(明治13)刊	多色刷石版・紙／本
	『国華余芳 伊勢内外神宝之部』	1880(明治13)刊	多色刷石版・紙／本
	『朝陽閣鑑賞 錦繡之部』	1883(明治16)刊	多色刷石版・紙／本
	『波間の錦』	1883(明治16)刊	多色刷石版・紙／本
亀井至一(画作)	『観古図説 陶器之部四』(蜷川式胤発行)	1877(明治10)刊	石版・手彩色・紙／本
下国巖之助(画作)	『観古図説 陶器之部五』(蜷川式胤発行)	1877(明治10)刊	石版・手彩色・紙／本
亀井至一	東京隅田堤之景	1882(明治15)	石版・紙
亀井至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版・手彩色・紙
守住勇魚	住吉神社之真景	1879(明治12)頃	石版・紙
疋田敬蔵	北海道小樽港有幌之景	1881(明治14)	石版・紙
	『佳人之奇遇』初編巻二(東海散士著 博文館刊)	1885(明治18)刊(初版) 1886(明治19)刊(再版)	石版・紙／本
生巧館	元旦譜(『毎日新聞』明治23年1月1日号付録)	1890(明治23)	石版・紙
原田直次郎	恭賀新年 大江山鬼峠道行之図(『国民新聞』明治24年1月1日号付録)	1891(明治24)	石版・紙
亀井至一	美人(『時事新報』明治27年9月5日号付録)	1894(明治27)	石版・紙
岡村政子(推定)	愛犬と少女(『時事新報』明治31年1月1日号付録)	1898(明治31)	石版・紙
北澤楽天	やまとひめとアタニヤ(『時事新報』明治35年6月26日号付録)	1902(明治35)	石版・紙
和田英作	こだま(『時事新報』明治37年1月1日号付録)	1904(明治37)	石版・紙
岡田三郎助	ゆびわ(『大阪時事新報』明治41年1月1日号付録)	1908(明治41)	石版・紙
和田英作	昭憲皇太后(『大阪朝日新聞』明治44年5月28日号付録)	1911(明治44)	石版・紙
矢島智三郎	貴顯令嬢	1888(明治21)	石版・手彩色・紙
渡辺忠久	美人花見之図	1888(明治21)	石版・手彩色・紙
辻井弥三郎	校書髪ヲ洗図	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
荒川藤兵衛	今小町	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
藪崎芳次郎	愛犬之図	1888(明治21)	石版・手彩色・紙
杉山清三郎	柳橋名妓	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
勝山繁太郎/矢島智三郎	都之花	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
平澤源八	貴顯之令嬢	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
浅間利恵子	新吉原名妓喜代	1882(明治15)	石版・紙
岡村政子	きよひめ	1888(明治21)	石版・手彩色・紙
岡村政子	牛若丸	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
岡村政子	梅若丸	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
岡村政子	親愛ノ姉稚児喜ビノ図	1888(明治21)	石版・手彩色・紙
岡村政子	仙女伏姫幽窟において読経の図	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
岡村政子	みなつる姫	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
岡村政子	忠臣義士	1891(明治24)	石版・紙
床次正精	西郷隆盛肖像	1887(明治20)	石版・紙

松本倫子氏寄贈

展示室4-② 用の美

生活に深くかわる器や道具類は、私たちの日々の暮らしを豊かに彩る役割も担っています。すぐれた工芸作品は、実用性だけではなく目をたのしませ、心に響くような色やかたちを備えています。こうした作品は、デザイン性と良質な素材、作り手のたしかな技や

機能美が調和していると言えるでしょう。

今回は、郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎の作品を中心に「用の美」をテーマに展示します。ガラスの花器や陶の茶碗など、透明感とあたたかみを生かした魅力ある作品をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器		ガラス、鉄／鍛鉄吹込・雲母封入	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器(顔)	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和61)	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	皿(グリーン)		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯(グリーン)		ガラス／宙吹・プランツ	石川和子氏・長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス／型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	「スーパーニッカ」手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス／宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	ウイスキーボトル「インベリアル」	1962(昭和37)頃	ガラス／機械製産	サントリー(株)提供
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス／型押し	
佐藤潤四郎	フンベングラス	1975(昭和50)頃	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	花器(カットグラス)	1986(昭和61)	ガラス／宙吹・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	水指(カットグラス)	1986(昭和61)	ガラス／型吹・カット	
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス／宙吹、サンドブラスト	(株)リタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス／宙吹、サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ペガサス		ガラス／サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちよっと考えた	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹・カット	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス／宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス／宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	花器(雲母入り)		ガラス／型吹・雲母封入	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961(昭和36)	磁器	
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
浜田庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	
浜田庄司	黒釉鎊流描角皿		陶器	
田村耕一	野草図楕円鉢	1963(昭和38)頃	陶器	麻山富義氏寄贈
三輪休雪(11代)	白萩茶碗	大正-昭和	陶器	渡辺宗侑氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
高田博厚	アラン像	1932(昭和7)	ブロンズ	
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩	
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント	
植木 茂	体		木	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

第4期 常設展示室1



雪村周継《四季山水図屏風》特別展示 平成28年12月17日～平成29年1月15日

企画展示室1

作者名	作品名	制作年	技法・材質
雪村周継	四季山水図屏風	16世紀後半	墨・紙／六曲一双

2) 企画展

古民藝もりたの眼～心と記憶の形象【かたち】～

会 期：2016(平成28)年4月16日(土)～5月29日(日)
主 催：郡山市立美術館
協 力：古民藝もりた、株式会社青幻舎、永井正子、
高安和実、国際基督大学博物館湯浅八郎記念館
観 覧 料：一般800(640)円 高校・大学生500(400)円
()内は20名以上の団体料金

趣 旨

「骨董商」森田直は、1970(昭和45)年、南青山に「古民藝もりた」を開店、今日に至る。

民藝の影響を受けながらも、より広く軽やかに物を見つめ、その魅力を発見し、選び出す眼は、森田ならではのものといえよう。

眼がよるこぶ、気持が弾む、ちょっと古くて不思議なモノたち。古今東西、誰にも知られないでいる価値を見いだすモノへの愛情。

時代を先取りしてきた森田のセンスが、静かに密かにずっと、多くの人生と暮らしに及ぼしてきた影響は、実は計り知れない。

森田の眼が今改めて注目されている。

関連行事

○講演会

「モノとの出会い」

講師：森田直氏(「古民藝もりた」店主)

聞き手：佐治ゆかり(当館館長)

日時：平成28年4月23日(土)午後2時から

場所：多目的スタジオ

○特別ギャラリートーク

講師：森田直氏(「古民藝もりた」店主)

日時：平成28年5月14日(土)午後2時から

場所：企画展示室

○ギャラリートーク

講師：佐治ゆかり(当館館長)

日時：平成28年5月21日(土)午後2時から

場所：企画展示室

○ミュージアム・シアター

「時代屋の女房」(1983年、森崎東監督)

日時：平成28年5月7日(土)午後2時から

場所：多目的スタジオ

発行物

小冊子『古民藝もりたの眼～心と記憶の形象(かたち)～』

210×148mm 32ページ

協力：古民藝もりた、株式会社青幻舎、永井正子、高安和実、

国際基督大学博物館湯浅八郎記念館

写真提供：高安和実、株式会社青幻舎

編集：佐治ゆかり(郡山市立美術館)

デザイン：浜津みゆき(株式会社イマジメント)

印刷：不二印刷株式会社

発行：郡山市立美術館

内容：佐治ゆかり「古民藝もりたの眼」展覧会に際して／森田直「古民藝もりた」の遍歴／森田直プロフィール／図版(素材の形象【かたち】、暮らしの形象【かたち】、心の形象【かたち】)



ポスター



小冊子

関連記事

佐治ゆかり「骨董の魅力と出会う」、『福島民友』平成28年4月4日付。

「木彫や平白、逸品紹介」、『福島民友』平成28年4月19日付。

「昔懐かしい逸品展示」、『福島民友』平成28年5月4日付。



特別ギャラリートーク（平成28年5月14日）

出品目録

No	作品名	地域／産地	年代
1	古民藝もりた看板		
2	車箆筒	米沢	江戸末期
3	平臼	飛騨高山	明治
4	醤油屋の看板	日本	江戸後期
5	両替商の看板	日本	江戸末期
6	木製大盆	フィリピン・ルソン島	20世紀初頭
7	木製鉢	フィリピン・ルソン島	20世紀初頭
8	木製カウベル	インドネシア	20世紀初頭
9	かけざ	飛騨高山	昭和
10	かけざ	飛騨高山	昭和
11	空鈎 恵比寿	飛騨高山	明治
12	一木の欵	飛騨高山	昭和
13	藁靴木型	日本	大正
14	蚊帳用麻反物	日本	大正～昭和初
15	科(楯)布 反物	日本	大正～昭和
16	科(楯)布 反物	日本	大正～昭和
17	科(楯)布 反物	日本	大正～昭和
18	大つづれ白反物	日本	明治末期
19	麻反物	日本	大正
20	藍染大つづれ反物	日本	明治末期
21	紅花染真岡木綿(絞)反物	日本	大正
22	紅花染麻無地反物	日本	大正
23	木綿地樺	日本	江戸
24	残糸織夜具地	日本	大正
25	残糸織夜具地	日本	大正
26	残糸織夜具地	日本	大正
27	布編み込み草鞋	日本	江戸末期～明治
28	布編み込み草鞋	日本	江戸末期～明治
29	布編み込み草鞋	日本	江戸末期～明治
30	布編み込み草鞋	日本	江戸末期～明治
31	色糸入草鞋	日本	江戸末期～明治
32	布編み込み草鞋	日本	江戸末期～明治
33	大つづれ藍染仕事着(どんざ)	日本	明治
34	麻振り織法衣	日本	江戸末期
35	木綿白鳥織男着物	日本	大正
36	裂織仕事着	日本	明治
37	裂織仕事着	日本	明治末期
38	残糸織夜具地	日本	大正
39	残糸織敷布団	日本	大正
40	残糸織布団皮	日本	大正
41	残糸織格子文様夜具地	日本	大正
42	残糸織夜具地	日本	大正
43	ボロ夜着	日本	大正
44	ボロ布団皮	日本	大正
45	寄せ裂袋各種	日本	明治
46	手描更紗	インド	18世紀
47	インド茜染木綿反物	インドネシア	18世紀末～19世紀初
48	インド茜染木綿反物	インドネシア	18世紀末～19世紀初
49	天蓋用更紗	インド	17世紀
50	茜更紗帯	インドネシア	18世紀
51	手描更紗	インド	17世紀
52	更紗千継ぎ上着	インドネシア	19世紀
53	カンタ 生命の木文様	インド	20世紀
54	カンタ 躍る女たちにベイズリー文様	インド	20世紀
55	カンタ 風車文様	インド	20世紀
56	カンタ	インド	20世紀
57	カンタ 点文様	インド	20世紀
58	カンタ	インド	20世紀
59	カンタ 段文様	インド	20世紀
60	カンタ	インド	20世紀
61	松材楕円形盆	日本	明治
62	波兎文様木彫	日本	幕末～明治
63	白木の碁石箱	日本	昭和
64	拍子木	日本	1866(慶応2)
65	蕪文様菓子型	日本	明治
66	板締め版木	日本	明治
67	狐文様木彫	インドネシア	20世紀
68	木製蓋付き箱	フィリピン・ルソン島	20世紀初
69	木製ヘルメット	フィリピン・ルソン島	20世紀初
70	木彫面取手付カップ	インドネシア	20世紀

No.	作品名	地域／産地	年代
71	スパイスボックス	インドネシア・ジャワ島東部	20世紀
72	まな板	韓国	20世紀
73	トンケ(貴重品箱)	朝鮮	20世紀
74	木皿(二点)	韓国	19世紀
75	薬製盆	朝鮮	20世紀
76	反故紙ののれん	日本	明治
77	紙子布団	日本	明治
78	型染白石紙子羽織	日本	昭和
79	女持腰差紙製たばこ入れ	日本	江戸末期～明治
80	型染紙子羽織下	日本	明治
81	紙縫製子供草履	日本	明治?
82	紙縫の皿(三点)	韓国	19世紀
83	紙縫紐	韓国	20世紀
84	南蛮縄すだれ筒	ベトナム・安南	16～17世紀
85	南蛮縄すだれ水指	ベトナム・安南	16～17世紀
86	ガラス製碍子	アメリカ	20世紀
87	洋梨飾り付きガラス瓶	ルーマニア	19世紀
88	鍛鉄製鎖	日本	明治
89	鉄製鍵	トルコ・イスタンブール	19世紀
90	真鍮製鍵	日本	明治
91	鉄製ラムネ瓶型	日本	明治
92	豚の貯金箱	日本	昭和
93	竹製梯子	フィリピン・ルソン島	20世紀
94	駒どめ	新潟	明治
95	駒どめ	日本	明治
96	木製ベンチ	インドネシア・ジャワ島東部	20世紀初頭
97	針金の椅子	インド	20世紀
98	手燭	日本	明治～大正
99	伊万里染付燭台	日本	幕末
100	湯たんぽ	日本	大正～昭和
101	鉛切り鉢	韓国	19世紀
102	角形火のし	日本	明治
103	真鍮製アイロン	ヨーロッパ	19世紀
104	ライスカッター	フィリピン	20世紀
105	箆、箆袋	日本	1892(明治25)
106	おろし器具各種	日本(昭和)、ミャンマー	
107	蓋付き大鍋	インドネシア	19世紀後半
108	ソースパン	外国製	19世紀
109	ブジョー コーヒーミル	フランス	1850年代
110	鉄製ティーカップ&ソーサー	インドネシア	19世紀
111	ベッパームル	スペイン	19世紀
112	どじょう鍋	日本	明治
113	蓋付き小鍋	日本	明治
114	卵焼き器	日本	昭和
115	時代枡	日本	明治
116	把手付き枡	日本	昭和
117	釜の蓋	日本	昭和
118	信楽塩壺	日本	昭和
119	塗面取湯桶(一对)	日本	明治
120	曲げわっぱ	日本	昭和
121	網代編かぶせ蓋付竹箆	日本	明治
122	伊万里染付露草文様猪口	日本	江戸
123	伊万里染付丸文様猪口	日本	江戸
124	伊万里染付花文字唐草文様猪口	日本	江戸
125	伊万里染付濡れ羽熨斗文様猪口	日本	江戸
126	木の板	日本	昭和
127	木の板	日本	明治
128	伊万里「勝」文字文様皿	日本	江戸
129	伊万里染付麦わら文様繪皿	日本	江戸
130	伊万里染付網目文様箸立	日本	江戸
131	伊万里染付輪線文様火入れ	日本	江戸
132	ねずみ型水滴	日本	大正頃
133	伊万里染付麻の葉文様深鉢	日本	江戸
134	瀬戸鉄「寿」文字文様うどん皿	日本	江戸
135	柴垣文様くらわんか皿	日本	江戸
136	木の板	日本	昭和
137	金城次郎作茶碗	沖縄	昭和
138	瀬戸花文石皿	日本	江戸後期
139	瀬戸亀文絵皿	日本	江戸後期
140	瀬戸絵皿	日本	江戸後期
141	瀬戸菊文絵皿	日本	江戸後期
142	瀬戸芦雁文絵皿	日本	江戸後期
143	朽ちた鉄のスコップ(二本)	日本	明治

No.	作品名	地域／産地	年代
144	左官職の鍔	日本	明治末期
145	雁爪	ヨーロッパ	19世紀
146	鍬	日本	昭和
147	干草用農具	インド	20世紀
148	木綿絞り長手拭	秋田	大正
149	鉄道院線路工夫半天	日本	明治～大正
150	緑木綿地型染水玉文様ズボン	日本	明治
151	ボロ前掛け	日本	明治
152	とうじんぎもん	対馬	昭和前期
153	大麻製綿着物	対馬	大正
154	四つ手	日本	江戸後期～明治
155	絞り七宝文四つ手	日本	江戸後期～明治
156	藍染麻袋(三種)	日本	明治
157	振り織り絞り胴着	日本	明治
158	ボロ足袋	日本	大正
159	藍染麻草鞋	日本	江戸
160	藍染紙縿編み汗はじき	中国	20世紀
161	竹製袖付汗はじき	中国	20世紀
162	紅花染もじり織り袖無汗はじき	日本	明治
163	藍染紙縿編み汗はじき	日本	明治
164	紙縿編み汗はじき	中国	20世紀
165	越後アンギン	越後(新潟)	明治
166	型染袖付汗はじき	日本	明治
167	緑縿文様もじり織り袖無汗はじき	日本	明治
168	緋袖無汗はじき	日本	明治
169	大円丸絞り文様袖付汗はじき	日本	明治
170	角丸絞り文様袖無汗はじき	日本	明治
171	雪花絞り文様袖付汗はじき	日本	明治
172	緋袖無汗はじき	日本	明治
173	よろず屋の大福帳	日本	明治
174	変り日の出紋袖無半襦袢	日本	明治
175	鶴文様板締め子供半襦袢	日本	明治
176	絞り藍入り丸文様半襦袢	日本	大正初
177	木綿地友禅染風羽織下	日本	明治
178	豆絞り文様単衣	日本	明治後期
179	型染枝垂れ桜文様単衣	日本	明治
180	団扇文様絞り単衣	日本	大正
181	桜結目文様紅板締め半襦袢	日本	明治末期
182	紅花染板締め半襦袢	日本	明治末期
183	筒描菊唐草文様夜具地	日本	明治
184	筒描伊勢海老文様夜具地	日本	明治
185	筒描綿絹南天文様夜具地	日本	明治
186	筒描あばれ鬘斗文様夜具地	日本	明治
187	縹色入幾何文様久留米緋夜具地	久留米	明治
188	鯛に酒樽文様久留米緋夜具地	久留米	明治
189	竹虎文様久留米緋夜具地	久留米	明治
190	柄見本寄せ裂道中合羽	日本	江戸末期
191	残糸織道中合羽	日本	明治
192	紫根染め夜着	南部地方	大正
193	桜文様豆絞り単衣	日本	大正
194	大小豆絞り文様単衣	日本	明治後期
195	型染蕪文様綿入着物	日本	明治
196	山道文様絞り単衣	日本	大正
197	横縿文様銘仙単衣	日本	昭和初期
198	ピンク丸文様銘仙単衣	日本	昭和初期
199	風船文様銘仙袴	日本	昭和初期
200	裂織帯	日本	昭和
201	真田帯	庄内地方	大正
202	車箆筒	米沢	江戸末期
203	蟹牡丹文様鍋島緞通	佐賀	明治
204	蝶々文様鍋島緞通	佐賀	大正
205	堺緞通	堺	江戸末～明治初
206	網代編竹籠に鹿革ハンドバッグ	日本	明治
207	和更紗袋入懐炉	日本	明治
208	藍染紙縿小物入	日本	明治
209	袋	日本	明治
210	袋	日本	明治
211	木綿縿早道	日本	江戸
212	ピース袂落し	日本	江戸～明治
213	袂落し	日本	江戸
214	濃紺ピロード地守囊	日本	江戸
215	濃紺羅紗地守囊	日本	江戸
216	ブリキ製鉛筆入れ	日本	明治

No.	作品名	地域／産地	年代
217	機関車形文鎮	日本	明治?
218	ガラス絵入丸形小箱	日本	明治
219	櫛(五種)	インドネシア	20世紀
220	バンジャール刺繍財布	インド・グジャラート	20世紀
221	バンジャール刺繍財布	インド・グジャラート	20世紀
222	亀甲縁めがね	インドネシア・バリ島	19世紀
223	木製枕	アフリカ	20世紀
224	婦人靴	フランス・パリ	19世紀
225	枕時計(18665刻印入り)	フランス	20世紀
226	枕時計(J.W.BENSON 28 ROYAL EXCHANGE LONDON)	イギリス	20世紀
227	振子時計	フランス	19世紀
228	ゼンマイネジ		19世紀末～20世紀初
229	置時計	外国製	20世紀
230	パティック	インドネシア	20世紀
231	パティック	インドネシア・ベカロンガン	20世紀
232	パティック(未完成)	インドネシア	20世紀
233	麻地筒描被衣	日本	江戸後期
234	こぎん刺し着物(西こぎん)	日本	明治後期
235	赤更紗外衣	トルコ	20世紀
236	パティック(未完成)	インドネシア	20世紀
237	パティック	インドネシア・ベカロンガン	20世紀
238	グリーンシン経緯緋布	インドネシア・バリ	20世紀
239	紅型芭蕉うちい	沖縄	明治
240	紅型	沖縄	明治
241	紅型	沖縄	明治
242	古紅型	琉球	明治前期
243	羊皮紙グレゴリオ聖歌	不明	17世紀
244	クバ王国 プシヨング族 ンチャク	アフリカ・コンゴ	20世紀
245	クバ王国 ショワ族 草ビロード儀礼用腰布	アフリカ・コンゴ	20世紀
246	クバ王国 ショワ族 草ビロード儀礼用腰布	アフリカ・コンゴ	20世紀
247	クバ王国 ショワ族 草ビロード儀礼用腰布	アフリカ・コンゴ	20世紀
248	絞り 刺繍	アフリカ・コンゴ	20世紀
249	絞り鶴亀文様湯上	山陰地方	大正
250	木綿筒描海老錨文様足拭	山陰地方	大正
251	茶に黄格子地一つ身	日本	明治後期～大正
252	茶に白格子地一つ身	日本	明治後期～大正
253	吉祥文様切り付け子供半天	日本	明治後期～大正
254	菊小紋一つ身	日本	明治後期～大正
255	寄せ裂一つ身祝着	日本	明治
256	藍染絞り一つ身	日本	明治後期～大正
257	藍染め鯉文様緋四つ身	日本	明治後期～大正
258	出雲、足拭き	日本	明治後期～大正
259	女兒腰巻	日本	明治～大正
260	紅木綿地女兒腰巻	日本	明治～大正
261	女兒腰巻	日本	明治～大正
262	藍染絞り刺し子女兒腰巻	日本	明治～大正
263	腹掛	日本	明治～大正
264	縹地竹虎文様子供祝着	日本	明治～大正
265	寄せ裂れ一つ身	日本	明治
266	女兒三枚重ね祝着	日本	明治
267	藍染め絞り産着	日本	明治～大正
268	木綿絞り女兒単衣	日本	大正
269	対馬、祭礼衣裳	日本	明治後期
270	獅子舞冠り物	石川	明治
271	対馬、祭礼衣裳	日本	明治後期
272	寄せ裂れ袷裳	日本	江戸末期～明治初
273	生絹地刺繍絡子(らくす)	日本	明治
274	巡礼の麻羽織(笈摺)	日本	明治
275	木綿地笈摺	日本	江戸
276	木綿地笈摺	日本	明治
277	筒描鯉の滝登り文様馬の腹掛	日本	明治
278	馬の腹掛	日本	明治
279	彫刻のある木片	チベット	19世紀末
280	箆と鎌図小絵馬	日本	昭和
281	蜻蛉図小絵馬	日本	昭和
282	木彫大黒	日本	明治
283	木彫天神像	日本	明治
284	木彫猿面	インドネシア	19世紀後半
285	木彫男子像	インドネシア・チモール島	20世紀
286	鉄製蹲踞少年像	インドネシア	20世紀
287	木彫蹲踞男子像	インドネシア・イリアンジャヤ	20世紀
288	木彫対人形(ロブローニヨ)	インドネシア・ジャワ島東部	19世紀
289	木彫人物(男)	インドネシア・カリマンタン	19世紀

No.	作品名	地域／産地	年代
290	木彫人物(女)	インドネシア・カリマンタン	19世紀
291	木製動物面	インドネシア	20世紀
292	判子	チベット	20世紀
293	雨乞いドラム	インドネシア・ジャワ島	
294	聖水入れ	インドネシア・バリ島	19世紀
295	歯切り儀式用シフン	インドネシア	19世紀
296	歯切り儀式用シフン	インドネシア	19世紀
297	双体仏	日本	明治
298	双体仏	日本	明治
299	石仏	三重	明治
300	猫塚	飛騨高山	明治
301	手鞠	日本	江戸～明治
302	ふくら雀玩具	日本	明治
303	鯛持ち人形木型	日本	大正
304	だるま木型	日本	明治
305	浮世絵貼交半天	日本	江戸末～明治初
306	麻地墨絵火事半天用下着	日本	明治
307	陣羽織	日本	江戸
308	縮緬本	日本	明治
309	浮世絵版画 東都中央日本橋之図	日本	1926(大正15)
310	浮世絵木版画 嘆咭喇人	日本	明治
311	浮世絵木版画 仏蘭西人岩亀遊行	日本	明治
312	浮世絵木版画 英吉利人遊行横浜踊	日本	明治
313	青銅製兎	日本	江戸
314	鉛製鼠	日本	大正
315	鉄製鼠	日本	大正
316	赤銅製仔犬	日本	明治
317	ミニバケツ	日本	大正
318	亀甲飴の型(四種)	日本	明治末～大正
319	葉缶型水滴	日本	明治
320	ブリキ玩具 機関車	日本	大正
321	ブリキ玩具 ヘリコプター		20世紀
322	ブリキ玩具 魚		20世紀
323	ブリキ玩具 飛行機		20世紀
324	ブリキ製カゴ	インド	現代
325	木彫豚	フィリピン・ルソン島	20世紀
326	真鍮製犬	不明	20世紀
327	木製水鳥ハンドル	インドネシア	20世紀
328	真鍮製親子象	スリランカ	20世紀
329	真鍮製親子アヒル	インド	20世紀
330	木製大蛇形工具	インドネシア	20世紀
331	木製ピストル形工具	インドネシア	20世紀
332	水彩パレット	日本	大正
333	チビタ鉛筆	日本	昭和、平成
334	手製箱入りマッチ	日本	昭和
335	スノータイヤ製バケツ	日本	昭和
336	木の鳥(三点)	インドネシア・西カリマンタン	20世紀

生誕140年 吉田博展

会 期：2016(平成28)年6月4日(土)～7月24日(日)
 主 催：郡山市立美術館、毎日新聞社
 特別協力：福岡市美術館
 協 力：mont-bell
 協 賛：ニューカラー写真印刷株式会社
 観 覧 料：一般800(640)円 高校・大学生500(400)円
 ()内は20名以上の団体料金

趣 旨

久留米市出身の風景画家・吉田博は、不同舎の画塾で学び、数度の欧米への外遊で独自の表現を繰り広げた。また「絵の鬼」と呼ばれる情熱と生来の気概で、若くして明治の画壇に大きな影響を与えている。自然に対する真摯な姿勢を持ち続け、水彩、油彩、木版と幅広く制作した。その高い技術から当時の人々に感嘆をもって迎えられた吉田の作品を、今日的な視点で捉えようとする総計約 260 点の大回顧展。

関連行事

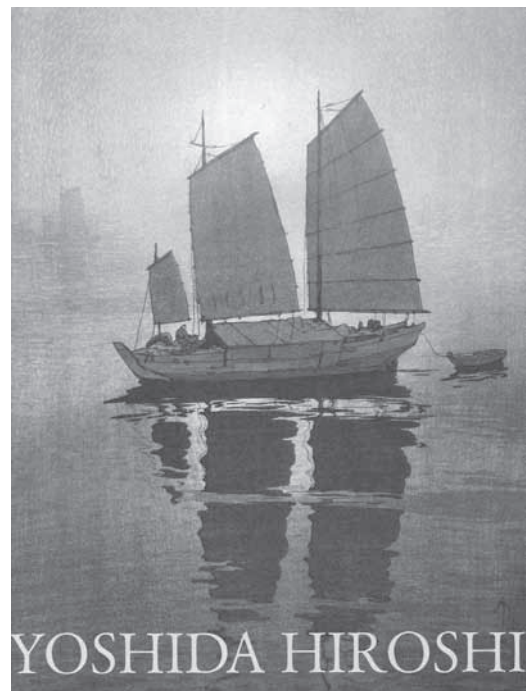
- 講演会
 「吉田博—その水彩画の魅力」
 講師：安永幸一氏(元福岡市美術館副館長)
 日時：平成28年6月25日(土)午後2時から
 会場：多目的スタジオ
- 美術講座
 「吉田博の木版画制作」
 講師：田中有沙子(当館学芸員)
 日時：平成28年6月12日(日)午後2時から
 会場：講義室
- 美術講座
 「吉田博と不同舎の仲間たち」
 講師：鈴木誠一(当館学芸課長)
 日時：平成28年7月17日(日)午後2時から
 会場：多目的スタジオ
- ギャラリートーク
 講師：鈴木誠一(当館学芸課長)、田中有沙子(当館学芸員)
 日時：平成28年6月4日(土)、7月2日(土)午後2時から
 会場：企画展示室
- ミュージアム・シアター
 「山男の歌」(1962年、大映)
 日時：平成28年6月18日(土)午後2時から
 会場：多目的スタジオ

発行物

「生誕140年 吉田博展」図録
 257×194mm 272ページ(カラー作品図版400点)
 平成28年4月9日発行
 編集：西山純子(千葉市美術館)、藍畑啓二(毎日新聞社)
 翻訳：まい子・ベア
 デザイン：角田美佐子(ニューカラー写真印刷)
 印刷・制作：ニューカラー写真印刷株式会社
 発行：毎日新聞社



ポスター



図録

内容：ごあいさつ / 安永幸一「近代風景画の巨匠 吉田博 - その生涯と芸術」 / 第1章 不同舎の時代 1894-1899 / 第2章 外遊の時代 1900-1906 / 第3章 画壇の頂へ 1907-1920 / 第4章 木版画という新世界 1921-1929 / 第5章 新たな画題を求めて 1930-1937 / 第6章 戦中と戦後 1938-1950 / 滝澤正幸「山と近代美学と吉田博」 / 田中有沙子「吉田博の水彩画にみる芸術観」 / 稲富景子「吉田博《精華》について」 / 西山純子「吉田博の木版画 - ホイッスラーから見たひとつのあらすじ」 / 絵葉書 / 吉田博 年譜 / 参考文献 / 作品目録

関連記事

「生誕140年 吉田博展 郡山市立美術館来月4日から」、『毎日新聞』平成28年5月27日付。
 坂戸亮介「展覧会プレビュー」、『版画芸術』No.172 2016夏、平成28年6月1日発行、阿部出版株式会社。
 「郡山 風景画の第一人者 吉田博 生誕140年展開幕」、『福島民報』平成28年6月5日付。
 「『絵の鬼』魅力紹介 市立美術館 文展入賞作や木版250点」、『福島民友』平成28年6月5日付。
 「風景画230点、一堂に 市立美術館で開幕 吉田博生誕140年展」、『毎日新聞』平成28年6月5日付。
 田中有沙子「生誕140年 吉田博展から 上」、『毎日新聞』平成28年6月15日付。
 鈴木誠一「生誕140年 吉田博展から 中」、『毎日新聞』平成28年6月15日付。
 田中有沙子「生誕140年 吉田博展から 下」、『毎日新聞』平成28年6月15日付。
 田中有沙子「風景と真摯に向き合う 吉田博生誕140年記念 郡山市立美術館」、『福島民友』平成28年6月27日付。
 「生誕140年 吉田博展後入り 雄大な連作など新たに」、『福島民報』平成28年7月1日付。
 「吉田博の魅力に迫る NHK「日曜美術館」10日放送」、『毎日新聞』平成28年7月7日付。
 「吉田博展入場者1万人 市立美術館が記念品」、『福島民友』平成28年7月20日付。
 「郡山市立美術館の生誕140年吉田博展 佐川さん(浅川)1万人目」、『福島民報』平成28年7月20日付。
 「吉田博展 入場1万人突破」、『毎日新聞』平成28年7月20日付。
 「吉田博の回顧展 明日まで郡山市立美術館 空気感柔らか繊細な光と影」、『福島民報』平成28年7月23日付。

テレビ放映

日曜美術館「木版画 未踏の頂へ～吉田博の挑戦～」NHK-Eテレ、平成28年7月10日放映。



ギャラリートーク（平成28年7月2日）

出品目録

前期：6月4日（土）～26日（日） 後期：6月28日（火）～7月24日（日）

※展示欄が空欄作品は全会期出品。No. 欠番は郡山会場不出品。

NO.	タイトル	制作年	技法	所蔵	展示
第一章 不同舎の時代：1894-1899					
1-01	圖畫集	明治20年代初め	鉛筆、紙	個人	
1-02	無題(習画帖)	明治22-23(1889-90)年	水彩・鉛筆、紙	個人	
1-03	驢馬	明治26(1893)年	水彩、紙	個人	前期
1-04	画材と鉢	明治26(1893)年	水彩、紙	個人	後期
1-05	土瓶と茶碗	明治26(1893)年頃	水彩、紙	個人	後期
1-06	東大谷の横道	明治26(1893)年	鉛筆、紙	個人	後期
1-07	京極	明治27(1894)年	鉛筆、紙	個人	前期
1-08	鶏のいる風景	明治27(1894)年	鉛筆、紙	個人	後期
1-10	中神	明治27(1894)年	鉛筆、紙	府中市美術館	前期
1-11	小丹波	明治27(1894)年	鉛筆、紙	個人	後期
1-13	養沢	明治29(1896)年	鉛筆、紙	個人	前期
1-14	是政	明治29(1896)年	鉛筆、紙	府中市美術館	後期
1-15	ナガノ、ホシノガワ	明治29(1896)年	鉛筆・淡彩、紙	個人	前期
1-16	山村風景	明治29(1896)年	鉛筆・淡彩、紙	郡山市立美術館	後期
1-17	御岳、奥の院	明治29(1896)年	鉛筆・淡彩、紙	府中市美術館	前期
1-18	石橋	明治29(1896)年頃	鉛筆・淡彩、紙	府中市美術館	後期
1-19	少女	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	前期
1-21	鶏頭のある風景	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	後期
1-22	つるべ井戸	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	前期
1-23	池畔	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	後期
1-24	社前の池	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	前期
1-25	浅間山	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	後期
1-30	日光・荒沢	明治30-32(1897-99)年	水彩、紙	静岡県立美術館	前期
1-31	中禅寺 日光	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	個人	後期
1-32	日光	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	福岡市美術館	前期
1-33	東照宮、日光	明治32(1899)年頃	水彩、紙	栃木県立美術館	後期
1-34	杉並木	不詳	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館	前期
1-35	村里の子供たち(岩戸)	明治27-32(1894-99)年	水彩、紙	郡山市立美術館	後期
1-36	雲井桜	明治32(1899)頃	水彩、紙	福岡県立美術館	前期
1-37	雲叡深秋	明治31(1898)年	油彩、カンバス	福岡市美術館	
第二章 外遊の時代：1900-1906					
2-02	街道風景	明治35(1902)年	水彩、紙	個人	前期
2-03	汐干狩り	明治35(1902)年	水彩・鉛筆、紙	福岡市美術館	後期
2-04	村の橋	明治35(1902)年頃	水彩・鉛筆、紙	福岡市美術館	前期
2-05	雨の中の子守	明治36(1903)年頃	水彩、紙	福岡市美術館	後期
2-06	菖蒲園	明治36(1903)年頃	水彩、紙	福岡市美術館	前期
2-07	富士山麓の村	明治36(1903)年頃	水彩、紙	丸山精氏	後期
2-08	鳥居の下の人々、花咲く日本の村	不詳(明治後期)	水彩、紙	丸山精氏	前期
2-09	吉野	不詳(明治後期)	水彩、紙	個人	後期
2-10	宮島	不詳(明治後期)	水彩、紙	個人	前期
2-11	池の鯉	明治35(1902)年	水彩、紙	個人	後期
2-12	湖の眺め	明治35(1902)年	水彩、紙	丸山精氏	前期
2-13	土手の桜	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	福岡市美術館	後期
2-14	風景	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	郡山市立美術館	前期
2-15	晩秋風景	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	個人	後期
2-16	日暮里	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	福岡市美術館	前期
2-17	朝	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	個人	後期
2-18	朝霧	明治34-36(1901-03)年	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室	
2-19	雨上がりの少年のいる風景	明治36(1903)年	水彩、紙	府中市美術館	前期
2-20	昨夜の雨	明治36(1903)年	水彩、紙	房総浮世繪美術館	後期
2-21	霧の夕陽	明治36(1903)年	水彩、紙	丸山精氏	前期

NO.	タイトル	制作年	技法	所蔵	展示
2-22	霧の農家	明治36(1903)年頃	水彩、紙	福岡市美術館	後期
2-23	農村の夜明け	明治36年頃	水彩、紙	福岡市美術館	前期
2-25	霧と花	不詳(明治36(1903)年頃か)	水彩、紙	松尾陽作氏(福岡県立美術館寄託)	後期
2-26	川辺の舟	不詳(明治後期)	水彩、紙	個人	前期
2-27	田舎の夕暮	不詳(明治後期)	水彩、紙	丸山精氏	後期
2-28	雪かき	明治35(1902)年以降	水彩、紙	丸山精氏	前期
2-29	冬の閑景	不詳(明治後期)	水彩、紙	丸山精氏	後期
2-30	朝	不詳(明治後期)	水彩、紙	個人	前期
2-31	帆船	不詳(明治後期)	水彩、紙	個人	後期
2-32	昼寝—ハンモック	明治37-38(1904-05)年頃	油彩、板	個人	
2-33	グロスター	明治37(1904)年	油彩、カンバス	個人	
2-34	チューリンガムの黄昏	明治38(1905)年	油彩、板	福岡市美術館	
2-35	フロリダの熱帯植物園	明治39(1906)年	水彩、紙	個人	前期
2-36	ロイヤル・ポインシアナ・ホテル	明治39(1906)年	水彩・鉛筆、紙	個人	前期
2-37	ボンシデレオン旅館の中庭	明治39(1906)年	水彩、紙	個人	後期
2-39	ハリ風景	明治39(1906)年	油彩、カンバス	東京国立近代美術館	
2-40	ヴェニスへの運河	明治39(1906)年	油彩、カンバス	個人	
2-41	ヴェニスへの運河	明治42(1909)年	油彩、カンバス	個人	
2-42	ヴェラスケス作《メニッポス》模写	明治41(1908)年	油彩、カンバス	個人	
2-43	レンブラント《自画像》模写	明治41(1908)年	油彩、カンバス	個人	

第三章 画壇の頂へ：1907-1920

3-01	池の鯉	明治40(1907)年	油彩、カンバス	個人	
3-02	堀切寺	明治40(1907)年頃	油彩、カンバス	福岡市美術館	
3-03	新月	明治40(1907)年	水彩、紙	東京国立近代美術館	
3-04	松	明治40(1907)年頃	水彩、紙	福岡市美術館	後期
3-05	月見草と浴衣の女	明治40(1907)年頃	水彩、紙	個人	後期
3-07	鳩と少女	明治43-44(1910-11)年	水彩、紙	福岡市美術館	前期
3-08	雲表	明治42(1909)年	水彩、紙	福岡県立美術館	前期
3-10	溪流	明治43(1910)年	油彩、カンバス	福岡市美術館	
3-11	瀧	明治末期	油彩、カンバス	京都国立近代美術館	
3-12	積み藁のある風景	不詳	水彩、紙	郡山市立美術館	前期
3-13	滞船、薄暮	明治40(1907)年頃	水彩、紙	郡山市立美術館	後期
3-17	芥屋大門	明治44(1911)年頃	水彩、紙	個人	前期
3-18	『瀬戸内写生旅行』	明治44(1911)年頃	画帖	郡山市立美術館	
3-20	血の池(別府)	明治45(1912)年頃	水彩、紙	個人	後期
3-21	信州風景	不詳	鉛筆・淡彩、紙	郡山市立美術館	後期
3-22	作品名不詳[老木]	不詳	鉛筆・水彩、紙	横浜美術館	
3-23	作品名不詳[森林]	不詳	鉛筆・水彩、紙	横浜美術館	
3-24	高原の池	明治45(1912)年	油彩、カンバス	府中市美術館	
3-25	穂高の春	大正4(1915)年	油彩、カンバス	福岡県立美術館	
3-26	穂高山	大正期	油彩、カンバス	個人	
3-27	高原の牧場	大正9(1920)年	油彩、カンバス	東京国立近代美術館	
3-28	街道の春	大正中期	油彩、カンバス	星野画廊	
3-29	富岳	大正中期	油彩、カンバス	星野画廊	
3-30	槍ヶ岳と東鎌尾根(1)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	後期
3-31	槍ヶ岳と東鎌尾根(2)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	後期
3-32	野営(1)	大正8(1919)年	油彩、カンバス	個人	後期
3-33	野営(2)	大正8(1919)年	油彩、カンバス	個人	後期
3-34	野営(3)	大正8(1919)年	油彩、カンバス	個人	後期
3-35	烏帽子子岳の旭	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	後期
3-36	鷺羽岳の池	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	後期
3-37	青銅器とバラ	大正3(1914)年頃	油彩、カンバス	個人	
3-38	バラ(1)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-39	バラ(2)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-40	バラ(3)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期

NO.	タイトル	制作年	技法	所蔵	展示
3-41	バラ(4)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-42	バラ(5)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-43	バラ(6)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-44	バラ(7)	大正9(1920)年頃	油彩、カンバス	個人	前期
3-45	ステンドグラスの窓	大正10(1921)年	油彩、カンバス	個人	
3-46	荷馬川畔	明治末期	絹本墨画淡彩	星野画廊	前期
3-47	富士登山図	不詳(明治末期か)	絹本墨画淡彩	星野画廊	後期
3-48	登山図	不詳(明治末期か)	紙本墨画淡彩	個人	前期
3-49	帆船	不詳(大正期か)	絹本墨画	個人	前期
3-50	雪景	不詳(大正期か)	絹本墨画	個人	後期
3-51	登山口(宿場の馬)	不詳(大正期か)	絹本墨画淡彩	(医)明信会 今泉西病院	
3-52	別府近郊 牧童図	不詳(大正期か)	絹本墨画淡彩	丸山精氏	後期

第四章 木版画という新世界：1921-1929

4-01	明治神宮の神苑 渡邊版	大正9(1920)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-02	牧場の午後 渡邊版	大正10(1921)年	木版、紙	千葉市美術館	前期
4-03	穂高山 渡邊版	大正10(1921)年	木版、紙	個人	前期
4-04	帆船 朝日 渡邊版	大正10(1921)年	木版、紙	個人	
4-05	帆船 日中 渡邊版	大正10(1921)年	木版、紙	個人	
4-06	帆船 夕日 渡邊版	大正10(1921)年	木版、紙	個人	
4-07	猟師の話 渡邊版	大正11(1922)年	木版、紙	個人	後期
4-08	庄吉	不詳	油彩、カンバス	個人	後期
4-09	馬返し 渡邊版	大正11(1922)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-10	雲海に入る日	大正11(1922)年	油彩、カンバス	個人	
4-11	裸婦	大正11(1922)年	油彩、カンバス	個人	
4-12	グランドキャニオン	大正13(1924)年	油彩、カンバス	個人	
4-13	ヨセミテ公園	大正13-14(1924-25)年	油彩、カンバス	個人	
4-14	モレーン湖	大正13-14(1924-25)年	油彩、カンバス	個人	
4-15	モンブラン	大正14(1925)年	油彩、カンバス	個人	
4-16	アルプスの山小屋	大正14(1925)年	油彩、カンバス	福岡市美術館	
4-17	アルプス山中の村	大正14(1925)年	油彩、カンバス	個人	
4-18	アゼンスの古城	大正14(1925)年	油彩、カンバス	個人	
4-19	藤咲く／ストレザにて	大正14(1925)年	油彩、カンバス	個人	
4-21	ホノルル水族館 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-22	エル キャピタン 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	前期
4-23	グランドキャニオン 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-24	ナイヤガラ瀑布 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-25	レニヤ山 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-26	モレーン湖 米国シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	後期
4-27	ユングフラウ山 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-28	ウエテホルン 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	前期
4-29	プライトホルン山 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-30	マタホルン山 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-31	マタホルン山 夜 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-32	ルガノ町 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-33	ヴェニスへの運河 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	後期
4-34	アゼンスの古跡 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-35	アゼンスの古跡 夜 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-36	スフィンクス 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-37	スフィンクス 夜 欧州シリーズ	大正14(1925)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-38	烏帽子岳の旭 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-39	劔山の朝 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-40	白馬山頂より 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-41	穂高山 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-42	大天井岳より 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
4-43	五色原 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	

NO.	タイトル	制作年	技法	所蔵	展示
444	黒部川 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
445	立山別山 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
446	鷲羽岳の野営 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
447	鎗ヶ岳 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
448	針木雪溪 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
449	雷鳥とこま草 日本アルプス十二題	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
450	光る海 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
451	雨後の夕 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	前期
452	帆船 朝 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
453	帆船 午前 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
454	帆船 午後 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
455	帆船 霧 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
456	帆船 夕 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
457	帆船 夜 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
458	鞆の浦 瀬戸内海集	大正15(1926)年	木版、紙	個人	後期
459	朝日 富士拾景	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
460	隅田川 東京拾二題	大正15(1926)年	木版、紙	個人	前期
461	隅田川 夕 東京拾二題	大正15(1926)年	木版、紙	個人	前期
462	隅田川 霧 東京拾二題	大正15(1926)年	木版、紙	個人	前期
463	植物園の睡蓮 東京拾二題	大正15(1926)年	木版、紙	個人	後期
464	百花園の秋 東京拾二題	大正15(1926)年	木版、紙	個人	後期
465	亀井戸 東京拾二題	昭和2(1927)年	木版、紙	個人	前期
466	堀切の志ようぶ 東京拾二題	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期
467	金魚すくい 東京拾二題	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	後期
468	落合徳川ぼたん園 東京拾二題	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	後期
469	不忍池 東京拾二題	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期
470	中里之雪 東京拾二題	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期
471	平河橋 東京拾二題	昭和4(1929)年	木版、紙	個人	後期
472	神楽坂通 雨後の夜 東京拾二題	昭和4(1929)年	木版、紙	個人	前期
473	旧本丸 東京拾二題	昭和4(1929)年	木版、紙	個人	後期
474	きばたん あうむ 動物園	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
475	於ほばたん あうむ 動物園	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
476	くるまさか あうむ 動物園	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	
477	雲井櫻	大正15(1926)年	木版、紙	千葉市美術館	前期
478	鏡の前	昭和2(1927)年	木版、紙	千葉市美術館	
479	こども	昭和2(1927)年	木版、紙	千葉市美術館	
480	上高地の春	昭和2(1927)年	油彩、カンバス	静岡県立美術館	
481	上高地	昭和2(1927)年頃	油彩、カンバス	石橋財団石橋美術館/石橋財団アザリス美術館	
483	糸魚川にて	昭和4(1929)年頃	油彩、カンバス	個人	
484	雲海 鳳凰山	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	後期
485	溪流	昭和3(1928)年	木版、紙	千葉市美術館	
486	駒ヶ岳山頂より 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	千葉市美術館	後期
487	駒ヶ岳岩小屋 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期
488	露營 北岳間の岳 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	後期
489	雨後の八ヶ岳(駒ヶ岳石室より) 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期
490	雲表 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	後期
491	間の岳農鳥岳 日本南アルプス集	昭和3(1928)年	木版、紙	個人	前期

第五章 新たな画題を求めて：1930-1937

5-01	フワテプールの舞踊場	昭和6(1931)年頃	油彩、カンバス	府中市美術館	
5-02	フワテプール シクリ(王宮)	昭和6(1931)年頃	油彩、カンバス	個人	
5-03	ラクノーのモスク	昭和6(1931)年頃	油彩、カンバス	個人	
5-05	ウダイプール	昭和6(1931)年頃	油彩、カンバス	個人	
5-06	ウダイプール宮殿	昭和6(1931)年	油彩、カンバス	石橋財団石橋美術館/石橋財団アザリス美術館	
5-07	風景(ダーシリン)	昭和6(1931)年頃	油彩、カンバス	石橋財団石橋美術館/石橋財団アザリス美術館	
5-08	シンガポール 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	

NO.	タイトル	制作年	技法	所蔵	展示
5-09	ラングーン の 金塔 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-10	カンチェンジェンガ 朝 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	個人	後期
5-11	カンチェンジェンガ 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	個人	後期
5-12	カンチェンジェンガ 午後 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	個人	後期
5-13	ベナレス の ガット 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-14	タジマハルの庭 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-15	タジマハルの庭 夜 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-16	フワテプール の シクリ 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-17	ウダイプールの城 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	横浜美術館	
5-18	アジヤンタ 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-19	エロラ の カイラサテンブル 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-20	マデユラ の 神殿 印度と東南アジア	昭和6(1931)年	木版、紙	個人	前期
5-21	ウダイプールの鳥御殿 印度と東南アジア	昭和7(1932)年	木版、紙	横浜美術館	
5-22	タジマハルの朝霧 第五 印度と東南アジア	昭和7(1932)年	木版、紙	個人	
5-23	タジマハルの夜 第六 印度と東南アジア	昭和7(1932)年	木版、紙	個人	
5-24	三溪園 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-25	弘前城 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-26	春雨 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-27	樓門 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-28	嵐山 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-29	川越 の 櫻 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-30	鐘樓 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-31	花盛り 櫻八題	昭和10(1935)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-32	東照宮	昭和12(1937)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-33	陽明門	昭和12(1937)年	木版、紙	千葉市美術館	
5-34	劔山	昭和7(1932)年	油彩、カンバス	福岡市美術館	
5-35	奔流	昭和11(1936)年	油彩、カンバス	石橋財団石橋美術館/石橋財団アリゾナ美術館	
5-36	三千里	昭和13(1938)年	油彩、カンバス	個人	
5-38	大同門 北朝鮮・韓国・旧満州シリーズ	昭和12(1937)年	木版、紙	個人	前期
5-39	昌慶宮 北朝鮮・韓国・旧満州シリーズ	昭和12(1937)年	木版、紙	個人	後期
5-40	北陵 北朝鮮・韓国・旧満州シリーズ	昭和12(1937)年	木版、紙	個人	前期
5-41	奉天大南門 北朝鮮・韓国・旧満州シリーズ	昭和12(1937)年	木版、紙	個人	後期

第六章 戦中から晩年へ：1938-1950

6-01	港之夜	昭和13(1938)年	木版、紙	千葉市美術館	後期
6-02	星子	昭和15(1940)年	木版、紙	個人	前期
6-03	蘇州	昭和15(1940)年	木版、紙	個人	後期
6-04	急降下爆撃	昭和16(1941)年	油彩、カンバス	個人	
6-05	空中戦闘	昭和16(1941)年	油彩、カンバス	個人	
6-06	ウダイプールにて	昭和17(1942)年	油彩、カンバス	個人	
6-07	軍需工場	昭和18-19(1943-44)年頃	油彩、カンバス	個人	
6-08	溶鉱炉	昭和19(1944)年	油彩、カンバス	東京藝術大学	
6-10	溶鉱炉	昭和19(1944)年	油彩、カンバス	福岡市美術館	
6-11	農家	昭和21(1946)年	木版、紙	千葉市美術館	
6-12	初秋	昭和22(1947)年	油彩、カンバス	個人	

資料

写生帖	明治26-昭和21年頃
従軍期の写真	昭和13-15年頃
従軍期から戦中期のスケッチ	昭和13-18年頃

マリー・アントワネットも愛した美布 西洋更紗 トワルド・ジュイ展

会 期：2016(平成28)年8月6日(土)～9月11日(日)
主 催：郡山市立美術館
後 援：在日フランス大使館／アンステイチュ・フランセ日本、
ベルギー大使館
協 力：日本航空
観 覧 料：一般1,000(800)円 高校・大学生500(400)円
()内は20名以上の団体料金

趣 旨

本展では、西洋更紗トワルド・ジュイの世界を本格的に紹介した。西洋更紗の起源であり、日本でも更紗熱を生んだインド更紗などを併せて、その伝播の一端をひもといた。トワルド・ジュイ美術館の所蔵品を中心に、国内外の貴重なコレクションから約200点が出品された。

関連行事

○講演会

「江戸時代における西洋更紗の輸入とその受用」

講師：石田千尋氏(鶴見大学教授)

日時：平成28年8月20日(土)午後2時から

場所：多目的スタジオ

○美術講座

「更紗と日本」

講師：佐治ゆかり(当館館長)

日時：平成28年9月4日(日)午後2時から

場所：講義室

○ギャラリートーク

講師：永山多貴子(「当館学芸員」)

日時：平成28年8月14日(日)、8月28日(日)午後2時から

場所：企画展示室

○ミュージアム・シアター

「マリー・アントワネット」(2006年、アメリカ合衆国)

日時：平成28年8月11日(木・祝)午後2時から

場所：多目的スタジオ

発行物

「西洋更紗 トワルド・ジュイ展」カタログ

200×210mm 220ページ

編集：Bunkamuraミュージアム、郡山市立美術館

制作：印象社

印刷：メディア グラフィックス

発行：Bunkamura

内容：エスクラールモンド・モンティユ「フランスにおけるアンディエンヌ(更紗)の発展」／プロローグ 田園モチーフの源泉／ヘルトルイ・ファン・ケルコーフェン「オーデナールデのタベストーリー」／第1章 インド更紗の熱狂／第2章 トワルド・ジュイの工場設立／第3章 木版プリントに咲いた花園／第4章 銅版プリントに広がる田園風景／エピローグ 受け継がれる西洋更紗の魅力／佐治ゆかり「「西洋更紗」考／出品作品リスト解説／オーベルカンブとトワルド・ジュイの工場 関連年表／主要関連文献／他



ポスター



図録

関連記事

永山多貴子「名品さんぼ この1点」、「福島民友」平成28年8月29日付。



ギャラリートーク（平成28年8月28日）

出品目録

No.	作品タイトル／作家・デザイナー	技法・素材	製作年代(製作地)	サイズ	所蔵
プロローグ 田園モチーフの源泉					
1	鹿狩り	羊毛、絹	1600頃(オーデナールデ)	295.0×331.0	MOU美術館(個人所蔵)
2	猛禽類のいる緑のタピスリー	羊毛、絹	1600頃(オーデナールデ)	296.0×220.0	MOU美術館(市所蔵)
3	花のモチーフのタペストリー断片	羊毛、絹	1600頃(オーデナールデ)	40.0×28.2	MOU美術館
第1章 インド更紗の熱狂					
4	クリシュナ物語図模様更紗 壁掛	木版、手描き・綿	18世紀(インド)	235.0×253.0	女子美術大学美術館
5	白地唐花文様金雲母更紗	木版、手描き、金雲母・綿	17-18世紀(インド)	径54.0	染司よしおか
6	立木模様更紗 ベッドカバー(ノバランポア)	手描き・綿	18世紀(インド)	262.0×229.5	女子美術大学美術館
7	インド更紗	木版、金箔・綿	17-18世紀(インド)	56.5×56.5	トワルド・ジュイ美術館
8	十字架草花模様更紗元僧衣	木版・綿	18世紀(インド)	136.0×170.0	女子美術大学美術館
9	茜草花文様鬼更紗	木版・綿	17-18世紀(インド)	175.0×183.0	染司よしおか
10	更紗裂継包裂	木版、手描き・綿	17-19世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	64.5×57.5	女子美術大学美術館
11	赤星家旧蔵古代印度更紗裂(全99枚のうち20枚)	木版・綿	17-18世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	台紙:各24.2×18.2	染司よしおか
12	名物裂帖「古雅羅紗帖」(インド更紗39面)	木版、手描き・綿	16-18世紀(裂:インド)／ 19-20世紀頃(仕立て:日本)	台紙:各39.5×33.2	女子美術大学美術館
13	ミニチュア裂手鑑3帖「されかがみ小形(上々)」 「更紗帳」(「されかがみ(十八帖のうち)」)	木版・綿	17-19世紀(裂:インド)／ 19-20世紀頃(仕立て:日本)	3.8×2.52 3.89× 2.78 4.25×3.33	たばこと塩の博物館
14	唐花銀更紗女持ち懐中たばこ入れ	木版・綿	17-18世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	6.5×11.0	たばこと塩の博物館
15	白地鶏頭更紗たばこ入れ	手描き・綿	17-18世紀(裂:インド)／ 昭和初期(仕立て:日本)	6.3×10.7	たばこと塩の博物館
16	提げたばこ入れ	木版・綿、他	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	7.0×12.5	染司よしおか
17	仕覆	木版・綿	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ8.7底径5.0	染司よしおか
18	寄裂仕覆	木版・綿、絹織物	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ11.7底径6.1	染司よしおか
19	仕覆	木版・綿	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ11.5 底4.2×4.2	染司よしおか
20	仕覆	銅版・綿	18-19世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ10.9底径6.7×6.7	染司よしおか
21	仕覆	木版・綿	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ14.0 底径6.4	染司よしおか
22	手提袋	木版・綿	17世紀(裂:インド)／ 19世紀頃(仕立て:日本)	高さ12.8 底径12.8×18.6	染司よしおか
23	紙入れ	木版・綿、他	17-18世紀(裂:インド)	13.4×21.3	染司よしおか
24	寄裂半襦袢	綿、絹	19世紀初頭(裂:日本、ヨーロッパ、 他)／江戸後期(仕立て:日本)	身丈55.5 裾60.5	個人蔵
25	更紗寄裂下着	綿	19世紀前半(裂:ヨーロッパ、他)／19世 紀後半から20世紀初頭(仕立て:日本)	身丈144.0 裾62.5	個人蔵
26	西洋人物図	絹本着色、綿による表装	19世紀	88.9×28.8	たばこと塩の博物館
27	辰紅毛船持渡端物切本帳	和本(折紙仮綴)	1832年	13.3×38.3	鶴見大学図書館
28	反物切本帳	和本(折紙仮綴)	幕末(19世紀中頃)	13.5×38.5	鶴見大学図書館
29	御用御誂切本	和本(袋仮綴)	1824-36年	28.0×15.3	鶴見大学図書館
30	卯紅毛船二艘品代切本	和本(袋仮綴)	1855年	29.0×15.3	鶴見大学図書館
第2章 トワルド・ド・ジュイの工場設立					
31	禁止令(1686年5月21日)	印刷・紙	1686年	23.5×18.0	トワルド・ジュイ美術館
32	シャルル・プーレル(F.フリッポトーのドローイングに 基づく)布地に囲まれたクリストフ=オーベルカンブ	リトグラフに着色・紙	1833年以降	30.0×23.0	トワルド・ジュイ美術館
33	ジャン=バティスト・ユエ ジュイ=アン=ジョ ザスのオーベルカンブの工場	油彩・キャンヴァス	1807年	額96.0×142.5	トワルド・ジュイ美術館
34	発注書(1792年頃)	綿、インク・紙	1792頃	19.2×23.0	トワルド・ジュイ美術館
35	発注書(1797年)	綿、インク・紙	1797年	22.5×13.7	トワルド・ジュイ美術館
36	発注書(1804年)	綿、インク・紙	1804年	21.3×16.0	トワルド・ジュイ美術館
37	発注書(1806年)	綿、インク・紙	1806年	23.1×36.5	トワルド・ジュイ美術館
38	工場印(品質表示)	木版・シャモワーズ	1760-70年頃	25.0×94.0	トワルド・ジュイ美術館
39	工場印(品質表示)	木版・綿	1783年以前	3.5×41.5	トワルド・ジュイ美術館
40	工場印(品質表示)	木版・綿	1783-89年	24.0×89.0	トワルド・ジュイ美術館
41	工場印(品質表示)	木版・綿	1792-1815年	7.5×62.0	トワルド・ジュイ美術館
42	工房印のプレート	銅版	19世紀前半	6.8×10.5×0.2	トワルド・ジュイ美術館
第3章 木版に咲いた花園					
43	版木	木板層	製作年不詳(ジュイ、フランス)	36.0×25.5×4.5	トワルド・ジュイ美術館
44	版木	木板層	製作年不詳(ジュイ、フランス)	33.5×27.5×4.5	トワルド・ジュイ美術館
45	版木	木板層	製作年不詳(ジュイ、フランス)	30.5×25.3×4.5	トワルド・ジュイ美術館
46	版木	木板層、真鍮	製作年不詳(ジュイ、フランス)	31.0×25.5×4.5	トワルド・ジュイ美術館

No.	作品タイトル／作家・デザイナー	技法・素材	製作年代(製作地)	サイズ	所蔵
47	中国の屋根瓦型文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1791年(ジュイ、フランス)	25.8×19.8	トワルド・ジュイ美術館
48	釣りをする中国人	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀(ジュイ、フランス)	31.3×23.8	トワルド・ジュイ美術館
49	黄色の背景の花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1788年(ジュイ、フランス)	29.0×25.0	トワルド・ジュイ美術館
50	白色の背景の花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1788年(ジュイ、フランス)	29.5×27.0	トワルド・ジュイ美術館
51	点描の背景の様式化された花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	36.0×21.2	トワルド・ジュイ美術館
52	点描の背景のインド風の花々	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1796年(ジュイ、フランス)	27.0×21.0	トワルド・ジュイ美術館
53	船と灯台の文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	25.2×17.0	トワルド・ジュイ美術館
54	バンクシアとエキゾチックな植物	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	22.8×15.0	トワルド・ジュイ美術館
55	白色の背景のバラの文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	28.2×23.2	トワルド・ジュイ美術館
56	青色の背景の花の小枝文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1784年7月(ジュイ、フランス)	25.0×18.0	トワルド・ジュイ美術館
57	黒色の背景のアジサイ	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	23.7×19.0	トワルド・ジュイ美術館
58	点描の背景の花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1792年(ジュイ、フランス)	24.0×18.0	トワルド・ジュイ美術館
59	黄土色の背景のマルタゴン・リリー	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1804年(ジュイ、フランス)	22.3×16.5	トワルド・ジュイ美術館
60	緑色の背景の切り花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	22.6×17.0	トワルド・ジュイ美術館
61	白色の背景のバラ文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	31.1×24.0	トワルド・ジュイ美術館
62	グッド・ハーブス	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	24.3×19.5	トワルド・ジュイ美術館
63	グッド・ハーブス	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	25.0×18.3	トワルド・ジュイ美術館
64	ピーター・ウィリアム・ルムニエによるデザイン 花のモチーフ	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1797年(ジュイ、フランス)	15.3×16.5	トワルド・ジュイ美術館
65	グッド・ハーブス	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	22.3×16.5	トワルド・ジュイ美術館
66	白色の背景の大きな花文様	紙の試し刷り:木版、水彩・紙	1802-03年(ジュイ、フランス)	36.2×44.5	トワルド・ジュイ美術館
67	サンプル・ボード:グッド・ハーブス	綿・厚紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
68	サンプル・ボード	綿・厚紙	19世紀初頭(ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
69	サンプル・ボード	綿・厚紙	19世紀初頭(ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
70	サンプル・ボード	綿・厚紙	18世紀末、19世紀初頭 (ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
71	サンプル・ボード	綿・厚紙	18世紀末(ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
72	サンプル・ボード	綿・厚紙	19世紀初頭(ジュイ、フランス)	32.5×50.0	トワルド・ジュイ美術館
73	手押し車を持つ中国人	木版・綿	1760年(ジュイ、フランス)	52.0×51.0	トワルド・ジュイ美術館
74	寺院のある風景	木版・綿	1770年頃(ジュイ、フランス)	53.0×38.0	トワルド・ジュイ美術館
75	小鳥たち	木版・綿	1775年頃(ジュイ、フランス)	36.0×49.5	トワルド・ジュイ美術館
76	バラと縞模様	木版・綿	1775年頃(ジュイ、フランス)	24.5×26.5	トワルド・ジュイ美術館
77	絡み合うリボンと花輪	木版、手描き・シャモワーズ	1775年頃(インド又はジュイ、フランス)	107.0×93.0	トワルド・ジュイ美術館
78	庭師たち	木版、手描き・シャモワーズ	1780年頃(ジュイ、フランス)	78.0×82.0	トワルド・ジュイ美術館
79	アラベスクとトロフィーのある装飾文様	木版、手描き・シャモワーズ	1775年頃(ジュイ、フランス)	72.5×61.0	トワルド・ジュイ美術館
80	酒を飲む少年	木版・綿	1784年頃(ジュイ、フランス)	50.0×87.0	トワルド・ジュイ美術館
81	小枝文様の背景の花と鳥	木版・シャモワーズ	1783年頃(ジュイ、フランス)	58.0×30.0	トワルド・ジュイ美術館
82	ラモヌールの地に花のモチーフ	木版、艶出し加工・綿	1783-89年(ジュイ、フランス) 1783-1787	53.0×89.0	トワルド・ジュイ美術館
83	グッド・ハーブス	木版・綿	18世紀末-19世紀初頭 (ジュイ、フランス)	30.0×47.0	トワルド・ジュイ美術館
84	グッド・ハーブス	木版・綿	18世紀末-19世紀初頭 (ジュイのコピー、フランス)	27.0×23.5	トワルド・ジュイ美術館
85	ベルシャあるいはインドの花々	木版・綿	1775年(ジュイ、フランス)	33.5×32.0	トワルド・ジュイ美術館
86	白地の背景の花文様	木版・綿	1791年(ジュイ、フランス)	71.0×88.5	トワルド・ジュイ美術館
87	バイナッブルと様式化された花々	木版・綿、他	1791年(ジュイ、フランス)	38.0×290.0	トワルド・ジュイ美術館
88	マグノリアの植物標本	木版・綿	1793年頃(ジュイ、フランス)	126.0×66.0	トワルド・ジュイ美術館
89	アイリス柄の上着の一部	木版・ベキンストライプの綿	1795年頃(ジュイ、フランス)	38.0×83.0	トワルド・ジュイ美術館
90	コクシグル	木版、艶出し加工・綿	1775年頃(ジュイ、フランス)	39.0×34.0	トワルド・ジュイ美術館
91	花と鳥	木版・シャモワーズ	18世紀末(製作地不明)	80.0×61.0	トワルド・ジュイ美術館
92	バラとチューリップ	木版・綿	1798年頃(ジュイ、フランス)	70.0×100.0	トワルド・ジュイ美術館
93	円花(ロザス)文様:椅子用の布	木版・綿(抜染)	1818年頃(ジュイ、フランス)	47.0×48.5	トワルド・ジュイ美術館
94	バラと波打つ垂直の縞文様	木版・シャモワーズ	1760-70年頃(ジュイ、フランス)	286.0×108.0	トワルド・ジュイ美術館
95	ロータス	木版・綿	1798年頃(ジュイ、フランス)	203.0×86.5	トワルド・ジュイ美術館
96	バラとライラック	木版・綿	1770-72年頃(ジュイ、フランス)	231.0×143.5	トワルド・ジュイ美術館
97	大きなバイナッブル	木版・綿	1777年(ジュイ、フランス)	272.0×99.0	トワルド・ジュイ美術館
98	円花(ロザス)文様:掛椅子のための布	木版・綿	1818年頃(ジュイ、フランス)	170.5×84.5	トワルド・ジュイ美術館
99	縁飾り:オウム	木版・綿	1787-88年(ジュイ、フランス)	23.5×76.5	トワルド・ジュイ美術館
100	縁飾り:円花(ロザス)文様	木版・綿	1788年(ジュイ、フランス)	10.7×72.5	トワルド・ジュイ美術館
101	縁飾り:花輪	木版・綿	18世紀末(ジュイ、フランス)	5.6×70.5	トワルド・ジュイ美術館
102	縁飾り:絡み合うバラ	木版・綿	1789年(ジュイ、フランス)	12.0×98.0	トワルド・ジュイ美術館
103	縁飾り:花と麦の束	木版・綿	1797年(ジュイ、フランス)	12.3×42.4	トワルド・ジュイ美術館
104	縁飾り:花、チョウ、波打つリボン	木版・綿	1780年頃(ジュイ、フランス)	24.5×62.5	トワルド・ジュイ美術館
105	縁飾り:花と装飾帯	木版・綿	18世紀末(ジュイ、フランス)	4.4×25.5	トワルド・ジュイ美術館
106	縁飾り:バラ、鳥、盾の中の昆虫	木版・綿	1789年(ジュイ、フランス)	7.8×56.0	トワルド・ジュイ美術館
107	縁飾り:カシミア柄	木版・綿	1795-1805年(ジュイ、フランス)	28.0×112.0	トワルド・ジュイ美術館
108	縁飾り:カシミア柄のバルメット文様	木版・綿	19世紀初頭(ジュイ、フランス)	7.0×117.0	トワルド・ジュイ美術館
109	マリナー・アントワネットのドレスの断片	手描き・綿、現在は本の装丁に使用	1780年頃(ジュイ、フランス)	22.0×14.0	ポーアラン寺院、サン・ルイ修道院
110	ロープ・アラングレース(イギリス式ドレス)	木版・綿	1785年頃(ジュイ、フランス)	身丈140.0	トワルド・ジュイ美術館
111	グッド・ハーブス柄のケーブの訪問着	木版・綿	18世紀末(ジュイ帰属)	身丈138.0×80.0	トワルド・ジュイ美術館
112	エンパイアスタイルのドレス	木版・綿	1795-1805年(ジュイ、フランス)	身丈125.0	トワルド・ジュイ美術館
113	折れた棒の文様のキルティングのスカート	木版・黄染めの綿	1808年頃(ジュイ、フランス)	丈84.0	トワルド・ジュイ美術館
114	スカーフ	木版・綿	19世紀初頭(ジュイ、フランス)	140.0×136.0	トワルド・ジュイ美術館

No.	作品タイトル／作家・デザイナー	技法・素材	製作年代(製作地)	サイズ	所蔵
第4章 銅版プリントに広がる田園風景					
115	ジャン＝バティスト・ユエ 《四季の喜び》のデザイン画	水彩、白のハイライト紙	1785年?	25.5×36.5	トワルド・ジュイ美術館
116	ジャン＝バティスト・ユエ原画 アンゴラ猫	シュミツによるエングレーヴィング紙	18世紀末	17.5×22.4	トワルド・ジュイ美術館
117	ジャン＝バティスト・ユエ原画 動物の頭部の習作	インク・紙	1799年	46.0×32.5	トワルド・ジュイ美術館
118	ジャン＝バティスト・ユエ原画 羊飼いの姿のヴァーナス	油彩・キャンヴァス	制作年不詳	62.0×150.0	山寺後藤美術館
119	子どもの遊び	銅版・綿	1770-83年(ジュイ、フランス)	174.0×130.0	トワルド・ジュイ美術館
120	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 工場の仕事	銅版・綿	1783-84(ジュイ、フランス)	123.5×94.0	トワルド・ジュイ美術館
121	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン お城の庭	銅版・綿	1785頃(ジュイ、フランス)	126.0×180.5	トワルド・ジュイ美術館
122	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 連盟祭	銅版・綿	1791年(ジュイ、フランス)	73.0×118.0	トワルド・ジュイ美術館
123	ジャン＝ジャック・ルソーの墓	銅版・綿	1779年(ジュイ、フランス)	210.0×47.5	トワルド・ジュイ美術館
124	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 四季の喜び	銅版・綿	1787年(ジュイ、フランス)	130.0×143.0	トワルド・ジュイ美術館
125	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 田園の楽しみ	銅版・綿	1802年(ジュイ、フランス)	168.0×99.0	トワルド・ジュイ美術館
126	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 農家の仕事	銅版・綿	1795年頃(ジュイ、フランス)	96.0×89.5	トワルド・ジュイ美術館
127	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 農家の仕事	銅版・綿	1795年頃(ジュイ、フランス)	32.0×137.5(上辺) 140.0(底辺)	トワルド・ジュイ美術館
128	可愛い羊	銅版・綿	1785年頃(ナント、フランス)	112.0×97.0	トワルド・ジュイ美術館
129	フランドルの風景	銅版・綿	1782年(ジュイ、フランス)	89.0×91.5	トワルド・ジュイ美術館
130	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 馬の水飲み場	銅版・綿	1797年(ジュイ、フランス)	183.5×90.0	トワルド・ジュイ美術館
131	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン クビドへの捧げもの	銅版・綿	1799年(ジュイ、フランス)	64.5×96.0	トワルド・ジュイ美術館
132	ゴネスの気球	銅版・綿	1790年(ジュイ、フランス)	130.5×96.0	トワルド・ジュイ美術館
133	ジャン＝バティスト・ユエもしくはその流派によるデザイン アメリカからフランスへのオマージュ	銅版・綿	1781年(ジュイ、フランス)	86.0×95.5	トワルド・ジュイ美術館
134	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン アメリカの独立	銅版・綿	1784年(ジュイ、フランス)	83.0×37.5	トワルド・ジュイ美術館
135	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 四大陸	銅版・綿	1790年(ジュイ、フランス)	128.0×75.0	トワルド・ジュイ美術館
136	ルイ＝イボリット・ル・ノバによるデザイン 芸術	銅版・綿	1816年頃(ジュイ、フランス)	130.5×70.0	トワルド・ジュイ美術館
137	ジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 狼と仔羊	銅版、木版・綿	1812年(ジュイ、フランス)	189.5×96.0	トワルド・ジュイ美術館
138	オラス・ヴェルネによるデザイン ジュイでの狩り	銅版・綿	1815年(ジュイ、フランス)	162.5×88.5	トワルド・ジュイ美術館
エピローグ 受け継がれる西洋更紗の魅力					
139	モリス商会、ジョン・ヘンリー・ダールによる デザイン カーテン「チャーウエル」	木版・綿(ベルベット)	1887年頃(ロンドン、イギリス)	210.5×174.0	文化学園服飾博物館
140	モリス商会、ジョン・ヘンリー・ダールによる デザイン 室内装飾用布「コンプトン」	木版・綿	1896年デザイン(ロンドン、イギリス)	224.5×77.5	文化学園服飾博物館
141	ラウル・デュフィ ビアンキーニ＝フェリエ社 のためのテキスタイル 「アフリカの果物」 または「帆船(トワルド・トゥールノン)」	プリント(濃紺)・綿	1919年頃(フランス)	63.7×118.7	鳥根県立石見美術館
142	ラウル・デュフィ ビアンキーニ＝フェリエ社 のためのテキスタイル 「狩り」	プリント(赤)・綿	1912年デザイン、1950年代 のリプリント(フランス)	61.2×121.2	鳥根県立石見美術館
143	ラウル・デュフィ ビアンキーニ＝フェリエ社 のためのテキスタイル 「古い小館」または「騎馬の男と女」	プリント・綿	1919年頃(フランス)	63.1×118.1	鳥根県立石見美術館
144	レオナルド・フジタ(藤田嗣治) 猫を抱く少女	油彩・キャンヴァス	1953年(フランス)	46.0×34.0	イセ文化基金
145	ジョエル・ポーベル 茜色の鹿(茜色のト ワルド・ジュイで覆われた狩人のためのお とり)	ポリエステル、綿	2010年(フランス)	135.0×45.0×145.0	作家蔵
参考出品					
146	レバット バレエ・シューズ「ゴネスの気球」	皮	2013年(フランス)	24.5×17.0×7.5	トワルド・ジュイ美術館
147	レバット ジジ・ジャンメールのための靴 「オーベルカンブ」	羊皮	2015年(フランス)	25.0×17.0×8.5	トワルド・ジュイ美術館
148	ジャン ティーセット「四季の喜び」(カッ プ&ソーサー2セット、ティーポット、ピッ チャー、中皿)	陶器	2010年(フランス)	ティーカップ各9.5× 12.0×6.0/ソーサー 各15.5×2.5/ティー ポット26.0×14.0×15.0 /ピッチャー11.0× 11.0/中皿17.5×2.2	トワルド・ジュイ美術館

もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris

会 期：2016(平成28)年9月17日(土)～10月30日(日)
主 催：郡山市立美術館
後 援：在日フランス大使館／アンステイチュ・フランセ日本
協 力：日本航空
企画協力：株式会社ブレイトラスト
観 覧 料：一般1,000(800)円、高・大学生500(400)円
()内は20名以上の団体料金

趣 旨

印象主義や新印象主義のスタイルを継承しつつ、20世紀初頭の華やかなノリで活躍した、いわば「最後の印象派」と称されるべき芸術家たち。

同時代に始まったフォーヴィスムやキュビズムなどの前衛的な芸術運動に加わらず、自然にこだわった彼らの穏やかな作品は、モダニズムを主体とする流れのなかで、次第に美術史の表舞台から姿を消していった。

本展覧会は、近年再評価がめざましい、こうした芸術家たちが所属した「画家彫刻家新協会(ソシエテ・ヌーヴェル)」を、日本で初めて本格的に紹介するものだった。アマン＝ジャン、アンリ・マルタン、ル・シダネルらの、身近な自然や事物に潜む詩情を豊かに表現した約80点の作品から、彼らの足跡をたどった。

関連行事

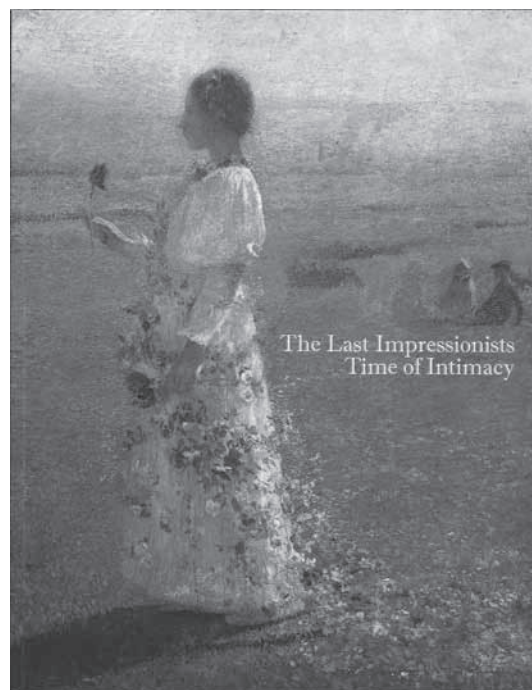
- 講演会
「最後の印象派～ソシエテ・ヌーヴェルについて」
講師：古谷可由氏(公益財団法人ひろしま美術館学芸部長、本展監修者)
日時：平成28年10月2日(日)午後2時から
場所：多目的スタジオ
- 美術講座
「最後の印象派とその時代」
講師：田中有沙子(当館学芸員)
日時：平成28年10月10日(月・祝)午後2時から
場所：講義室
- 美術講座
「最後の印象派の魅力」
講師：富岡進一(当館学芸員)
日時：平成28年10月30日(日)午後2時から
場所：講義室
- ギャラリートーク
講師：富岡進一、田中有沙子(当館学芸員)
日時：平成28年9月25日(日)、10月23日(日)午後2時から
場所：企画展示室

発行物

『もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris』カタログ
290×225mm 317ページ(カラー作品図版85点)
監修・執筆：ヤン・ファリノー＝ル・シダネル(美術史家)、古谷可由(公益財団法人 ひろしま美術館)
作家解説、年表：小林晶子(東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館)



ポスター



図録

作品解説:森静花(公益財団法人 ひろしま美術館)
出品作家国内所蔵館リスト:松岡未紗(岐阜県美術館)
協力:米山茉未(秋田市立千秋美術館)、那須孝幸(北九州市立美術館)、田村桂子(鹿児島市立美術館)
編集:株式会社ブレントラスト
編集協力:須賀百恵
発行:「もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris」カタログ委員会
制作:印象社

内容:「序」古谷可由／「最後の印象派—アンティミストの時代」ヤン・ファリノー＝ル・シダネル／「第1章 エコール・デ・ボザールの仲間たち」／「第2章 北部の仲間たち」／「第3章 バンド・ノワール(黒い一団)の仲間たち」／「第4章 ベルギーの仲間たち」／「第5章 遅れてやってきた仲間たち」／「第6章 最後に加わった仲間たち」／関連略年表／本展出品作家の作品に出会える主な国内美術館／LES DERNIERS IMPRESSIONNISTES —LE TEMPS DE L'INTIMITÉ／出品作所蔵館紹介／出品リスト

関連記事

「情報スクランブル もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's PARIS」、『福島民友』平成28年9月16日付。

「印象派の名画で魅了」、『福島民友』平成28年9月22日付。

「最後の印象派」郡山で展覧会」、『朝日新聞』平成28年9月27日付。

田中有沙子「美の力ことばの力 ふくしまの企画展 もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris」、『福島民報』平成28年10月1日付。

「郡山市立美術館で「最後の印象派」展」30日まで」、『福島民報』平成28年10月1日付。



ギャラリートーク (平成28年9月25日)

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	所蔵先
第1章 エコール・デ・ボザールの仲間たち / Chapitre 1: Camarades à l' École des Beaux-Arts						
1	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	バラ色の帽子を被るタデー	1893年頃	油彩 / キャンヴァス	41×32	個人蔵
2	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	タデー・アマン＝ジャンの肖像	1894年	油彩 / 板	33×23.5	個人蔵
3	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	花々の中で	1897年	リトグラフ / 紙	34×26	個人蔵
4	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	笑みをたたえた女性 La Rieuse	1897年	カラー・リトグラフ / 紙	43×34	個人蔵
5	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	仮面を手にもつ女性 Femme au masque	1900年	カラー・リトグラフ / 紙	32×26	個人蔵
6	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	果物かごをもつ女性	1911年	エッチング / 紙	26.5×20.3	個人蔵
7	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	アンティミテ(日常の一場面)	1905年	油彩 / キャンヴァス	85×112	ドゥエ、シャルトルーズ美術館
8	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	リンとフランソワのアマン＝ジャン兄弟	1907年	油彩 / キャンヴァス	130×97	個人蔵
9	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	囚われの女	1913年	油彩 / キャンヴァス	116×91	個人蔵
10	エドモン・アマン＝ジャン (1858-1936)	幻想	1918年頃	油彩 / 板	55×38	個人蔵
11	エルネスト・ローラン (1859-1929)	10月の夕べ	1898年	リトグラフ / 紙	34×24.5	個人蔵
12	エルネスト・ローラン (1859-1929)	入浴	1906年	モノタイプ / 紙	20×16	個人蔵
13	エルネスト・ローラン (1859-1929)	後ろ姿の裸婦	1912年	モノタイプ / 紙	22×26	個人蔵
14	エルネスト・ローラン (1859-1929)	麦わら帽子	1910年	油彩 / キャンヴァス	65×50.5	シェルブール＝オクトゥヴイル、 トマ・アンリ美術館
15	エルネスト・ローラン (1859-1929)	背中	1923年	油彩 / キャンヴァス	64×53	個人蔵
16	アンリ・マルタン (1860-1943)	野原を行く少女	1889年	油彩 / キャンヴァス	170×130	個人蔵
17	アンリ・マルタン (1860-1943)	リュートをひくミュージズ	1899年	リトグラフ / 紙	20×25	個人蔵
18	アンリ・マルタン (1860-1943)	緑の椅子の肖像、マルタン夫人	1910年	油彩 / キャンヴァス	87×80	個人蔵
19	アンリ・マルタン (1860-1943)	収穫	1918年	油彩 / キャンヴァス	62×205	個人蔵
20	アンリ・マルタン (1860-1943)	《収穫》のための習作: 作物を束ねる農夫	1918年	油彩 / 板	27×22	個人蔵
21	アンリ・マルタン (1860-1943)	ラバステイド＝デュ＝ヴェール、ミサからの婦人	1915年	油彩 / キャンヴァス	87×106	トゥール美術館
22	アンリ・マルタン (1860-1943)	シモーヌ・ル・シダネルの肖像	1931年	油彩 / 板	68×45	個人蔵
第2章 北部の仲間たち / Chapitre 2: Amitiés du Nord						
23	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	日曜日	1898年	油彩 / キャンヴァス	112.5×192	ドゥエ、シャルトルーズ美術館
24	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	輪舞	1899年	リトグラフ / 紙	25×34	個人蔵
25	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	コンコルド広場	1909年	油彩 / キャンヴァス	101×151	トゥルコワン、ウジェーヌ・ルロワ 美術館
26	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	ジェルプロワ、階段	1911年	リトグラフ / 紙	24×17	個人蔵
27	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	モントルイユ＝ベレー、窓辺	1914年	油彩 / 板	25.5×20	個人蔵
28	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	テーブル、白の調和	1927年	油彩 / キャンヴァス	93×73	パリ市立現代美術財団
29	アンリ・ル・シダネル (1862-1939)	赤色のテーブルクロス	1931年	油彩 / キャンヴァス	100.5×81	ドゥエ、シャルトルーズ美術館
30	ウジェーヌ・ヴァイユ (1857-1934)	エタブルの市場	1888年頃	油彩 / キャンヴァス	38×56	個人蔵
31	アンリ・デュエム (1860-1941)	羊飼いと羊の帰還		油彩 / キャンヴァス	134×98	ドゥエ、シャルトルーズ美術館
32	アンリ・デュエム (1860-1941)	羊飼いと羊の群れ、夕暮れの海岸	1901年頃	グワッシュ / 紙	21.5×28.5	個人蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	所蔵先
33	アンリ・デュエム (1860-1941)	カミエール、羊飼いと羊の群れ		油彩／キャンヴァス	33×46	バトリック・パタイユ氏蔵
34	フリッツ・タウロヴ (1847-1906)	川沿いの集落	1895年	油彩／キャンヴァス	50×61	個人蔵

第3章 「バンド・ノワール（黒い一団）」の仲間たち／Chapitre 3: La Bande Noire

35	シャルル・コッテ (1863-1925)	ウェサン島の老女	1908年	エッチング／紙	12×13	個人蔵
36	シャルル・コッテ (1863-1925)	海辺		油彩／カルトン	35.2×52.5	プレスト市立美術館
37	シャルル・コッテ (1863-1925)	星の夜	1894年	油彩／キャンヴァス	45×81	ティエーリー・メルシエ画廊
38	シャルル・コッテ (1863-1925)	悲しみ	1909年	エッチング／紙	16.5×29.5	個人蔵
39	リュシアン・シモン (1861-1945)	私の家族	1892年	油彩／キャンヴァス	93×112	個人蔵
40	リュシアン・シモン (1861-1945)	リュクサンブール公園の午後		油彩／キャンヴァス	58×56	個人蔵
41	リュシアン・シモン (1861-1945)	アトリエでの夜会	1903/04年	油彩／キャンヴァス	44×56	個人蔵
42	リュシアン・シモン (1861-1945)	喪服姿のビッグダン地方の家族	1912年	油彩／キャンヴァス	112×155	カンパール美術館
43	リュシアン・シモン (1861-1945)	王女ナウシカ	1916年	油彩／キャンヴァス	72.5×90	個人蔵
44	リュシアン・シモン (1861-1945)	ル・セマフォールでの夜会	1925年頃	油彩／板	24.5×34.5	個人蔵
45	アンドレ・ドーシェ (1870-1948)	海草を集める人々	1900年	油彩／キャンヴァス	27×46	個人蔵
46	アンドレ・ドーシェ (1870-1948)	雲の中の顔々		パステル、グワッシュ／カルトン	15×22	個人蔵
47	アンドレ・ドーシェ (1870-1948)	レスコニーユの街はずれ	1928年	油彩／キャンヴァス	61×92	マリア・ドーシェ氏(作家遺族)蔵
48	アンドレ・ドーシェ (1870-1948)	サント・マリーヌの玄関口	1914年	エッチング／紙	40.5×55	個人蔵
49	アンドレ・ドーシェ (1870-1948)	バノデへの上陸	1900年頃	エッチング／紙	13×20	個人蔵
50	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	スココルト、寝台	1908年	油彩／板	35×26.5	アントワース&クロード・プリネ＝ブーシェ＝ルクレルク氏蔵
51	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	語り継ぐ	1915年	油彩／板	26.5×27.5	アントワース&クロード・プリネ＝ブーシェ＝ルクレルク氏蔵
52	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	スココルト、私の寝台	1916年	油彩／板	14×20	アントワース&クロード・プリネ＝ブーシェ＝ルクレルク氏蔵
53	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	書棚	1923年	油彩／板	26.7×33	アントワース&クロード・プリネ＝ブーシェ＝ルクレルク氏蔵
54	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	カブールの浜辺	1910年頃	油彩／キャンヴァス	84×200	マリア・ドーシェ＝ガルスド氏蔵
55	ルネ＝グザヴィエ・プリネ (1861-1946)	友人の二人		油彩／キャンヴァス	94×73	パリ市立現代美術財団
56	エミール＝ルネ・メナール (1862-1930)	自然公園のなかの川の精ナイアス	1895年	油彩／キャンヴァス	104×133	プレスト市立美術館
57	エミール＝ルネ・メナール (1862-1930)	秋	1897年	カラー・リトグラフ／紙	30.3×39.9	個人蔵
58	エミール＝ルネ・メナール (1862-1930)	オデー川、河口の眺め	1900年以前	油彩／キャンヴァス	27×122	個人蔵
59	エミール＝ルネ・メナール (1862-1930)	バエストゥム遺跡	1900年頃	油彩／キャンヴァス	50×73	ヴィール美術館
60	エミール＝ルネ・メナール (1862-1930)	ナイル川とテーベ山	1927年頃	油彩／キャンヴァス	73×100	L.- M. シュネ氏蔵
61	ガストン・ラトゥーシェ (1854-1913)	聖アントニウスの誘惑		油彩／キャンヴァス	73×100.5	個人蔵
62	ガストン・ラトゥーシェ (1854-1913)	長椅子	1908年頃	油彩／板	60×66	アリ・ジャン画廊

第4章 ベルギーの仲間たち／Chapitre 4: Amitiés Belges

63	エミール・クラウス (1849-1924)	リス川の夕陽	1911年	油彩／キャンヴァス	71×92	個人蔵／協力バトリック・ドゥロン画廊
64	エミール・クラウス (1849-1924)	霞に煙るリス川		油彩／キャンヴァス	51×73	ドゥエ、シャルトルーズ美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	所蔵先
65	エミール・クラウス (1849-1924)	私の庭	1922年	油彩／キャンヴァス	81×116	個人蔵
66	アルベール・バールトソン (1866-1922)	ロンドン、カノン・ストリート・ブリッジ	1918年	油彩／キャンヴァス	164×108	個人蔵

第5章 遅れてやってきた仲間たち／Chapitre 5: Nouveaux Arrivants

67	ジャック=エミール・ブランシュ (1861-1942)	モーリス・ボレル夫人	1894年	油彩／キャンヴァス	81×65	個人蔵
68	ジャック=エミール・ブランシュ (1861-1942)	読書する少女たち(マドレーヌとイヴォ ヌのルモワーズ姉妹)	1896年	カラー・リトグラフ／紙	30.5×39	個人蔵
69	ジャック=エミール・ブランシュ (1861-1942)	ふたりの幼子	1896年	カラー・リトグラフ／紙	44×58.8	個人蔵
70	アントニオ・デ・ラ・ガンダーラ (1861-1917)	シャルロット・デ・ラ・ガンダーラの肖像	1912年頃	油彩／キャンヴァス	80×65	作家遺族蔵
71	アントニオ・デ・ラ・ガンダーラ (1861-1917)	アンセルム・モルトルイユの肖像	1912年	油彩／キャンヴァス	100×82	作家遺族蔵
72	ジョルジュ・デヴァリエール (1861-1950)	リュシアン・シモンの肖像	1887年	油彩／板	33×30	個人蔵
73	アンリ・カロ=デルヴァイク (1876-1928)	S夫人とその娘の肖像	1910-11年	油彩／キャンヴァス (楕円形)	129×96	ジョセット・デルヴァイク氏蔵

第6章 最後に加わった仲間たち／Chapitre 6: Derniers Arrivants

74	アルベール・ベナール (1849-1934)	泉の前のマデイラ島の女たち	1911年	油彩／板	61×50	ドウエ、シャルトルーズ美術館
75	アルベール・ベナール (1849-1934)	ベナレス、ガンジス川のほとり	1912年	エッチング／紙	16×11.5	個人蔵
76	アルベール・ベナール (1849-1934)	サビーズを流れる小川	1920年	油彩／キャンヴァス	140×112	個人蔵
77	ウジェーヌ・カリエール (1849-1906)	カリエール夫人	1883年	油彩／キャンヴァス	45×34	個人蔵
78	ウジェーヌ・カリエール (1849-1906)	風景	1890年頃	油彩／キャンヴァス	31×37	ティエーリー・メルシエ画廊
79	ウジェーヌ・カリエール (1849-1906)	瞑想	1893年	リトグラフ／紙	23.6×14.7	個人蔵
80	ウジェーヌ・カリエール (1849-1906)	アルフォンス・ドーデ	1890年頃	リトグラフ／紙	43.3×33.5	個人蔵
81	ジャン=フランソワ・ラファエリ (1850-1924)	オークの古木	1907年	エッチング、アクアチント／紙	49×60	個人蔵
82	ジャン=フランソワ・ラファエリ (1850-1924)	ヴィクトル・ユゴー80歳を祝う祭り	1902年	油彩／キャンヴァス	100×85.2	ヴィクトル・ユゴー館 (ノリおよびゲルヌセ)
83	オーギュスト・ロダン (1840-1917)	バルザック記念像の頭部(習作)	1897年	ブロンズ	50×48×40	公益財団法人ひろしま美術館

会 期：2016(平成28)年11月5日(土)～12月11日(日)
 主 催：郡山市立美術館、MOA 美術館、福島民報社
 助 成：芸術文化振興基金
 観 覧 料：一般1,000(800)円、高・大学生500(400)円
 ()内は20名以上の団体料金

趣 旨

日本や中国をはじめとする東洋美術の逸品約 3,500 件を所蔵するMOA美術館のコレクションから精選した 44 件の名品による企画展を、東日本大震災復興支援として開催した。また、芸術文化振興基金の助成を受けた。

おもに桃山から江戸にかけての秀逸な作品を選んで出品した。そのなかには、岩佐又兵衛作と伝わる「山中常盤物語絵巻」と野々村仁清作「色絵金銀菱文重茶碗」の重要文化財 2 件を含み、さらに豊臣秀吉や千利休ゆかりの茶の湯にかかわる名品、俵屋宗達や尾形光琳・乾山らの琳派の傑作、菱川師宣から葛飾北斎までの肉筆浮世絵などが出品された。

関連行事

- 講演会
 「MOA美術館の名品ー岩佐又兵衛を中心にー」
 講師:矢代勝也氏(MOA美術館学芸部次長)
 日時:平成28年11月23日(水・祝)午後2時から
 場所:多目的スタジオ
- 美術講座
 「浮世絵事始」
 講師:鈴木誠一(当館学芸課長)
 日時:平成28年11月12日(土)午後2時から
 場所:多目的スタジオ
- 美術講座
 「琳派の美」
 講師:鈴木誠一(当館学芸課長)
 日時:平成28年12月10日(土)午後2時から
 場所:多目的スタジオ
- ギャラリートーク
 講師:鈴木誠一(当館学芸課長・両日とも)
 日時:平成28年11月5日(土)、12月3日(土)ともに午後2時から
 場所:企画展示室
- ミュージアム・シアター
 「山中常盤 牛若丸と常盤御前 母と子の物語」
 日時:平成28年11月20日(日)午後2時から
 場所:多目的スタジオ

発行物

MOA美術館名品展鑑賞ガイドブック
 本体A5タテ 16ページ
 平成28年11月5日発行
 編集発行:郡山市立美術館
 協力・写真提供:MOA美術館
 デザイン:デザイナーズメッツ
 印刷:坂本印刷所



ポスター



ガイドブック

内容:茶の湯の美術／南蛮との邂逅／柳橋図屏風／重要文化財 野々村仁清作 色絵金銀菱文重茶碗／異彩の絵師・岩佐又兵衛／琳派の巨人たち～宗達、光琳、乾山、そして抱一～／師宣から北斎まで～肉筆浮世絵名作選

関連記事

「MOA美術館展あす開幕」、「福島民報」平成28年11月4日付。

「MOA美術館展が開幕」、「福島民報」平成28年11月6日付。

「講演会や講座関連イベント盛りだくさん」、「福島民報」平成28年11月7日付。

「AKB舞木さん感動 郡山のMOA美術館展鑑賞」、「福島民報」平成28年11月13日付。

鈴木誠一「歴史を刻む名品 時代超えた「体温」」、「福島民報」平成28年11月19日付。

「国重文絵巻、映画で解説」、「福島民報」平成28年11月23日付。

「異彩の絵師作品など紹介 岩佐又兵衛語る」、「福島民報」平成28年11月25日付。

「MOA美術館名品展開催中」、「福島民友新聞」平成28年11月25日付。

「MOA美術館名品理解 郡山でギャラリートーク」、「福島民報」平成28年12月4日付。

「MOA美術館展きょうまで」、「福島民報」平成28年12月11日付。



ギャラリートーク（平成28年12月3日）

出品目録

No.	指定	作品名	作者	形状	員数	時代	世紀
1		瀬戸黒茶碗 銘ワラヤ		陶磁器	一口	桃山	16
2		かぶら図	芸愛	掛幅	一幅	室町	15
3		熱海入湯の文	千利休	掛幅	一幅	桃山	16
4		青磁浮菊文花生		陶磁器	一口	南宋	13~14
5		伊賀耳付花生		陶磁器	一口	桃山	16
6		瀬戸茶入 銘臨月		陶磁器	一口	室町	15
7		竹茶杓 共筒	千利休	竹	一本	桃山	16
8		井戸茶碗 銘常盤		陶磁器	一口	李朝	16
9		志野遠山繪垣文茶碗 銘山路		陶磁器	一口	桃山	16
10		草花蒔絵螺鈿角德利		蒔絵	一基	桃山	17
11		楓橋蒔絵螺鈿洋櫃		蒔絵	一合	桃山	17
12		花鳥蒔絵螺鈿筆筒		蒔絵	一棹	桃山	17
13		南蛮人渡来図屏風		屏風	六曲一双	江戸	17
14		色絵梅樹水文注 柿右衛門様式		陶磁器	一口	江戸	17
15		色絵粟鴉文八角鉢 柿右衛門様式		陶磁器	一口	江戸	17
16		色絵唐子遊文碗		陶磁器	五口	江戸	17
17		色絵五艘船文大平鉢		陶磁器	一口	江戸	17
18		柳橋図屏風		屏風	六曲一双	江戸	17
19	重文	色絵金銀菱文茶碗	野々村仁清	陶磁器	二口(一組)	江戸	17
20	重美	伊勢物語図	岩佐又兵衛	掛幅	一幅	江戸	17
21		楊貴妃図	岩佐又兵衛	掛幅	一幅	江戸	17
22		三十六歌仙 貫之図	岩佐又兵衛	掛幅	一幅	江戸	17
23		三十六歌仙 小野小町図	岩佐又兵衛	掛幅	一幅	江戸	17
24	重文	紙本着色山中常盤絵 第一巻	伝岩佐又兵衛	卷子	一卷	江戸	17
25		龍虎図	俵屋宗達	掛幅	双幅	江戸	17
26		烏図	俵屋宗達	掛幅	一幅	江戸	17
27		亀図扇面	尾形光琳	扇面・掛幅	一幅	江戸	17
28		寒山拾得図	尾形光琳	掛幅	一幅	江戸	17
29		虎図屏風	尾形光琳	屏風	二曲一隻	江戸	18
30		立葵蒔絵螺鈿印籠	尾形光琳	蒔絵	一具	江戸	18
31		波蛇龍蒔絵螺鈿印籠	尾形光琳	蒔絵	一具	江戸	18
32		紅葉蒔絵螺鈿硯箱		蒔絵	一合	江戸	18
33		寿老人図角皿	尾形乾山	陶磁器	一枚	江戸	18
34		色絵若松椿文枱鉢	尾形乾山	陶磁器	一口	江戸	18
35		色絵菊向付	尾形乾山	陶磁器	五口	江戸	18
36		色絵紅葉香合	尾形乾山	陶磁器	一合	江戸	18
37		藤連楓図	酒井抱一	掛幅	三幅対	江戸	19
38		見返り美人図	菱川師宣	掛幅	一幅	江戸	17
39		立美人図	懐月堂安度	掛幅	一幅	江戸	18
40		美人相傘図	磯田湖龍斎	掛幅	一幅	江戸	18
41		旗亭美人図	宮川長春	掛幅	一幅	江戸	18
42		鶴飼図	葛飾北斎	掛幅	一幅	江戸	1818年
43		船渡図	蹄斎北馬	掛幅	一幅	江戸	18
44		嵯峨人形		人形	一軀	江戸	18

コレクション探訪 英国紳士の審美眼

会 期：2017(平成29)年1月21日(土)～3月20日(月・祝)
主 催：郡山市立美術館
観 覧 料：一般200(150)円、高校・大学生100(70)円
()内は20名以上の団体料金

趣 旨

郡山市立美術館のイギリス美術のコレクションを2つのテーマで展示。

1. ローダー・コレクション

「ローダー・コレクション」は、イギリスの美術研究者、ロバート・ローダー氏の蒐集による、イギリス版画の一大コレクションである。18世紀後半から20世紀前半までに活躍したイギリス人美術家たちによる版画作品約100点で、イギリス美術の流れを振り返る。

2. クリストファー・ドレッサー

イギリスのインダストリアル・デザイナー、クリストファー・ドレッサー(1834-1904)。素材の美しさと機能に応じたシンプルでダイナミックなデザインを生み出し、モダン・デザインへの道を切り拓いたデザイナーの、生活に根ざしたデザインの数々を紹介する。常設展では一度に展示できない作品、全98点が一堂に会する。

関連行事

○美術講座

「日本を旅したクリストファー・ドレッサー」

講師：佐藤秀彦(当館副館長)

日時：平成29年2月18日(土)午後2時から

場所：講義室

○美術講座

「ローダー・コレクションの魅力」

講師：新田量子(当館学芸員)

日時：平成29年3月4日(土)午後2時から

場所：講義室

○ギャラリートーク

講師：鈴木誠一(当館学芸課長)、菅野洋人、中山恵理、杉原聡、永山多貴子、富岡進一、田中有沙子(当館学芸員)

日時：平成29年2月、3月の毎週日曜日(会期中)各日午後2時から

場所：企画展示室

○ミュージアム・シアター

「イリュージョニスト」(2010年、イギリス/フランス)

日時：平成29年2月11日(土・祝)午後2時から

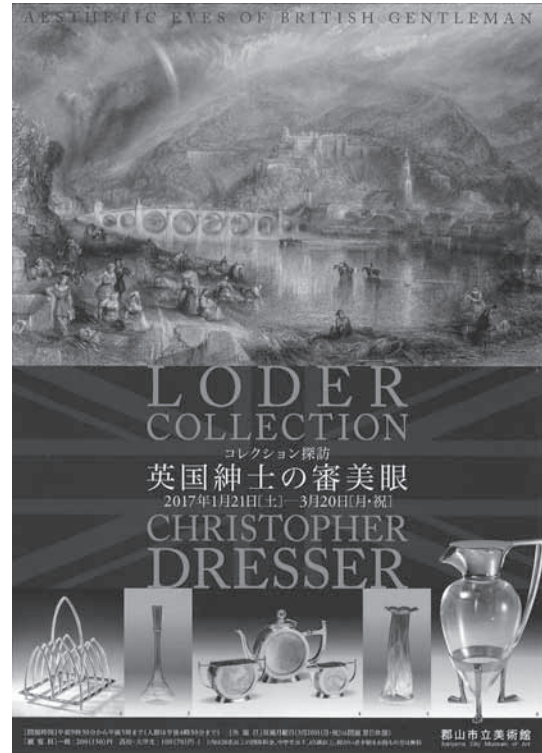
場所：多目的スタジオ

○ミュージアム・シアター

「サン・オブ・ゴッド」(2014年、アメリカ)

日時：平成29年3月12日(日)午前11時から

場所：多目的スタジオ



ポスター



鑑賞ガイド

発行物

「ローダー・コレクション 鑑賞ガイド」

210×99mm A4三つ折り(作品図版17点)

内容:「ローダー・コレクションについて」/「ターナー、コンスタブルを中心とした風景画家たち」/「ウィリアム・ブレイクとロマン派」/「ノリッジ派」/「ホイッスラーとその追従者たち」/「20世紀前半の画家たち」/「挿絵本〜ビユーイックからギルまで〜」

「クリストファー・ドレッサー 鑑賞ガイド」

210×99mm A4三つ折り(作品図版11点)

内容:「クリストファー・ドレッサー」/「ドレッサーのデザイン」/「ドレッサーの訪日」/「クリストファー・ドレッサー 年譜」

関連記事

新田量子「イギリス 洗練された美 コレクション探訪 英国紳士の審美眼」、『福島民友』平成29年1月16日付。

「コレクション探訪 英国紳士の審美眼」、『福島民友』平成29年1月20日付。

「イギリス美術の所蔵品並ぶ 郡山市立美術館 企画展始まる」、『福島民報』平成29年1月22日付。

「3月20日まで「英国紳士の審美眼」美術講座や映画上映 郡山市立美術館 期間中に関連行事」、『福島民報』平成29年1月23日付。



ローダー・コレクション



クリストファー・ドレッサー

出品目録

I ローダー・コレクション

作者名	作品名	制作年	技法
ターナー、コンスタブルを中心とした風景画家たち			
ポール・サンドビー	ラン・エガースト修道院またはクルーゼス溪谷とダイナス・プラン城	1776年	アクアチント、エッチング
ポール・サンドビー	聖アウグスチヌス修道院の大門、カンタベリー1782年		アクアチント、エッチング
トマス・ガーティン	パリの全景		アクアチント、エッチング
トマス・ガーティン	エア川沿いのカークストール修道院	1824年	メゾチント
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845年以前	メゾチント
ジョン・コンスタブル	ストーンヘンジ	1843-4年頃	メゾチント
ジョン・コンスタブル	ヤーマス、ノーフォーク	1832年	メゾチント、手彩色
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7年	メゾチント
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844年頃	メゾチント
ジョン・コンスタブル	荒野(ヒース)	1831年	メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛		エッチング、メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	インヴァレアリイピア、ファイン湖、朝	1811年	エッチング、メゾチント、アクアチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819年	エッチング、メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	アーヴロン川の水源		エッチング、メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824年	メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846年	エッチング、ライン・エングレーヴィング
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船(ドーバー海峡)	1830年	メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ドーバー海峡	1827年	エッチング、ライン・エングレーヴィング
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ストーンヘンジ	1829年	エッチング、ライン・エングレーヴィング
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	タイン川沿いのニューカースル	1826年	メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティーズ川の流れ、ヨークシャー		ライン・エングレーヴィング
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ランプリス湖、北ウェールズ	1834年	エッチング、ライン・エングレーヴィング
ウィリアム・ブレイクとロマン主義			
ジョン・マーティン	光の創造	1825年	メゾチント
ジョン・マーティン	墜落した天使たちを呼び覚ますサタン	1825年	メゾチント
ジョン・マーティン	ノアの大洪水	1828年	メゾチント
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』の挿絵より 「ヨブとその家族」	1825年	ライン・エングレーヴィング
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』の挿絵より 「この時、主はつむじ風の中からヨブに答えられた」	1825年	ライン・エングレーヴィング
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』の挿絵より 「天地創造」	1825年	ライン・エングレーヴィング
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 「好色な人々の園:バオロとフランチェスカ」	1826-27年	ライン・エングレーヴィング、ドライポイント
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 「腐敗した役人の囊:互いに互に裂き合うサタン」	1826-27年	ライン・エングレーヴィング、ドライポイント
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 「背信者たちの園:ボッカ・デッリ・アバーテを踏みつけるダンテの足」	1826-27年	ライン・エングレーヴィング、ドライポイント
ウィリアム・ブレイク	ヴァージルの田園詩 第1巻		木口木版、ライン・エングレーヴィング/本
エドワード・カルヴァート	小川	1829年	木口木版
エドワード・カルヴァート	貴夫人とミヤマガラス	1829年	木口木版
エドワード・カルヴァート	林檎酒の宴	1828年	木口木版
エドワード・カルヴァート	家路	1830年	木口木版
サミュエル・パーマー	牧夫の小屋(日没)	1850年	エッチング
サミュエル・パーマー	眠る羊飼いの早朝	1857年	エッチング
サミュエル・パーマー	夜回りの人	1879年	エッチング
サミュエル・パーマー	昇る月(イングランドの田園詩)	1857年	エッチング
ロビン・タナー	マーティンのあばら家	1927年	エッチング
クレアム・サザーランド	薪	1925年	エッチング
ノリッジ派			
ジョン・クローム	マウスホール・ヒース、ノリッジ	1810年頃	エッチング
ジョン・クローム	新しい水車場の正面、ノリッジ	1813年	エッチング
ジョン・クローム	新しい水車場の裏手、ノリッジ	1812年	エッチング
ジョン・クローム	道の風景、トロウス・ホール(ノリッジ付近)	1813年	エッチング
ジョン・クローム	クリングルフォード付近の歩道橋	1810年頃	エッチング
ジョン・セル・コットマン	カストール城	1815年	エッチング
ジョン・セル・コットマン	主教官邸の門、ノリッジ		エッチング
ジョン・セル・コットマン	丘の上の聖母マリアア礼拝堂、リン、ノーフォーク	1817年	エッチング
ジョン・セル・コットマン	『ジョン・セル・コットマンのエッチング集』	1811年刊	エッチング / ポートフォリオ
エドワード・トマス・ダニエル	ホウィットリンガム・ステイズ、ノリッジを望む	1827年	エッチング
ヘンリー・ニナム	仕上げ工の家、セント・マーティン通り、ノリッジ		エッチング
ヘンリー・ニナム	リーダム付近の粉ひき場、ノーフォーク		エッチング
ヘンリー・ニナム	ノース・ディーンズ、ヤーマス		エッチング
ヘンリー・ニナム	ピュアの思い出		エッチング
ヘンリー・ニナム	川と樹々、ホウィットリンガム、ノーフォーク		エッチング
ヘンリー・ニナム	聖ベネットの修道院、ホーニング、ノーフォーク	1831年	エッチング
ジョゼフ・スタナード	コテージの外観と人物(構図)	1828年頃	エッチング
ジョゼフ・スタナード	マンズリーの浜辺	1827年	エッチング
トマス・ラウンド	デビルズ・タワー——キャロウ・ブリッジから見たところ	1832年	エッチング
トマス・ラウンド	デビルズ・タワー——キャロウ・ブリッジに向かって見たところ		エッチング
ジョン・ミドルトン	クローマー付近の風景		エッチング
ホイットラーとその追隨者たち			
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイットラー	ラルエット坊や	1859年	エッチング

作者名	作品名	制作年	技法
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	寝床での読書	1858年	エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ランプの明かりでの読書	1858-59年	エッチング、ドライポイント
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	渡し場 No.2	1880年	エッチング、ドライポイント
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	吊り上げ橋、アムステルダム	1889年	エッチング
ウォルター・グリーヴス	荷船、ライム波止場	1871年	エッチング
テオドール・ルーセル	小さな魚屋、チェルシー		エッチング
ジョゼフ・ベネル	ベッセマーへ向かって	1908年	エッチング
ウォルター・シッカート	麦わら帽子	1907年頃	リトグラフ
ウォルター・シッカート	古風な考えの私の母	1928年頃	エッチング
モーティマー・メンペス	新作芝居	1887年頃	エッチング、ドライポイント
ミューアヘッド・ボーン	サンティアゴストリ運河と橋、ヴェニス	1916-24年	エッチング
デイヴィッド・ヤング・カメロン	シエナ	1900年	エッチング、ドライポイント

20世紀前半の画家たち

クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	アラスからバボームへの道	1918年	リトグラフ
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面より「4000フィートでの旋回飛行」	1917年	リトグラフ
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面より「空中で」	1917年	リトグラフ
チャールズ・ジナー	ピット・ハウス	1931年	木口木版
エドワード・ウォズワース	ストリート・シンガー	1914年	木版
エドワード・ウォズワース	乾ドッグ内の迷彩船	1918年	木版
ロバート・ギビングス	ペンキ屋	1921年	木口木版
ロバート・ギビングス	チューリップ	1922年	木口木版
ポール・ナッシュ	天空創造	1924年	木口木版
ポール・ナッシュ	楽園	1927年	木口木版
ポール・ナッシュ	倦怠	1927年	木口木版

挿絵本—ビューイックからギルまで—

トマス・ビューイック	野生の牝牛	1789年	木口木版
トマス・ビューイック(画・刻)	『四足獣概説』	1790年刊	木口木版／本
トマス・ビューイック(画・刻)	『英国鳥類誌 第二巻 水鳥編』	1804年刊	木口木版／本
エリック・ギル(画・刻)	『四福音書』 ※ゴールデン・コッカレルプレス版	1931年刊	木口木版／本
エリック・ギル(画・刻)	『四福音書』より「降架」	1931年	木口木版
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ(画)	W. モリス『世界の果ての泉』 ※ケルムスコット・プレス版	1896年刊	木口木版／本
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ(画)	F. エリス編集『ジェフリー・チャーサー作品集』 ※ケルムスコット・プレス版	1896年刊	木口木版／本
ディエル兄弟(刻)、J. レイトン(画)	R. ビゴット編『人の一生』	1866年刊	木口木版／本
ディエル兄弟(刻)、W. H. ハット、D.G. ロセティ、J. E. シイ他(画)	A. テニスン『詩集』	1859年刊	木口木版／本
ディエル兄弟(刻)、M.B. フォスター他(画)	W. ワーズワース『詩集』	1859年刊	木口木版／本
ディエル兄弟(刻)、G. J. ビンウエル他(画)	J. インジェロー『詩集』	1867年刊	木口木版／本
ディエル兄弟(刻)、G. J. ビンウエル他(画)	『ディエルのゴールドスミス作品集』	1875年刊	木口木版／本
フレデリック・サンズ他(画)	W. ソーンバリー『伝統的なバラッドと詩歌集』	1876年刊	エッチング／本
ウィリアム・ニコルソン(画)	『スポーツ歳時記』	1898年刊	リトグラフ／本
ローレンス・ハウスマン(画)	C. ロセティ『ゴブリン・マーケット』	1893年刊	ラインブロック／本
ロバート・ギビングス(画・刻)	L. ボウイス『生命の栄光』 ※ゴールデン・コッカレルプレス版	1934年刊	木口木版／本
ロバート・ギビングス(画・刻)	L. ボウイス『生命の栄光』 版木		

II クリストファー・ドレッサー

作品名	制作年	技法
クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)		ガラス、黒檀把手、銀金具
蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ
塩入れとスプーン	1884年	金属、電気メッキ
三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
六角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
シュガー・バスケット(穴あきふるい付き)	1884年	金属、銀メッキ
スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
トーストラック		金属、電気メッキ
トーストラック(楕円形)		金属、電気メッキ
レター・ラック(円形、可動式)		金属、電気メッキ
レター・ラック&ブックエンド	1885年	金属、電気メッキ
ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
柳編み把手付きダブルバスケット	1881年	金属、電気メッキ
ダブルバスケット(円形)	1880年	金属、電気メッキ
ダブルバスケット(楕円形)	1880年	金属、電気メッキ
スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
蓋付きバスケット、黒檀製把手		金属、銀メッキ、黒檀把手
銀製ティー・セット	1885年	銀、象牙、金メッキ
トーストラック	1879-80年	金属、電気メッキ
トーストラック(ポイントアーチ型)	1881年	金属、電気メッキ
ミルク入れ	1880年	金属、電気メッキ
デカンター・セット(栓付き細首ぶどう酒瓶)		ガラス、金属金具、電気メッキ

作品名	制作年	技法
真鍮製燭台(一対)		真鍮
把手付き燭台		銅、木製把手
足つきケトル		銅、木製把手
真鍮把手付きケトル	1885年	銅、真鍮
ファイヤードッグ(暖炉の薪台)		真鍮
孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
草花象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
ケトルとスタンド		銅、真鍮、鍛鉄
ケトルとスタンド		銅、真鍮
黄釉竹節型小皿	1879-82年頃	陶器
緑釉龍波濤文水差	1879-82年頃	陶器
緑釉人物文扁壺	1879-82年頃	陶器
緑釉サラダボウル(サーバー付き)	1879-82年頃	陶器、金属、電気メッキ
褐釉刻線文花瓶(一対)	1879-82年頃	陶器
褐釉瓢箪型花瓶	1879-82年頃	陶器
橋型二重注口人面壺	1879-82年頃	陶器
水差「ラクダの背」	1879-82年頃	陶器
褐釉和風花瓶(一対)	1879-82年頃	陶器
彩釉和風花瓶	1879-82年頃	陶器
褐釉細首花瓶	1879-82年頃	陶器
褐釉花瓶	1879-82年頃	陶器
彩釉台鉢	1879-82年頃	陶器
緑釉蓮花刻文皿	1879-82年頃	陶器
緑釉把手付花瓶	1879-82年頃	陶器
うに形容器	1879-82年頃	陶器
青緑釉水差	1879-82年頃	陶器
彩釉刻文把手付扁壺	1879-82年頃	陶器
緑釉刻文花瓶	1879-82年頃	陶器
青釉水差	1879-82年頃	陶器
彩釉把手付花瓶	1879-82年頃	陶器
彩釉細首水差	1879-82年頃	陶器
彩釉水差	1879-82年頃	陶器
褐釉刻文扁壺	1879-82年頃	陶器
彩釉水差	1879-82年頃	陶器
紅地彩釉壺	1879-82年頃	陶器
紅地緑釉壺	1879-82年頃	陶器
紅地彩釉花瓶	1879-82年頃	陶器
緑釉山羊面四耳壺	1892-95年頃	陶器
緑釉アカンサス型手付壺	1892-95年頃	陶器
緑釉植物刻文把手付花瓶	1892-95年頃	陶器
緑釉植物刻文花瓶	1892-95年頃	陶器
黄緑釉水差(一対)	1892-95年頃	陶器
黄緑釉アールヌーヴォー風裝飾文皿	1892-95年頃	陶器
紅地線文把手付花瓶(一対)	1892-95年頃	陶器
緑釉球形花生	1892-95年頃	陶器
色絵花鳥模様壺	1892-95年頃	陶器
色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95年頃	陶器
黄緑釉花瓶	1892-95年頃	陶器
刻文舟形容器	1892-95年頃	陶器
彩色金彩ロータス文大皿		陶器
金彩筒型三足花器		磁器
彩色金彩花模様水差		磁器
色絵金彩竹梅文水差		磁器
染付鳥文壺		磁器
染付鳥波濤文把手付鉢		磁器
ゴシック模様タイル(10枚)		磁器
金銀彩植物模様タイル		陶器
色絵花模様隅切角皿(4枚)	1886年	陶器
色絵草花文隅切角皿	1886年	陶器
色絵花模様長皿(3枚)	1886年	陶器
色絵花模様大皿	1886年	陶器
色絵花模様皿とボウルのセット	1886年	陶器
色絵椿文龍花瓶(一対)	1886年	陶器
花瓶(赤色クルーサ・グラス)		ガラス
瓶(淡緑色クルーサ・グラス)		ガラス
瓶(茶色クルーサ・グラス)		ガラス
瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス
プロペラ瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス
ローマン瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス
花瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス
花瓶(緑色クルーサ・グラス)		ガラス

資料

クリストファー・ドレッサー著	『アート・オブ・デコラティヴ・デザイン』	1862年	本
クリストファー・ドレッサー著	『デザイン研究』	1874-76年	本
クリストファー・ドレッサー著	『裝飾デザインの原理』	1874年	本
クリストファー・ドレッサー著	『日本-その建築、美術、工芸』	1882年	本

Ⅲ 教育普及事業

1) 美術館文化講座「アート・テーク」 参加者数 593名

文化資源としてのアートという視点から独自のテーマを設定し「アートを捉える」、「アートから捉える」ことを目的とした年6回の講座。講師は当館館長、そして当該領域の第一人者および最先端で研究・活動する講師を招聘した。

回	実施日	講座名	会場	講師	参加者数
1	平成28年5月28日(土) 午後2時～	日本美術史—骨董の歴史	講義室	佐治ゆかり(当館館長)	25
2	7月23日(土) 午後2時～	日本美術史—受容と展開	講義室	佐治ゆかり(当館館長)	25
3	9月24日(土) 午後2時～	合唱と共同体	多目的スタジオ	渡辺裕(東京大学教授)	45
4	11月26日(土) 午前10時～	第1部:ドキュメンタリー映画上映 ①「につつまれて」②「玄牝」	多目的スタジオ		85
	11月26日(土) 午後2時～	第2部:講演会「見えないものを見る力 ～ドキュメンタリーの現場から～」	多目的スタジオ	河瀬直美(映画監督)	150
5	平成29年1月28日(土) 午後2時～	動物ものまね—声の形象(かたち)	多目的スタジオ	江戸家小猫(演芸家)	150
6	3月18日(土) 午後2時～	レコードと暮らし 1部:講演会「レコードと暮らし」	多目的スタジオ	田口史人 (レコード店「円盤」店主)	83
	3月18日(土) 午後4時30分～	レコードと暮らし 2部「レコード寄席」	美術館内カフェ juju	田口史人 (レコード店「円盤」店主)	30
合 計					593



河瀬直美講演会(平成28年11月26日)



動物ものまね—声の形象(平成29年1月28日)



レコード寄席(平成29年3月18日)

2) 講演会 会場：多目的スタジオ 午後2時～ 5回 参加者数 493名

回	実施日	演題	講師	開催企画展	参加者数
1	平成28年 4月23日(土)	モノとの出会い	森田直(古民藝もりた店主)、 聞き手:佐治ゆかり(当館館長)	古民藝もりたの眼	125
2	6月25日(土)	吉田博—その水彩画の魅力	安永幸一(元福岡市美術 館副館長)	吉田博展	72
3	8月20日(土)	江戸時代における西洋更紗の輸 入とその受用	石田千尋(鶴見大学教授)	西洋更紗展	75
4	10月2日(日)	最後の印象派～ソシエテ・ヌーヴェ ルについて	古谷可由(公益財団法人 ひろしま美術館学芸部長)	最後の印象派	69
5	11月23日(水・祝)	MOA美術館の名品—岩佐又兵 衛を中心に—	矢代勝也(MOA美術館学 芸部次長)	MOA美術館名品展	152
合 計					493

3) 美術講座 午後2時～ 9回 参加者数 394名

回	実施日	演題	講師(当館学芸員)	会場	開催企画展	参加者数
1	平成28年 6月12日(日)	吉田博の木版画制作	田中有沙子	講義室	吉田博展	28
2	7月17日(日)	吉田博と不同舎の仲間たち	鈴木誠一 (当館学芸課長)	多目的 スタジオ		88
3	9月4日(日)	更紗と日本	佐治ゆかり (当館館長)	多目的 スタジオ	西洋更紗展	70
4	10月10日 (月・祝)	最後の印象派とその時代	田中有沙子	講義室	最後の印象派	24
5	10月30日(日)	最後の印象派の魅力	富岡進一	講義室		22
6	11月12日(土)	浮世絵事始	鈴木誠一 (当館学芸課長)	多目的 スタジオ	MOA美術館名品展	75
7	12月10日(土)	琳派の美	鈴木誠一 (当館学芸課長)	多目的 スタジオ		64
8	平成29年 2月18日(土)	日本を旅したクリスティーナ・ドレッサー	佐藤秀彦 (当館副館長)	講義室	英国紳士の審美眼	13
9	3月4日(土)	ローダー・コレクションの魅力	新田量子	講義室		10
合 計						394

4) ギャラリートーク 会場：企画展示室 午後2時～ 17回 参加者数 499名

回	実施日	講師(当館学芸員)	開催企画展	参加者数
1	平成28年 5月14日(土)	森田直(古民藝もりた店主)	古民藝もりたの眼	82
2	5月21日(土)	佐治ゆかり(当館館長)		34
3	6月4日(土)	鈴木誠一(当館学芸課長)	吉田博展	45
4	7月2日(土)	田中有沙子		28
5	8月14日(日)	永山多貴子	西洋更紗展	25
6	8月28日(日)	永山多貴子		22
7	9月25日(日)	富岡進一	最後の印象派	27
8	10月23日(日)	田中有沙子		36

回	実施日	講師(当館学芸員)	開催企画展	参加者数
9	11月5日(土)	鈴木誠一(当館学芸課長)	MOA美術館名品展	72
10	12月3日(土)	鈴木誠一(当館学芸課長)		58
11	平成29年 2月5日(日)	菅野洋人	英国紳士の審美眼展	12
12	2月12日(日)	鈴木誠一(当館学芸課長)		16
13	2月19日(日)	永山多貴子		12
14	2月26日(日)	杉原聡		9
15	3月5日(日)	富岡進一		3
16	3月12日(日)	中山恵理		4
17	3月19日(日)	田中有沙子		14
合 計				499

5) ワークショップ 会場：多目的スタジオ他 7回 参加者数 197名

回	実施日	講座名	講師	参加者数
1	7月9日(土)、10日(日)、 16日(土)、17日(日)	初心者のための木版画	木下泰嘉(版画家)	15
2	平成28年8月6日(日)	第11回風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ!	小中学校の教諭	78
3	9月10日(土)	季節を染める—枇杷(びわ)—	佐治ゆかり(当館館長)	14
4	10月8日(土)、9日(日)、 22日(土)、23日(日)	初心者のための油彩画	青山ひろゆき (画家・東北芸術工科大学准教授)	15
5	12月18日(日)	季節を染める—桐(くぬぎ)—	佐治ゆかり(当館館長)	12
6	平成29年3月4日(土)、 5日(日)、12日(日)	初心者のための銅版画	安藤真司(版画家)	15
7	3月19日(土)、20日(日)	春休み親子ワークショップ「めぐる・みつげる・イギリスの旅」	藤田百合(女子美術大学講師)	48
合 計				197

「初心者のための木版画」(連続講座)

「吉田博展」関連企画。四版多色刷りでアウトライン的な主版を一版作り、色版を加えて制作した。

講 師：木下泰嘉氏(版画家、日本版画協会会員)

日 時：平成28年7月9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)

土曜日：午後1時～午後5時 日曜日：午前10時～午後5時

会 場：創作スタジオ

参加者：15名



公開ワークショップ

「第11回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！」

「第15回風土記の丘の美術展～郡山市内の小学生の作品展～」関連企画。小・中学校で行われている図工と美術の授業内容を紹介するワークショップを自由参加型で実施した。

講 師：小中学校の教諭

日 時：平成28年8月6日(土)午前11時～正午、午後2時～午後3時

会 場：多目的スタジオ

参加者：78名



「季節を染める—枇杷（びわ）—」

「西洋更紗 トワレ・ド・ジュイ展」関連企画。枇杷の葉を材料にスカーフ染めを行なった（染液は前日に一染目二染目を用意した）。詳細なレクチャーの後、ミョウバンと木酢酸鉄による媒染でシルク素材の二種類のスカーフを染めた。色合いの濃い染液から色素がしっかりと抽出されていていずれの媒染も見事に染まった。

講師：佐治ゆかり（当館館長）

日時：平成28年9月10日（土）午前10時～午後3時30分

会場：創作スタジオ

参加者：14名



「初心者のための油彩画」（連続講座）

「最後の印象派」展関連企画。静物画を油絵で描くワークショップ。12号のキャンバスに、リンゴ、カボチャ、ボトル、牛骨などのモチーフを描いた。

講師：青山ひろゆき氏（画家、東北芸術工科大学准教授）

日時：平成28年10月8日（土）、9日（日）、22日（土）、23日（日）

午前10時～午後5時

会場：多目的スタジオ

参加者：15名



「季節を染める—桐（くぬぎ）—」

染色についてのレクチャーを交えながら、桐の殻斗（美術館の敷地内で採取されたもの）を材料に鉄媒染によってパシュミナと絹素材の2種類のストールを染めた。パシュミナのストールには各自「絞り」をほどこし、表情豊かに仕上げた。

講師：佐治ゆかり（当館館長）

日時：平成28年12月18日（日）午前10時～午後2時30分

会場：創作スタジオ

参加者：12名



「初心者のための銅版画」（連続講座）

「コレクション探訪 英国紳士の審美眼」関連企画。繊細な線が表現できるエッチング技法とハーフトーンの色面が表現できるアクアチント技法を併用し、作品を制作した。

講師：安藤真司氏（版画家）

日時：平成29年3月4日（土）、3月5日（土）、12日（日）午前10時～午後5時

会場：創作スタジオ

参加者：15名



春休み親子ワークショップ

「めぐる・みつける・イギリスの旅!」

「コレクション探訪 英国紳士の審美眼」関連企画。クリアファイルのシートにポストカードで風景を描いたり、皿に絵を描く活動を行なった。

講師：藤田百合氏（女子美術大学講師）

日時：平成29年3月19日（日）、20日（月・祝）

午前11時～午後3時

会場：多目的スタジオ

参加者：19日：8組20名 20日：10組28名



6) ミュージアム・シアター 会場：多目的スタジオ 午後2時～ 8回 参加者数 593名

映画もまた芸術の一表現手段であるという観点から、一般上映館ではあまり上映されない過去の名作や実験映画、美術映画などを上映するとともに、市民に美術館を身近なものとして親しんでもらうために、子どもから高齢者まで楽しめる映画を上映する。なお、平成29年3月12日(日)の「サン・オブ・ゴッド」のみ午前11時から上映した。

回	実施日	上映時間	上映作品	監督・出演等	関連企画展	参加者数
1	平成28年 5月7日(土)	100分	「時代屋の女房」	監督：森崎東 出演：渡瀬恒彦 他	古民藝もりたの眼	141
2	6月18日(土)	71分	「山男の歌」	監督：村山三男 出演：藤巻潤他	吉田博展	91
3	8月11日 (木・祝)	122分	「マリー・アントワネット」	監督：ソフィア・コッポラ 出演：キ ルステイン・ダンスト他	西洋更紗展	104
4	9月19日 (月・祝)	40分	「ピクニック」	監督：ジャン・ルノワール 出演： シルヴィア・バタイユ他	最後の印象派	53
5	10月15日(土)	102分	「フレンチ・カンカン」	監督：ジャン・ルノワール 出演：ジャ ン・ギャバン他		62
6	11月20日(日)	100分	「山中常盤」	監督：羽田澄子 出演：片岡京 子他	MOA美術館名品展	72
7	平成29年 2月11日(土・祝)	80分	「イリュージョニスト」	監督：シルヴァン・ショメ 原作： ジャック・タチ	英国紳士の審美眼	40
8	3月12日(日) 午前11時～	138分	「サン・オブ・ゴッド」	監督：クリストファー・スペンサー 出演：ディオゴ・モルガド他		30
合 計						593

7) ミュージアム・コンサート 会場：階段ホール 午後6時30分～ 1回 参加者数 180名

ミュージアム・コンサートとして、日本を代表するクラシックギタリスト村治佳織氏の演奏会を開催した。

回	実施日	タイトル	参加者数	開催企画展
1	平成29年3月11日(土)	村治佳織 ギター・コンサート ～静かな始まり～	180	英国紳士の審美眼



8) 学校との連携事業

①第15回風土記の丘の美術展 ～郡山市内の小学生による作品展～

主催：郡山市立美術館、郡山市小学校造形教育研究会

郡山市内の小学生が図工教科の授業で制作した造形作品を美術館内に展示した。子どもたちの造形活動を促し、教科研究に役立てるとともに、市民が美術館に身近に接する機会をつくる目的で毎年開催している。

会期：平成28年7月18日（月・祝）～8月21日（日）

1期 中方部（7月18日～7月24日）

2期 東方部（7月26日～7月31日）

3期 西方部（8月2日～8月7日）

4期 南方部（8月9日～8月14日）

5期 南方部（8月16日～8月21日）

参加校：61校

作品点数：360点

会場：美術館ロビー

②第9回風土記の空 ～郡山市内の中学校美術部による作品展～

郡山市内の中学生が、美術部活動において制作した作品を美術館内に展示した。この展覧会は、美術館と中学校との連携と美術活動の活性化を目的に実施し、額装や展示等も中学生が行っている。

参加校／日和田中学校、守山中学校、郡山第二中学校、郡山第三中学校、郡山第四中学校、緑ヶ丘中学校、小原田中学校、西田中学校（計8校）

会期：平成28年11月12日（土）～12月11日（日）

会場：美術館ロビー

③鑑賞学習対応

幼稚園2園100名 小学校17校880名 中学校33校3688名 高等学校3校177名

④講師派遣

・平成28年度郡山市小学校造形教育研究会研修会

日時：平成28年5月18日（水）15：00～17：00

場所：多目的スタジオ

講師：永山多貴子

・平成28年度郡山市小学校教育研究会図画工作科部会研修会

日時：平成28年6月1日（水）14：00～16：00

場所：多目的スタジオ

講師：永山多貴子

・平成28年度田村地区中教研美術部

日時：平成28年10月26日（水）14：00～16：30

場所：講義室

講師：富岡進一

9) 対外協力

①博物館実習（1件）

期間：平成28年7月30日（土）～8月10日（水）

受入校及び実習生数：4校5名

秋田公立美術大学（1名）／中央大学（1名）／京都造形芸術大学（1名）／郡山女子大学短期大学部（2名）

実習内容：

作品の取扱（平面・立体）、各概論（収集・保存・展示・普及）、機器取扱（カメラ・温湿度計など）、野外彫刻洗浄、ワークショップ補助、体験実習（ギャラリートーク、企画展立案及びプレゼンテーション）

②ジュニア・インターンシップ（1件）

期間：平成28年11月8日（火）～10日（木）

受入校及び実習生数：2校9名

清陵情報高校（4名）／安積高校御館校（5名）

実習内容：

概論（美術館に係る職業について）、作業補助（広報作業、図書整理など）、体験実習（教材使用、監視業務）

10) 図書資料・視聴覚資料

調査研究及び教育普及を目的とし、昭和63年から図書、ビデオ、レーザーディスク、CD-ROM、DVDなどの二次資料を収集し、一部は開架式図書コーナーにおいて公開している。

この二次資料は、平成28年度末現在23,000件を越えているが、専門職員（司書）の配置がなされていないために、慢性的な未整理状態が続いている。早急な司書の配置が望まれる。

11) 刊行物

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー 8ページ

第48号（平成28年7月1日発行）

記事

吉田博《村里の子供たち（岩戸）》	表紙
田中有沙子「生誕140年 吉田博展 世界の美しい風景を求めて」	p.2
永山多貴子「西洋更紗 トワルド・ジュイ展 愛され続けるフランスの西洋更紗」	p.3
新田量子「常設展示室から」	p.4
鈴木誠一「新収蔵作品 山本森之助《冬の磐梯山》」	p.4-5
中山恵理「秋山泰計のおびからくりと模型展示」	p.5
宗像利訓「「初心者のための陶芸ワークショップ」をふりかえって」	p.6
Report（ワークショップ等）	p.7
INFORMATION、TOPICS	p.8

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー 8ページ

第49号（平成28年10月7日発行）

記事

佐藤秀彦「クリストファー・ドレッサー《トースト・ラック（ポイントアーチ型）》	表紙
田中有沙子「最後の印象派展 ベル・エポックの象徴 親密派のまなざし」	p.2
鈴木誠一「MOA美術館名品展 秀吉、利休、仁清、宗達、光琳、師宣、北斎…そして又兵衛」	p.3
「雪村周継《四季山水図屏風》特別展示」	p.3
新田量子「英国紳士の審美眼展 郡山市立美術館コレクションの粋を特別展示」	p.4
木下泰嘉「「初心者のための木版画」をふりかえって」	p.5
佐藤禎仁「美術館で「図工の時間」での出会い」	p.6
Report（ワークショップ等）	p.7
INFORMATION、TOPICS	p.8

郡山市立美術館年報 平成27年度

A4判 76ページ（平成27年9月2日発行）

ザ・ルーフ・ミュージアム・カレンダー

A4片面カラー三ツ折

常設展示目録

「常設展示目録 第1期 平成28年4月20日～7月18日」	A4両面モノクロ 4ページ
「常設展示目録 第2期 平成28年7月21日～10月16日」	A4両面モノクロ 4ページ
「常設展示目録 第3期 平成28年10月19日～平成29年1月29日」	A4両面モノクロ 4ページ
「常設展示目録 第4期 平成29年2月1日～4月23日」	A4両面モノクロ 4ページ

ポスター・チラシ・パンフレット

古民藝もりたの眼

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー、「古民藝もりたの眼」小冊子 A5 カラー 32 ページ

生誕 140 年 吉田博展

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー

郡山市立美術館文化講座「アート・テーク」チラシ

チラシ A4 片面 2 色、片面 1 色

郡山市立美術館 夏・秋プログラム

A3 四つ折り両面カラー

西洋更紗 トワル・ド・ジュイ展

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー

最後の印象派

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー

MOA 美術館名品展

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー、鑑賞ガイドブック A5 カラー 16 ページ

英国紳士の審美眼

ポスター B2 カラー、チラシ A4 両面カラー、鑑賞ガイド「ローダー・コレクション」A4 両面カラー三つ折り、鑑賞ガイド「クリストファー・ドレッサー」A4 両面カラー三つ折り

村治佳織ギターコンサートパンフレット

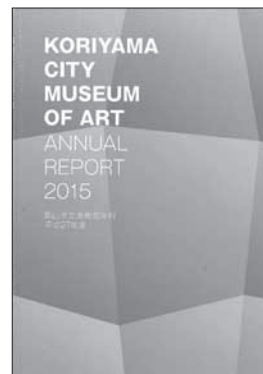
A4 二つ折り、片面 4 色、片面 1 色



ザ・ルーフ 第 48 号



ザ・ルーフ 第 49 号



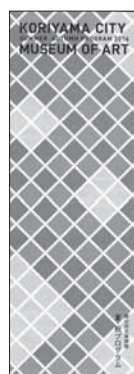
年報 平成 27 年度



カレンダー



アート・テーク チラシ



夏・秋プログラム



コンサート・パンフレット

12) 館外での活動及び関連記事

他機関からの委嘱

- ・佐治ゆかり: 仙台市文化財保護審議会委員 (平成 26 年 12 月～)、美術館連絡協議会理事 (平成 28 年 4 月～)、全国美術館会議理事 (平成 28 年 4 月～)。
- ・佐藤秀彦: 茨城県陶芸美術館美術資料審査委員会委員 (平成 23 年度～)。
- ・中山恵理: 福島県生涯学習審議会委員 (平成 21 年度～ 28 年度)。
- ・菅野洋人: 郡山市ふれあい科学館第 16 回コンピュータグラフィックス展審査員。
- ・杉原 聡: 福島大学芸術による地域創造研究所客員研究員 (平成 21 年度～)。

講演

- ・杉原聡 「スペシャル・ギャラリートーク 新収蔵 鎌田正蔵展」 福島県立美術館企画展示室、平成 29 年 2 月 4 日。
- ・佐治ゆかり 「芝居興行と地域社会-近世の庄内藩の事例より-」 飯田市歴史研究所、平成 29 年 2 月 26 日。

市政きらめき出前講座

- ・菅野洋人「郡山ゆかりの美術講座」郡山市立大田小学校、平成28年6月17日。
- ・鈴木誠一「美術に関する教養講座」大槻東地域公民館、平成28年11月11日。
- ・鈴木誠一「美術に関する教養講座」あさかの学園大学専門課程1年芸術・文化学科、ビッグアイ7F、平成28年11月18日。
- ・永山多貴子「美術に関する教養講座」さわやかチャレンジ学級（後期）、永盛地域公民館、平成29年1月17日。
- ・菅野洋人「郡山ゆかりの美術講座」あさかの学園大学教養課程1年芸術・文化学科、ビッグアイ7F、平成29年2月17日。

寄稿

- ・佐治ゆかり「東京大学大学院人文科学系研究科・文学部 文学部の窓 文学部卒業生インタビュー #003 佐治ゆかりさん」http://www.l.u-tokyo.ac.jp/interview/graduates/vol_03/
- ・鈴木誠一「街なかのアート17 世界的な風景画家は久留米土族」、『街こおりやま』平成28年4月号、第492号、街こおりやま社、吉田博《村里の子供たち（岩戸）》掲載。
- ・菅野洋人「街なかのアート18 郡山市歴史資料館壁画」、『街こおりやま』平成28年5月号、第493号、街こおりやま社。
- ・中山恵理「街なかのアート19 十六橋のファン・ドールン銅像」、『街こおりやま』平成28年6月号、第494号、街こおりやま社。
- ・菅野洋人「街なかのアート20 及川正通「空飛ぶカーニバル」ポスター」、『街こおりやま』平成28年7月号、第495号、街こおりやま社。
- ・佐治ゆかり「ティータイム223 展覧会に行くということ」、『福島民報』平成28年7月1日付。
- ・菅野洋人「街なかのアート21 《湯浅為之進胸像》」、『街こおりやま』平成28年8月号、第496号、街こおりやま社。
- ・永山多貴子「街なかのアート22 吉井忠「敗れたる風景」」、『街こおりやま』平成28年9月号、第497号、街こおりやま社、吉井忠《敗れたる風景》掲載。
- ・永山多貴子「街なかのアート23 バリー・フラナガン「野兎と鐘」」、『街こおりやま』平成28年10月号、第498号、街こおりやま社、バリー・フラナガン《野兎と鐘》掲載。
- ・杉原聡「街なかのアート24 マンホールの蓋」、『街こおりやま』平成28年11月号、第499号、街こおりやま社。
- ・富岡進一「街なかのアート25 第9回風土記の空」、『街こおりやま』平成28年12月号、第500号、街こおりやま社。
- ・佐治ゆかり「ティータイム228 銀杏考」、『福島民報』平成28年12月2日付。
- ・菅野洋人「街なかのアート26 雪村庵」、『街こおりやま』平成29年1月号、第501号、街こおりやま社。
- ・菅野洋人「街なかのアート27 福島県立安積高等学校史料館壁画」、『街こおりやま』平成29年2月号、第502号、街こおりやま社。
- ・田中有沙子「街なかのアート28 街路灯」、『街こおりやま』平成29年3月号、第503号、街こおりやま社。

関連記事

新聞

- ・「美術館の今をたずねて 松本市出身の建築家 柳沢孝彦さん」『信濃毎日新聞』平成28年7月15日付、美術館外観掲載。
- ・「中学校美術部員の作品展」、『福島民報』平成28年11月27日付。
- ・「創作活動歩み語る 映画監督・河瀬直美さん」、『福島民報』郡山版、平成28年11月28日付。

雑誌その他

- ・中山真一著『愛知洋画壇物語 PART II』風媒社、平成28年7月1日、北川民次《本を読む労働者》掲載。
- ・瀬尾典昭編著『近代日本水彩画一五〇年史』国書刊行会、平成28年6月22日、サー・アルフレッド・イースト《荒れ模様》、ジョン・ヴァーレー・ジュニア《雪の京都、祇園へゆく道》、アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ《箱根の秋》、真野紀太郎《ウェリントン植物園》掲載。
- ・シンポジウム「岡山蘭学の群像」第5回チラシ、平成28年8月4日開催、山陽放送学術文化財団、亀井至一《岸田吟香像》掲載。
- ・『塩原温泉ストーリー』那須塩原市那須野が原博物館、平成28年9月17日、《故高橋由一享年六十七歳像》掲載。
- ・『月刊誌アートコレクターズ』平成28年10月号、生活の友社、平成28年9月24日、バーン=ジョーンズ《フローラ》掲載。
- ・池上英洋著『マンガでわかる「西洋絵画」の見かた』誠文堂新社、平成28年10月6日発行、ターナー《カンバーランド州のコールダー・ブリッジ》掲載。
- ・『旅する人びと 東海道五十三次から世界へ』川崎市民ミュージアム、平成28年10月8日、亀井竹二郎《石版『懐古東海道五十三駅真景』油彩原画のうち「藤川駅 八幡山眺望」》《石版『懐古東海道五十三駅真景』油彩原画のうち「赤阪駅」》掲載。
- ・『2016 ふたたび久留米からはじまる。九州洋画』久留米市美術館、平成28年11月18日、床次正精／山下房親《西郷隆盛肖像》掲載。
- ・『奥州二本松』歴史春秋社、平成28年12月19日発行、荻生天泉《行成卿》掲載。
- ・大久保守「海を見つめる画家たち 石川寅治 上」『千葉日報』平成28年12月9日付、石川寅治《房総風景》掲載。
- ・守安敏久著『寺山修司論 バロックの大世界劇場』国書刊行会、平成29年2月25日、「寺山修司・劇場美術館展 1935-2008」チラシ掲載。
- ・『MINERVA 2017』クオリアート、平成29年3月13日、オーブリー・ピアズリー《サロメ（おまえの口に口づけしたよ、ヨカナン）》《アーサー王の死（アーサー王、探し求めていた獣に出会う）》、サー・アルフレッド・イースト《九月の陽光》《荒れ模様》掲載。

IV 作品収集・保存管理事業

1) 収蔵作品・美術資料・寄託作品一覧

美術品の収集は、(1)イギリスの近代美術、(2)日本の近代美術、(3)郡山ゆかりの美術、(4)本(版)の美術、の4つの柱を基本方針として行っている。平成27年度の新収蔵作品はない。

	油 彩	水彩、素描	日本画	版 画	彫刻	工芸	計	美術資料
平成12年度まで	231	353	28	1,198	24	166	2,000	103
平成13年度	2	0	2	21	1	2	28	0
平成14年度	16	27	0	29	6	16	94	0
平成15年度	2	0	2	0	0	0	4	0
平成16年度	9	1	1	0	0	0	11	0
平成19年度	0	0	17	0	8	5	30	0
平成20年度	13	16	0	1	1	0	31	0
平成24年度	4	0	0	2	0	0	6	2
平成25年度	2	0	0	0	0	1	3	0
平成26年度	1	0	0	3	1	22	27	7
合計	280	397	50	1,254	41	212	2,234	112

2) 収蔵作品貸出状況

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
安藤重春	皎	第30回郡山市美術連盟展記念	郡山市民文化センター	平成28年3月23日(水)～3月29日(火)
吉田博	上野、東照宮②③④	生誕140年 吉田博展	千葉市美術館①	平成28年4月9日(土)～5月22日(日)
	武州飯能町、入間川辺②③④			
	山村風景①		久留米市美術館②	平成29年2月4日(土)～3月20日(月・祝)
	花のある風景②③④			
	村里の子供たち(岩戸)①			
	風景①		上田市立美術館③	平成29年4月29日(土)～6月18日(日)
	夕暮②③④			
	ウインザー橋②③④			
	檜原下川のつなさんの馬②③④			
	積み藁のある風景①			
	滞船、薄暮①		東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館④	平成29年7月8日(土)～8月27日(日)
つつじの咲く高原②③④				
信州風景①				
吉田博・中川八郎・満谷国四郎・小杉未醒・大下藤次郎・石川寅治	『瀬戸内写生旅行』①			
中川八郎・吉田博・石川寅治	『琉球』②③④			

※作品名の丸数字は出品された会場名に対応する。

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
鎌田正蔵	鳥が落ちる (’86.4.26 の記録)	いま、被災地から—岩手・宮城・福島の美術と震災復興—	東京藝術大学大学美術館	平成 28 年 5 月 17 日(火) ～ 6 月 26 日 (日)
各務鑑三	クリスタル花瓶 《鱗影》	日本のグラヴィール	町田市立博物館	平成 28 年 9 月 10 日(土) ～ 11 月 27 日 (日)
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し			
	花器・ちょっと考えて(樹)			
	瓶・ガラスの神様			
	植物文瓶			
	大杯・ガラスを吹く人			
	大杯・ワインを造る			
	タンブラー (うち 1 点)			
ルーマー杯・なみなみのワインを				
竹に雀文ワイングラス				
葡萄酒文ワイングラス				
フランク・ブランギン ウォルター・シッカート	花園 カフェの中	松方コレクション—松方幸次郎 夢の軌跡—	神戸市立博物館	平成 28 年 9 月 17 日(土) ～ 11 月 27 日 (日)
岸田劉生	銀座と数寄屋橋畔	動き出す! 絵画	東京ステーション ギャラリー	平成 28 年 9 月 17 日(土) ～ 11 月 6 日 (日)
			和歌山県立近代 美術館	平成 28 年 11 月 19 日(土) ～ 平成 29 年 1 月 15 日(日)
バーナード・リーチ	きこり		下関市立美術館	平成 29 年 1 月 28 日(土) ～ 3 月 12 日 (日)
デイヴィッド・ホックニー	『放蕩者のなりゆき』 (16 点組)	デイヴィッド・ホックニー 版画展	町田市立国際版 画美術館 いわき市立美術館	平成 28 年 10 月 1 日(土) ～ 11 月 23 日 (水・祝) 平成 29 年 6 月 10 日(土) ～ 7 月 17 日 (月・祝)
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵 地帯の森の風景 牧夫と牛のいる森 の風景	開館 10 周年記念 風景への視線—郡山市 立美術館所蔵近代イギ リス風景画展	小金井市立はけ の森美術館	平成 28 年 10 月 7 日(金) ～ 12 月 18 日 (日)
ポール・サンドビー	『ウェールズ 12 景』 第 1 部			
ジョン・クローム	カーナーヴォン城			
ジョン・コンスタブル	ヘレスドンの眺め			
	荒野 (ヒース)			
ジョン・セル・コットマン	穀物畑の農家			
	虹、ソールズベリー 大聖堂			
ジョゼフ・マロード・ウィ リアム・ターナー	ビーストン小修道 院、ノーフォーク			
	ルーアン、ラ・ピュ セル広場のブルト ルド館			
	フェカンのロマネス ク遺跡			
	コニストンの荒地			
	アーヴロン川の水 源			
	ドーバー海峡			
	ストーンヘンジ			

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク ポッカチオの庭（鳥かご）	(前頁から)		
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘			
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス溪谷			
トマス・ガーティン	パリの全景			
ジョン・マーティン	ノアの大洪水 フレッシュウォーター・ベイ	開館 10 周年記念 風景への視線—郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展	小金井市立はげの森美術館	平成 28 年 10 月 7 日(金) ～ 12 月 18 日 (日)
サミュエル・パーマー	登る月（イングランドの田園詩） 生命の朝 孤高の塔			
サー・アルフレッド・イースト	荒れ模様			
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋			
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋			
チャールズ・ワーゲマン	西洋紳士スケッチの図			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ			
サー・アルフレッド・イースト	雨の湯本 雨後の傘干し 村の茶店、箱根	旅するイギリス美術	栃木県立美術館	平成 28 年 10 月 29 日(土) ～ 12 月 25 日 (日)
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店			
黒沢吉蔵	ガスタンクのある風景	創画会 70 周年記念展	飯田市美術博物館 福井県立美術館 弥彦村コミュニティセンター 砺波市美術館 東京都美術館 京都市美術館別館・日図デザイン博物館 松坂屋美術館 秋野不矩美術館	平成 29 年 3 月 18 日(土) ～ 5 月 7 日 (日) 平成 29 年 5 月 10 日(水) ～ 5 月 24 日 (水) 平成 29 年 6 月 3 日 (土) ～ 7 月 9 日 (日) 平成 29 年 7 月 22 日(土) ～ 8 月 27 日 (日) 平成 29 年 10 月 24 日(火) ～ 10 月 30 日 (月) 平成 29 年 11 月 7 日(火) ～ 11 月 12 日 (日) 平成 29 年 12 月 6 日(水) ～ 12 月 17 日 (日) 平成 30 年 1 月 20 日(土) ～ 3 月 25 日 (日)
雪村周継	四季山水図屏風	雪村 奇想の誕生	東京藝術大学大学美術館 MIHO MUSEUM	平成 29 年 3 月 28 日(火) ～ 5 月 21 日 (日) 平成 29 年 8 月 1 日 (火) ～ 8 月 31 日 (木)

3) 収蔵作品修復状況

◆サー・アルフレッド・イースト《スウェル川のほとり》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：不詳

修復前寸法 71.5×91.8cm 修復後寸法 71.2×91.7cm

修復者：(有) 修復研究所 21

修復前の状況

- 画面全体に塗布されている旧ワニスの黄化が著しいため、絵具の色調が暗く沈んでいる。
- 絵具層の一部に浮き上がりが生じている。
- 旧裏打ちで熱と圧力が加えられたことによる、絵具のマチエールの潰れが見られる。
- 四辺に絵具の剥落や旧充填補彩が集中している。耳（張りしろ）を切断した際に生じた損傷とそれに対する処置と思われる。
- 左右と上辺に充填と補彩の跡があるが、充填剤がオリジナルの絵画層に被るように塗布され、整形も合っていない。
- 木枠に目の粗い麻布が張られ、その上から裏打ちした作品が張り込まれている。
- 額縁のモテリングが数カ所外れており、剥落も多数生じている。
- 作品寸法と額縁の窓寸法に十分な余裕がなく、額縁裏面には開けられた穴が多数みられることから、額縁は本作品のオリジナルのものではないと考えられる。

修復内容

- 浮き上がり接着（膠水）
- 画面洗浄（精製水）
- 旧ワニス除去（ミネラルスピリット+エタノール）
- 支持体裏面のゴミなどを除去し殺菌（エタノール水）
- 剥落箇所の充填整形（ポローニャ石膏+膠水）及び補彩（溶剤型アクリル樹脂絵具）
- ワニス塗布（チアベンダゾールを主剤とする防黴剤入りワニス・ダンマル樹脂ワニス）
- 額縁の破損部接着（膠水）・剥落部の充填整形（ポローニャ石膏+膠水）・補彩（アクリル絵具）・吊り金具交換・裏蓋の取り付け（ポリカーボネート）

◆小出楯重《自画像》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：1918年（大正7）

修復前寸法 45.5×37.8cm 修復後寸法 45.5×38.0cm

修復者：(有) 修復研究所 21

修復前の状況

- 画面全体に厚めに塗布されている旧ワニスの光沢が強すぎるため、鑑賞の妨げとなっている。
- 四辺に額当たりによる擦れがある。
- 修復歴があり、処置時の高い温度での加温と加圧による絵具の潰れが生じている。
- 下部に細かな剥落が集中している。
- 左右方向の亀裂が多いため、作品は巻かれた経歴があると推察する。
- 上辺や頬周辺に旧補彩が見られる。
- 帽子にチョーキングが生じている。
- 耳周辺に黴跡が点在している。
- 耳（張りしろ）は切断され、棧付のパネルに張り替えられている。
- パネル裏面には虫食いによる穴が点在している。
- 額縁の塗装や石膏の剥落が広範囲に生じている。

修復内容

- 浮き上がり接着（膠水）
- 画面洗浄（精製水）
- 支持体裏面のゴミなどを除去し殺菌（エタノール水）
- 剥落箇所の充填整形（ポローニャ石膏+膠水）及び補彩（溶剤型アクリル樹脂絵具）

○ワニス塗布（チアベンダゾールを主剤とする防黴剤入りワニス・ターンレス製マットワニス（DAMARVERNIS MAT））

○額縁の浮き上がり部接着（膠水）・剥落部の充填整形（ポローニャ石膏+膠水）・補彩（アクリル絵具）・吊り金具交換・裏蓋の取り付け（ポリカーボネート）

◆林重義《顔（自画像）》

技法材質：油彩・キャンバスボード

制作年：不詳

修復前寸法 41.0×32.0cm 修復後寸法 40.9×32.1cm

修復者：（有）修復研究所 21

修復前の状況

- 画面全体に厚めに塗布されている旧ワニスに溜まりが生じており、黄化、褐色化が著しく、亀裂が生じている。
- 旧ワニスの厚みと強い光沢による反射が鑑賞の妨げとなっている。また、旧ワニスの劣化により、オリジナルの色調が損なわれている。
- キャンバスボードに画布が貼られ、上下に装飾された厚紙が施されているが、キャンバスボードと支持体の接着が不十分な部分があり、浮いている。
- 支持体は弓なりに大きく湾曲している。
- 額縁の塗装や石膏の剥落が広範囲に生じている。

修復内容

- 画面洗浄（精製水）
- 旧ワニス除去（ミネラルスピリット+エタノール）
- 支持体裏面のゴミなどを除去し殺菌（エタノール水）
- ワニス塗布（チアベンダゾールを主剤とする防黴剤入りワニス・ダンマル樹脂ワニス）
- 剥落箇所の補彩（溶剤型アクリル樹脂絵具）
- 額縁の浮き上がり部接着（膠水）・剥落部の充填整形（ポローニャ石膏+膠水）・補彩（アクリル絵具）・吊り金具交換・裏蓋の取り付け（ポリカーボネート）



林重義《顔（自画像）》（部分・修復前）



林重義《顔（自画像）》（部分・修復後）



林重義《顔（自画像）》（修復後）

□紙作品マット装作業

郡山市立美術館では多数の紙を支持体とする作品を収蔵しているが、そのなかに額装やマット装されていない作品も多数含まれている。それらは、常設展示などへの出し入れの際に、破損や折れなどが生じやすい状態のため、平成25年度から必要に応じて物理的、化学的な修復もいれながら、順次マット装化を進めていくことになった。マットへの固定は、原則として和紙によるヒンジ固定を行った。

今年度は以下の作品のマット装を行った。

作者名	タイトル	制作年	技法	寸法 (cm)
吉田ふじを	フロリダ	1906年	水彩・紙	27.3×38.0
河合新蔵	ノウゼンカズラのある宿場		水彩・紙	32.2×56.0
鹿子木孟郎	綾瀬 (スケッチ)	1893年	鉛筆・紙	39.7×27.5
鹿子木孟郎	水車小屋		水彩・紙	33.5×49.2
栗原忠二	ダンス		グワッシュ・紙	24.2×34.7
野地正記	遊び	1968-70年	油彩・板	19.0×13.5
野地正記	○の顔	1975-77年	水彩・紙	13.5×19.0
野地正記	おぼけの国	1967-75年	水彩・紙	13.6×18.9
野地正記	日の出の顔	1977年	水彩・紙	13.3×18.9
野地正記	母の宇宙神	1970-78年	水彩・紙	53.3×37.4
浜口陽三	ぶどうとナイフ	1959年	メゾチント・紙	10.6×19.0
北川民次	丈のびするバツタ	1971年	エッチング・紙	20.6×14.8
北川民次	バツタ抱擁	1971年	エッチング、手彩色・紙	20.7×14.9
北川民次	バツタの楽園	1972年	エッチング・紙	18.7×10.5
北川民次	神殿の中のバツタ (2)	1972年	エッチング・紙	15.7×18.8
北川民次	バツタに乗る魔女	1970年	エッチング・紙	10.4×15.2
北川民次	神殿の中のバツタ (1)	1972年	エッチング・紙	18.8×10.4
北川民次	バツタと女	1971年	エッチング・紙	7.8×19.5
北川民次	バツタの夢 (小)	1975年	リトグラフ・紙	13.3×18.3
北川民次	美女とバツタ (2)	1972年	エッチング・紙	18.8×25.6
北川民次	手のひらの上のバツタ	1971年	エッチング・紙	14.5×20.5
北川民次	サボテンと女		エッチング・紙	17.5×14.8

V 利用者数

美術館総利用者数 111,342人

1) 展覧会 87,516人

展覧会観覧者数

(人)

展 覧 会	期 間	日 数	観 覧 者 数
古民藝もりの眼	平成 28 年 4 月 16 日～5 月 29 日	38	4,911
生誕 140 年 吉田博展	平成 28 年 6 月 4 日～7 月 24 日	44	20,865
西洋更紗 トフル・ド・ジュイ展	平成 28 年 8 月 6 日～9 月 11 日	32	7,952
もうひとつの輝き 最後の印象派	平成 28 年 9 月 17 日～10 月 30 日	38	6,992
MOA 美術館名品展	平成 28 年 11 月 5 日～12 月 11 日	32	12,097
コレクション探訪 英国紳士の審美眼	平成 29 年 1 月 21 日～3 月 20 日	51	3,135
企画展小計			55,952
常設展	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	302	3,620
企画展観覧券で常設展も観覧した人数		235	27,944
合 計			87,516

(内訳)

(人)

		企画展計	古民藝もりの眼	吉田博展	西洋更紗展	最後の印象派	MOA美術館名品展	英国紳士の審美眼	常設展	企画展観覧券で常設展も観覧した人数	
有 料	個 人	一 般	19,365	1,593	7,812	2,909	2,319	3,566	1,166	1,197	10,715
		高・大	658	41	178	189	94	82	74	100	394
		計	20,023	1,634	7,990	3,098	2,413	3,648	1,240	1,297	11,109
	団 体	一 般	266	8	117	23	57	59	2	89	211
		高・大	210	21	96	26	0	67	0	32	210
		計	476	29	213	49	57	126	2	121	421
	友の会	一 般	818	116	185	108	148	171	90	38	280
		高・大	13	1	4	1	1	5	1	2	2
		計	831	117	189	109	149	176	91	40	282
	合 計		21,330	1,780	8,392	3,256	2,619	3,950	1,333	1,458	11,812
無 料	高 齢 者	22,500	1,958	8,375	2,129	2,985	6,047	1,006	831	9,275	
	シ ル バ ー	243	39	54	31	41	50	28	8	70	
	一 般	145	0	0	0	0	0	145	209	0	
	高 ・ 大	5	0	0	0	0	0	5	14	0	
	中学生以下(個人)	1,355	103	331	473	135	231	82	399	600	
	中学生以下(団体)	3,672	122	2,023	1,036	239	224	28	450	3,645	
	減 免	80	70	0	0	0	10	0	70	208	
	ビ ラ 下 券	2,512	321	495	447	438	605	206	0	947	
	招 待 券	728	123	177	110	72	246	0	1	385	
	関 係 者	1,179	131	328	176	139	262	143	93	634	
	障 が い 者	1,273	134	459	145	174	291	70	32	174	
	療 育 / 精 神	392	67	73	71	73	60	48	32	93	
	同 伴 者	538	63	158	78	77	121	41	23	101	
	小 計	34,622	3,131	12,473	4,696	4,373	8,147	1,802	2,162	16,132	
合 計		55,952	4,911	20,865	7,952	6,992	12,097	3,135	3,620	27,944	

2) 教育普及事業 23,826 人

事業名	回数	参加者数	備考
アート・トーク	6	593	
講演会	5	493	
美術講座	9	394	
ギャラリートーク	17	499	
ワークショップ	7	197	
ミュージアム・シアター	8	593	
ミュージアム・コンサート	1	180	
風土記の丘の美術展	1	9,410	6日×5期 平成28年7月18日～8月21日
風土記の空	1	6,608	会期 平成28年11月10日～12月23日
鑑賞学習対応	55	4,845	幼稚園2園、小学校17校、中学校33校、 高校3校 計55校
博物館実習	1	5	期間 平成28年7月30日～8月10日
ジュニア・インターンシップ	1	9	期間 平成28年11月8日～10日
合計	112	23,826	

3) 過去5年間の利用者数推移状況

年 度	平成24(2012)	平成25(2013)	平成26(2014)	平成27(2015)	平成28(2016)	
総利用者数(人)	92,641	91,175	89,694	100,056	111,342	
展覧会	展覧会観覧者数(人)	76,192	68,351	66,669	82,202	87,516
	企画展本数(本)	6	5	5	5	6
普及事業	普及事業参加者数(人)	16,449	22,824	23,025	17,854	23,826
	普及事業回数(回)	56	52	59	52	112

4) 教育普及事業別参加者数推移状況

年 度		平成 24 (2012)	平成 25 (2013)	平成 26 (2014)	平成 27 (2015)	平成 28 (2016)	主な使用場所
アート・トーク	参加者数(人)	113	618	475	551	593	多目的スタジオ、講義室など
	回数	5	6	6	6	6	
講演会	参加者数(人)	584	373	385	526	493	多目的スタジオ
	回数	6	5	4	6	5	
美術講座	参加者数(人)	154	146	226	280	394	講義室、多目的スタジオ
	回数	9	7	8	6	9	
ギャラリートーク	参加者数(人)	423	336	362	375	499	企画展示室
	回数	14	10	12	10	17	
ワークショップ	参加者数(人)	280	594	384	322	197	多目的スタジオ、講義室、階段ホール、ロビー
	回数	6	10	11	10	7	
ミュージアムシアター	参加者数(人)	813	534	1,033	850	593	多目的スタジオ
	回数	12	8	10	9	8	
ミュージアムコンサート	参加者数(人)	180	170	174	185	180	多目的スタジオ、階段ホールなど
	回数	1	1	1	1	1	
朗読会	参加者数(人)	0	272	227	0	0	多目的スタジオ、階段ホール
	回数	0	2	3	0	0	
風土記の丘の美術展	参加者数(人)	6,682	11,584	10,205	6,757	9,410	ロビー
	回数	1	1	1	1	1	
風土記の空	参加者数(人)	3,611	3,491	4,429	2,923	6,608	ロビー
	回数	1	1	1	1	1	
鑑賞学習対応	参加者数(人)	3,602	4,700	5,115	5,080	4,845	企画展示室、常設展示室、多目的スタジオなど
	受入れ校数	37	75	69	59	55	
博物館実習	参加者数(人)	7	6	4	4	5	講義室など
	受入れ校数	4	6	4	4	4	
ジュニア・インターンシップ	参加者数(人)	3	4	3	1	9	講義室など
	受入れ校数	1	2	1	1	2	
職場体験	参加者数(人)	0	0	3	0	0	講義室など
	回数	0	0	1	0	0	

VI 管理運営

1) 関係法規・組織

郡山市立美術館条例

【設置】

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、市民の美術に関する知識と教養の向上を図り、文化の発展に寄与するため、美術館を設置する。

【名称及び位置】

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地130番地の2

【管理】

第3条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)は、郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、これを管理する。

【事業】

第4条 美術館の事業は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 美術品その他美術に関する資料(以下「美術品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会及び映写会等を開催すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業を行うこと。

【観覧料】

第5条 美術館の常設展(美術品等の常設展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第1に定める常設展観覧料を納入しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、常設展観覧料を無料とする。

- (1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する休日に観覧する場合
 - (2) 次項に定める企画展を観覧する場合
- 2** 美術館の企画展(常設展以外の展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第2に定める企画展観覧料を納入しなければならない。
- (平10条例35・一部改正)

【撮影等の許可及び特別観覧料】

第6条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術品等の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める特別観覧料を納入しなければならない。

【観覧料等の不返還】

第7条 既納の常設展観覧料、企画展観覧料及び特別観覧料(以下「観覧料等」という。)は、これを返還しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を返還することができる。

- (1) 観覧又は撮影等をしようとする者の責めによらない理由により、観覧又は撮影等ができなかったとき。
- (2) その他教育委員会が特別の理由があると認めたとき。

【観覧料等の免除】

第8条 市長は、公用又は公益上特に必要があると認めるときは、観覧料等の全部又は一部を免除することができる。

【入館の制限等】

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、教育委員会は、美術館への入館を拒み、又は退館させることができる。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 施設、設備又は美術品等をき損又は汚損するおそれがあると認めるとき。
- (3) この条例及びこれに基づく規則に違反し、又はそのおそれがあると認めるとき。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、管理運営上適当でないとき。

【賠償責任】

第10条 施設、設備又は美術品等をき損、汚損、又は滅失した者は、教育委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し又は免除することができる。

【美術館協議会】

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、美術館に郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から教育委員会が任命する。

3 委員の定数は、10名以内とし、その任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

【職員】

第12条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

【委任】

第13条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成4年7月1日から施行する。ただし、第5条から第9条の規定は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成10年郡山市条例第35号)

この条例は、平成10年10月1日から施行する。ただし、第5条第1号の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則(平成13年郡山市条例第31号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年郡山市条例第25号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成22年郡山市条例第78号)

(施行期日)

1 この条例は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日前に撮影等の許可を受けた者に係る特別観覧料の額については、なお従前の例による。

別表第1 【第5条関係】

(平10条例35・平13条例31・平22条例78・一部改正)

常設展観覧料

区 分	観 覧 料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき 100円	1人1回につき 70円
一 般	1人1回につき 200円	1人1回につき 150円

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 65歳以上の者は、無料とする。

別表第2 【第5条関係】

(平13条例31・平15条例25・一部改正)

企画展観覧料

区 分	観 覧 料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき1,500円の範囲内 でそのつと市長が定める額	
一 般		

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 団体観覧料は、個人観覧料の10分の8に相当する額とし、10円未満の端数が生じた場合は、これを10円に切り上げる。
- 3 65歳以上の者は、無料とする。

別表第3 【第6条関係】(平22条例78・一部改正)

特別観覧料

区 分	観 覧 料	
撮影	モノクローム	1点1回につき 1,600円
	カラー	1点1回につき 3,100円
模 写 模 造	1点1日につき	2,100円
熟 覧	1点1回につき	200円

備考

- 1 一双屏風は、一双以内を1点とする。
- 2 一揃えの卷子(巻物をいう。)は、一揃え以内を1点とする。
- 3 対幅は、対幅以内を1点とする。
- 4 写真撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

郡山市立美術館条例施行規則

【趣旨】

第1条 この規則は、郡山市立美術館条例(平成4年郡山市条例第29号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

【観覧券の交付】

第2条 郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、常設展観覧料を納入した者に対して郡山市立美術館常設展観覧券(第1号様式)を、企画展観覧料を納入した者に対してそのつど定める郡山市立美術館企画展観覧券を交付する。

【撮影等の許可】

第3条 美術品その他美術に関する資料の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、郡山市立美術館撮影等許可申請書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項に規定する撮影等を許可したときは、郡山市立美術館撮影等許可書(第3号様式)を申請人に交付する。

【観覧料等の返還】

第4条 条例第7条ただし書の規定により返還する観覧料等の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 観覧又は撮影等をしようとする者の責めによらない理由により、観覧又は撮影等ができなくなった場合
当該観覧料等の全額

(2) その他教育委員会が特別の理由があると認めた場合
教育委員会が認める額

2 前項に規定する観覧料等の返還を受けようとする者は、郡山市立美術館観覧料等返還請求書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

【観覧料等の免除】

第5条 条例第8条に規定する観覧料等の免除は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 市(市の機関を含む。)が主催する事業の活動として常設展を観覧する場合常設展観覧料を全部免除

(2) その他教育委員会が観覧料等を免除することが
適当と認める場合教育委員会が認める額

2 前項の規定により観覧料等の免除を受けようとする者は、あらかじめ郡山市立美術館観覧料等免除申請書(第5号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

3 教育委員会は、前項の規定による申請に基づき観覧料等の免除を決定したときは、郡山市立美術館観覧料等免除決定通知書(第6号様式)を申請人に交付する。

【開館時間】

第6条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、入館は午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めたとときは、これを変更することができる。

【休館日】

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めたとときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その翌日とする。)

(2) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

【遵守事項】

第8条 美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 施設、設備、美術品等をき損若しくは汚損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 所定の場所以外で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(3) 他人に危害又は迷惑をおよぼすおそれのある物品又は動物を持ち込まないこと。

(4) 風紀及び秩序を乱さないこと。

(5) その他職員の指示に従うこと。

【委任】

第9条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成6年教委規則第3号)

(施行期日)

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際、現に様式の規定に基づいて作成されている用紙は、この規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

附 則(平成15年教委規則第4号)

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前の様式の規定により作成されている用紙は、改正後の規則の様式の規定にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

郡山市立美術館協議会規則

【趣旨】

第1条 この規則は、郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)の会議運営について必要な事項を定めるものとする。

【招集】

第2条 協議会は、郡山市立美術館長(以下「館長」という。)が招集する。

2 会議開催の場所及び日時は、付議すべき事項とともに、あらかじめ委員に通知しなければならない。

【定例会及び臨時会】

第3条 協議会は、定例会及び臨時会とする。

2 定例会は年2回とし、臨時会は必要があるときに招集する。

【会長及び副会長】

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長及び副会長の任期は、2年とする。ただし、再選を妨げない。

【職務】

第5条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は

会長が欠けたときは、その職務を代理する。

【会議】

第6条 協議会は、委員の過半数で成立する。

2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長が決する。

【庶務】

第7条 協議会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の会議に必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規則は、平成4年7月1日から施行する。

郡山市美術品収集評価選定委員会設置要綱

【設置】

第1条 郡山市が収集する美術品を選定するにあたり、その適正な評価等を行うため、郡山市美術品収集評価選定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

【組織】

第2条 委員会は、委員8名以内で組織し、委員は、美術に関する専門的知識を有する者のうちから、教育長が委嘱する。

2 委員の任期は、2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

【委員長及び副委員長】

第3条 委員会に委員長及び副委員長1名を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は、委員長が欠けたときはその職務を代理する。

【会議】

第4条 委員会の会議は、教育長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 会議は次の事項について審議する。

(1)美術品の選定評価に関すること。

(2)美術品の寄託又は、寄贈に関すること。

(3)美術品選定のための資料の収集その他専門的な事項に関すること。

【庶務】

第5条 委員会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和63年6月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

2) 名簿(平成28年度)

郡山市立美術館協議会

◎会長 ○副会長

(任期：平成26年6月1日～平成28年5月31日)

- 齋藤 和代 郡山市立御代田小学校長
- 佐藤 俊彦 郡山市立熱海中学校長
- 刈屋 俊樹 福島県立あさか開成高等学校長
- 馬場 典枝 FMいわきパーソナリティ
- 宗像 利訓 本郷焼・宗像窯九代目
- ◎中村 亜都子 学校法人尚志学園高等学校
- 伊藤 匡 福島県立美術館学芸課長
- 瀬谷 賢次 福島交通郡山支社長
- 橋本 彰一 一般公募
- 三輪 万里子 一般公募

(任期：平成28年6月1日～平成30年5月31日)

- 木村 京子 郡山市立小泉小学校長
- 味原 悦雄 郡山市立郡山第一中学校長
- 鈴木 陸治 福島県立あさか開成高等学校長
- 馬場 典枝 FMいわきパーソナリティ
- 宗像 利訓 本郷焼・宗像窯9代目
- 高澤 俊郎 福島県立郡山養護学校教諭
- ◎中村 亜都子 学校法人尚志学園高等学校講師
- 伊藤 匡 福島県立美術館学芸課長
- 瀬谷 賢次 福島交通株式会社郡山支社長
- 鎌田 陽子 一般公募

郡山市美術品収集評価選定委員会

◎会長 ○副会長

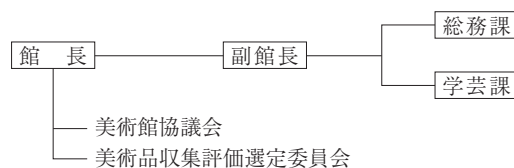
(任期：平成27年7月1日～平成29年6月30日)

- ◎金子 賢治 茨城県陶芸美術館長
- 佐々木吉晴 いわき市立美術館長
- 西村 勇晴 北九州市立美術館長
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部教授
- 古田 亮 東京芸術大学大学美術館准教授
- 早川 博明 福島県立美術館長
- 猿渡紀代子 横浜美術館特任学芸員

郡山市立美術館職員

- 参事兼館長 佐治 ゆかり
- 主幹兼副館長 佐藤 秀彦
- 主幹兼総務課長 神 彰
- 総務課主査 内島久美子
- 総務課主任用務員 柳沼 浩一
- 学芸課長 鈴木 誠一
- 学芸課主任主査 菅野 洋人
- 学芸課主任主査 中山 恵理
- 学芸課主任学芸員 杉原 聡
- 学芸課主任学芸員 永山多貴子
- 学芸課主査 富岡 進一
- 学芸員 田中有沙子
- 学芸員 新田 量子

■組織図



3) 建築設備概要・平面図・面積表

■敷地面積	38,420.24 m ²
[建築概要]	
■建築面積	3,776.52 m ²
■建築床面積	6,848.37 m ²
■駐車場面積	3,300 m ² 収容台数 乗用車 123 台 バス 8 台
■構造及び規模	鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階
■仕上	
外壁	杉小幅板本実化粧型枠ホワイトコンクリート打放し
屋根	ステンレス鋼板フッ素樹脂加工
サッシ	アルミ電解二次着色
展示室壁	カーテンウォール爪かけバックマリオン方式ペアガラス(二面サンドブラスト加工)
展示室床	不燃クロス貼ペンキ拭取仕上げ 木製フローリング(ホワイトオーク)
■設計	(株)TAK 建築・都市計画研究所
■設計協力	
基本計画・ガラスデザイン	川上喜三郎
木製家具デザイン	(株)方圓館 坂本和正
サインデザイン	永原浄デザイン研究所 永原浄
造園	(株)和泉屋・石のアトリエ 和泉正敏
■施工	
主体工事	大林・東洋特定建設工事共同企業体
電気工事	(株)ユアテック郡山営業所
空調和建設工事	高砂・菱和特定建設工事共同体
情報防火設備工事	(株)ニノテック
給排水設備工事	東北設備工業(株)
昇降機設置工事	フジテック(株)仙台営業所
■工期	着工：1990(平成2)年12月18日 竣工：1992(平成4)年6月30日
■建築費	40億円
[設備概要]	
■電気設備	
受電	3相3線、6KV、50Hz
変圧器	電灯：単相3線、210/15V、100KVA×3 動力：3相3線、210V、500KVA×2、300KVA×2
蓄電池	シール形鉛蓄電池 100AH/10HR
非常用発電機	ディーゼルエンジン 228PS、出力 3相 200V、180KVA
照明設備	白熱灯、高輝度放電灯、蛍光灯、紫外線防止型蛍光灯(演色 AAA 電球色、色温度 3000K)
■情報防災設備	
防災設備	自動火災報知機、防排煙、非常放送、誘導灯
防犯設備	ITV 監視装置(監視カメラ、14型カラーモニター・四分型)
その他	視聴覚設備、放送設備、中央監視設備

■空気調和設備

熱源設備

空冷ヒートポンプチラー(圧縮機 90KW)2台
暖房能力：220,000Kcal/h、冷房能力：283,700Kcal/h
水冷チラー(圧縮機 45KW)
暖房能力：185,000Kcal/h、冷房能力：141,000Kcal/h

空調設備

4管式恒温恒湿制御方式(収蔵庫系統)、4管式再熱制御方式(展示室系統)
VAV方式(普及部門諸室系統)
外調機+ファンコイルユニット方式(事務管理諸室系統)
空調機+ファンコイルユニット方式(エントランスホール・ロビー系統)

その他

自動制御設備、換気設備、機械排煙設備

■給排水設備

給水設備

圧力給水方式 受水槽 10 m³、副受水槽 1.5 m³

給湯設備

電気温水器(貯湯量 224ℓ、10KW)電気湯沸器(貯湯量 40ℓ、4KW)

消火設備

屋内消火栓、連結散水設備、ハロンガス消化設備(収蔵庫)

■くん蒸設備

常圧・減圧兼用式 4.0 m³、ミニガスボンベ脱着方式

■昇降機設備

乗用

750Kg、11人乗り(車椅子対応)

荷物用

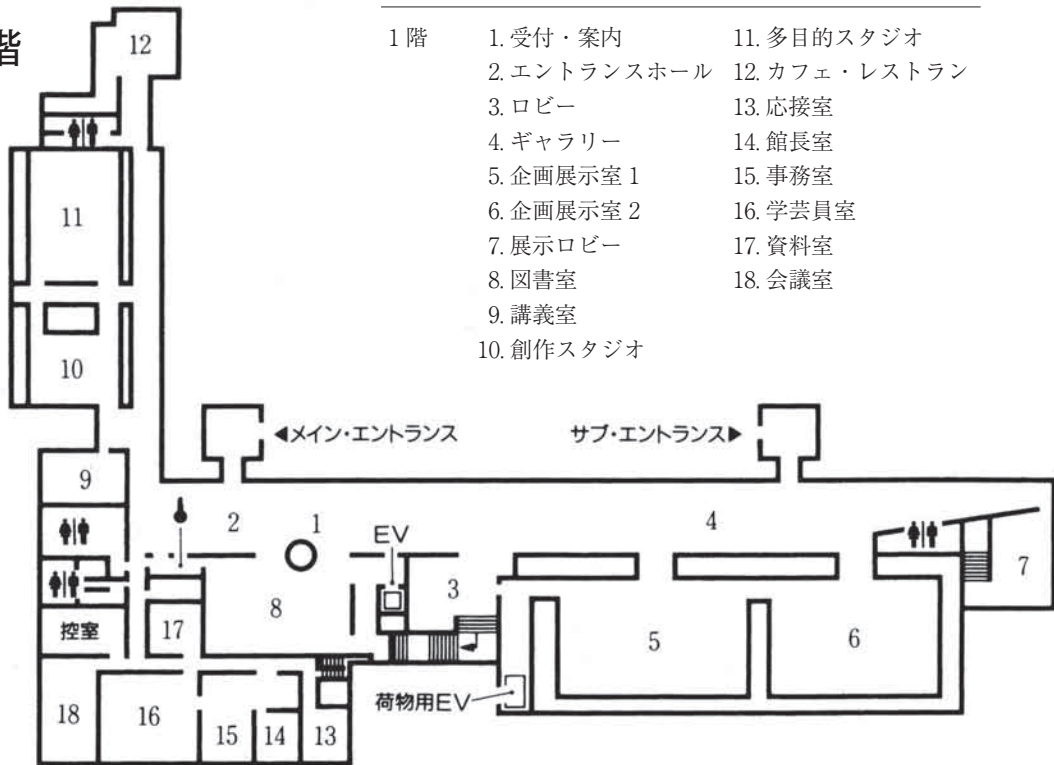
3,000 Kg、油圧加速制御

テーブルリフター

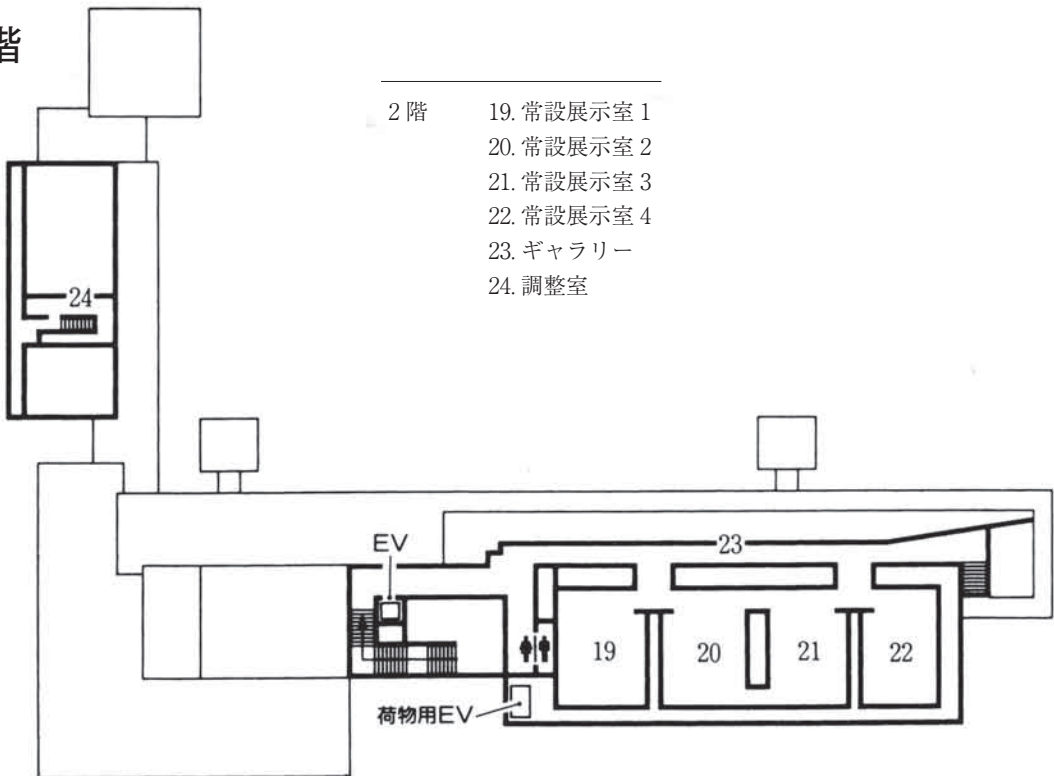
2,000 Kg

■平面図・面積表

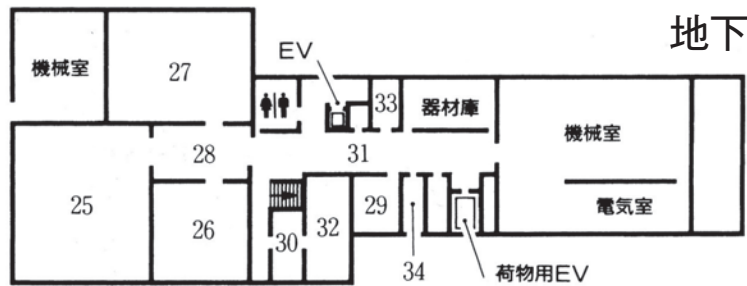
1階



2階



- 地下
- 25. 収蔵庫 1
 - 26. 収蔵庫 2
 - 27. 収蔵庫 3
 - 28. 収蔵庫前室
 - 29. 修復室
 - 30. 中央監視室
 - 31. 荷解場
 - 32. トラックヤード
 - 33. くん蒸室
 - 34. 清掃員室

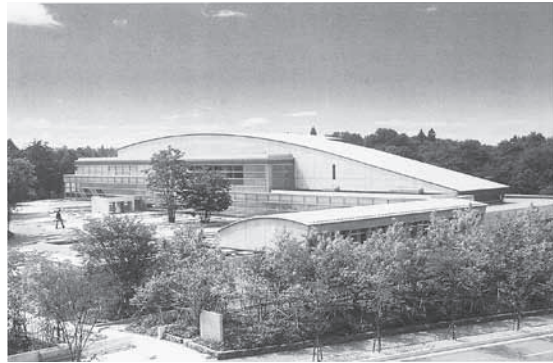


部門名	面積	階	室名	面積
展示部門	2,330.38 m ²	2	常設展示室 1~4	932.51 m ²
		1	企画展示室 1~2、展示ロビー	1,333.24 m ²
		B1・1	器材庫、エレベーター前室	64.63 m ²
収蔵部門	1,040.28 m ²	B1	収蔵庫 1~3	618.35 m ²
		B1	収蔵庫前室	61.48 m ²
		B1	器材庫	69.25 m ²
		B1	荷解場	238.71 m ²
		B1	くん蒸室	19.10 m ²
		B1	修復室	33.39 m ²
教育普及部門	570.34 m ²	1	多目的スタジオ	196.42 m ²
		1	創作スタジオ	122.40 m ²
		1	講義室	56.87 m ²
		1	図書室 (ビデオコーナーを含む)	194.65 m ²
研究研修部門	117.45 m ²	1	学芸員室	117.45 m ²
管理部門	852.19 m ²	B1	中央監視室	24.22 m ²
		B1	機械室	520.43 m ²
		1	事務室	79.85 m ²
		1	館長室	32.48 m ²
		1	会議室	73.92 m ²
		1	応接室	38.10 m ²
		B1・1	控室	54.52 m ²
		1	資料室	28.67 m ²
サービス部門	702.62 m ²	1	エントランスホール	222.77 m ²
		1	ギャラリー	344.72 m ²
		1	ロッカールーム	16.69 m ²
		1	カフェ・レストラン	118.44 m ²
その他	1,235.11 m ²	B1・1・2	廊下、階段、便所、その他	1,235.11 m ²
計	6,848.37 m ²			6,848.37 m ²

4) 利用案内

■所在地

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
 Tel : 024-956-2200 Fax : 024-956-2350
 E-mail : bijutsukan@city.koriyama.fukushima.jp
 ホームページ
<http://www.city.koriyama.fukushima.jp/bijutsukan/>



■開館時間

午前9時30分～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)
 年末年始(12月28日～1月4日)

■交通案内

- 郡山駅から美術館まで約4Km
- 乗用車 駐車場(123台、バス8台収容・料金は無料)
- バス
 郡山駅前5番のりばから『美術館経由東部ニュータウン』行きに乗車。(所要時間10分)



■観覧料

	常設展		企画展	
	個人	団体 (20名以上)	個人	団体 (20名以上)
一般	200円	150円	規模・内容等に応じて、 その都度定めた額	
高大生	100円	70円		
65歳以上	無料			
中学生以下				
障害者手帳をお持ちの方	無料(手帳を提示)			

郡山市立美術館年報

平成28年度

平成29年8月31日発行

発行 郡山市立美術館

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2
 TEL 024-956-2200 FAX 024-956-2350
 E-mail bijutsukan@city.koriyama.fukushima.jp